

第二十九條 患者及ヒ死體若クハ瀉下物ニ汚染シタル物品ヲ運ヒタル諸器ハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ灌注シ更ニ石鹼水若クハ沸湯ヲ以テ洗滌スベシ

第三十條 病室内ニ用ヒタル什具及ヒ醫用器械等ハ稀薄石炭酸水(第二)或ハ亞硫酸溶液(第十乙)ヲ注キ然ル後沸湯ニテ洗淨スベシ

第六 厠園溝渠等消毒法

第三十一條 患者ノ入りタル厠園ハ他人ノ入ルヲ禁シ亞硫酸溶液(第十甲)或ハ硫酸鐵合劑(第五)ヲ注キ其瀉下物ハ速ニ之ヲ汲取り人家遠隔ノ地ニ搬送スベシ而シテ其糞壺ニハ復タ同様ノ消毒法ヲ行フベシ

第三十二條 糞壺及ヒ桶ノ破壊シテ病毒滲漏ノ疑アルモノハ之ヲ掘除ク其周圍ノ土ヲ掘取リ濃厚石炭酸水(第一)或ハ亞硫酸溶液(第十甲)ヲ充分ニ灌注シ人家遠隔ノ地ニ搬送シテ埋却スベシ

但消毒藥ノ量ハ其壺中糞量五分一乃至三分一ナルベシ

第三十三條 若シ誤テ吐瀉物ヲ溝渠下水等ニ投棄スルコトアルキハ充分ニ亞硫酸溶液(第十甲)或ハ硫酸硫酸鐵合劑(第六)ヲ注キ其淤泥ノ撈ヘ得ベキモノハ之ヲ撈ヘテ人家遠隔ノ地ニ搬送シテ埋却スベシ或ハ多量ノ水ヲ灌キテ疏通セシムベシ

但本條ノ如キ場所ニ於テ既ニ病毒ヲ混入スルキハ消毒法モ其功ヲ奏シ難ク終ニ増殖ヲ致サシムベシ故ニ豫メ戒諭シテ誤テ之ニ投棄シ或ハ陰ニ投棄スル等ノ事ナカシムルヲ要ス

實布埤利亞

實布埤利亞ハ一種ノ猛烈ナル傳染病ニシテ其毒ハ患者ノ痰唾、涕汁等ニ舍トリ又呼出スル所ノ空氣モ其毒ヲ包含スルヲ以テ之ニ觸ル、時ハ老少ニ論ナク皆之ニ感スルモノナリ而シテ幼稚ノ若ハ之ニ懼ルコト最モ多クシテ且ツ危險ナリトス抑々此病毒ハ其發生時季ヲ擇ハス又風土ニ關涉スルコトナク不斷散在スルコトアリ又一時ニ廣ク流行スルコトアリ此症ハ必ス咽喉ニ發スルモノニシテ之カ爲メニ其部ノ壞爛ヲ致シ甚シキモノハ須臾ニシテ斃ル故ニ從來喉風、喉痺、馬痺風、纏喉風、咽氣ト唱フルモノ、中亦往々之レ有リ此病ハ患者ニ觸接セサルモ尙ホ感染ノ恐アルモノニシテ且ツ其毒久ク消滅セサルカ故ニ隔離消毒ノ方法ヲ忽ニスヘカラス

第一項 清潔法

第一條 此病流行ノ際ハ務テ一般清潔法ニ注意シ既ニ發病スルキハ其室内ノ掃除ヲ怠ルヘカラス家屋、衣服等清潔ニシテ且ツ隔離法充分ナルキハ廣ク流行ニ至ラスシテ消熄スルヲ得ヘシ

第二項 攝生法

第二條 此病ハ殊ニ咽喉ヲ侵スモノニシテ既ニ些少ノ咽喉炎アルモノハ自カラ侵襲ヲ被リ易シ故ニ專ラ口内、喉頭、氣管等ノ炎症ヲ誘發スヘキ事件ヲ戒メ常ニ含漱スルヲ良トス

但其誘發スヘキ事件トハ頸圍ヲ温保セシモノ驟カニ寒冷ニ胃觸シ或ハ背烈ノ飲食

料ヲ用ヒ或ハ高談放歌シ或ハ幼稚ヲシテ頻ニ號泣セシメ及ヒ小學校ニ於テ妄ニ高聲ヲ發シ讀書唱歌セシムル等コシテ皆宜ク之ヲ戒シムヘシ

第三項 隔離法

第三條 醫師ノ實布埜利亞ト診斷スルルハ其家ノ門戸ニ病名票ヲ貼附スヘシ

但患者治癒或ハ死亡若クハ避病院ニ送致シ其病室ニ消毒法ヲ行ヒタル後ハ即チ其病名票ヲ去ルヘシ

第四條 此病ハ患者ニ接觸シ或ハ患者ノ痰唾ニ汚染セル物品若クハ室内ノ空氣ヨリ傳染スルヲ以テ患者ハ速ニ之ヲ隔離シ看護人ノ外ハ漫ニ接近セシム可ラス殊ニ小兒ヲ遠サシヘシ

但室内ノ空氣ハ常ニ清鮮ナラシムルヲ要ス

第五條 病兒ハ健兒ト共ニ遊戲セシムヘカラス又學校等ニ行カシムヘカラス

第六條 病室内ニハ不用ノ衣服及ヒ器具ヲ置クヘカラス

第七條 患者ノ用フル所ノ飲食器及ヒ玩具等ハ他人ト共用スヘカラス

第八條 若シ其流行ノ勢ヒ盛ニシテ避病院ヲ要スルコトアルルハ普通病院ヲ區隔シ或ハ相當ノ室屋ヲ以テ之ニ充ル等其便宜ニ任スヘシ

第九條 避病院ヲ設ルルハ別ニ清淨ナル屍室ヲ設ケ患者死亡シタルル之ニ移スヘシ

但屍室ハ親族ノ吊者ヲ入ルカ爲メ豫メ其餘地ヲ設クヘシ
第十條 避病院ニ在ル患者ノ親戚又ハ別段ノ交誼アル者看護ヲ爲サントシテ望ムルハ之

ヲ許スヘシ

但屢々交替スルハ許スヘカラス

第四項 消毒法

第十一條 此病毒ハ患者ノ痰唾及ヒ呼氣或ハ涕汗等皆之カ傳送物タリ故ニ此等ノ排泄物ニ汚染シタル物ハ必ス消毒法ヲ行フヘキモノトス

第十二條 消毒法ハ其物ニ從テ區別スルコト左ノ如シ

第一 患者及ヒ看護人等消毒法

第十三條 患者治癒ノ後他人ト交通シ又ハ避病院ヨリ退出ノ節ハ必ス沐浴シ石鹼水ヲ用テ全身ヲ洗ヒ他ノ衣服若クハ消毒法ヲ施シタル衣服ヲ著スヘシ看護人及ヒ避病院ノ醫師、看護人、死體取扱人等ノ他人ニ接スルルモ亦此法ニ從フヘシ

第十四條 自宅患者ヲ往診セル醫師及ヒ患者ノ家人コシテ直接セサル者親戚朋友ノ一時見舞タル者等其室ヲ出ルルハ必ス盥漱スヘシ

第二 死體及ヒ排泄物等消毒法

第十五條 死體ハ醫師確認ノ後速ニ棺内ニ歛メシムヘシ若シ濃厚石炭酸水(第一)ニ浸シタル綿ヲ以テ口鼻ヲ栓塞スルコトヲ得ハ最良トス

但死體ハ成タケ火葬スルヲ良トス

第十六條 痰唾及ヒ涕汗等ヲ拭ヒタル手巾及ヒ紙綿布ノ類ハ悉皆取集メ之ヲ燒却スヘシ

但水分剰多ニシテ燒盡シ難キハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ注キ人家遠隔ノ地ニ搬送シテ埋却スベシ

第三 衣服臥具等消毒法

第十七條 衣服、臥具ノ甚シク汚穢シタルモノハ之ヲ燒却スルヲ良トス其儘ニ穢レタルモノハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ注キ浸シ置ク一二十四時間ニシテ更ニ沸湯ヲ注キ且ツ洗滌シ日光ニ曝スヘシ或ハ亞硫酸瓦斯(第九)ヲ以テ薰蒸セシ後日光及ヒ大氣ニ曝スヘシ

第四 家屋船舶等消毒法

第十八條 此病毒ハ極テ頑強ニシテ善ク粗澁ナル物ニ附着スルカ故ニ最モ注意シテ下條ノ消毒法ヲ充分ニ行フヘシ

第十九條 患者及ヒ死體ヲ置タル病室ノ疊、蓆類ハ之ヲ柱ニ倚セ掛ケ戸棚等ヲ開放シ窓戸ヲ密閉シテ六時乃至八時間亞硫酸瓦斯(第九)ヲ薰シ然ル後窓戸ヲ開キ疊、蓆、壁障子等ニハ更ニ稀薄石炭酸水(第二)ヲ撒布シ或ハ之ヲ以テ拭淨シ其他棚架及ヒ板敷等ハ石鹼水又ハ沸湯ヲ以テ洗淨シ充分大氣及ヒ日光ニ曝スヘシ避病院ノ病室、屍室及ヒ普通病院ヲ區隔セシ病室又ハ臨時假用セル家屋モ亦之ニ倣フヘシ

但亞硫酸ノ爲メニ其色質ヲ變化スルノ恐アルモノハ石炭酸蒸氣(第三)或ハ熱氣消毒法等ヲ撰用スヘシ

第五 什具運搬器等消毒法

第二十條 病室ニ用ヒタル稀具飲食器及ヒ玩具等ノ甚シク汚穢シタルモノハ之ヲ燒却スヘシ其燒却スヘカラサルモノハ稀薄石炭酸水(第二)或ハ亞硫酸溶液(第十甲)ヲ澆キ然ル後石鹼水又ハ沸湯ヲ以テ洗淨スヘシ其洗フヘカラサルモノハ病室ニ消毒法ヲ行フノ際其内ニ排列シ(濕潤ニ堪フヘキモノハ之ヲ濕スヲ良トス)亞硫酸瓦斯(第九)或ハ石炭酸蒸氣(第三)ニテ一時間薰蒸スヘシ然ラサレハ室外ヘ出スヘカラス

第二十一條 患者ノ玩弄セシ圖書書籍ノ類ハ之ヲ播展シ石炭酸蒸氣(第三)或ハ亞硫酸瓦斯(第九)ヲ薰蒸スヘシ

第二十二條 患者及ヒ死體ヲ運搬セシ器具等ハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ澆注シ更ニ石鹼水若クハ沸湯ヲ以テ洗淨スヘシ其舂舟ノ如キハ海水ヲ以テ洗フモ可ナリ

第二十三條 醫術器械等ノ木製及ヒ金屬製ニシテ病毒ニ接觸シタルモノ例ヘハ壓舌鏡ノ如キハ總テ稀薄石炭酸水(第二)ヲ以テ洗フヘシ

發疹室扶私

發疹室扶私(英名泰扶私)ハ特異ノ揮發性傳染毒ニシテ飢饉熱、軍陣疫、囚獄熱等ノ稱アリ從來腐敗熱、神經熱、發斑熱、溫疫、傷寒ト唱ヘシモノ、中ニモ亦此病アルヲ多シ其病タルヤ地方ヲ撰ハス氣候ニ關セス流行スルト雖モ多クハ衆人群集大氣流通ノ不佳ナル所ニ萌動シ衣服身體ノ不潔或ハ飲食ノ不良不足及ヒ過度ノ勞力、露臥、夜行其他身體ヲ衰弱セシムル事項ヲ誘因トシ傳染蔓延スルモノナリ其流行スルニ及テハ貴賤老幼ノ別ナク其誘因アルカ或ハ隔離法ノ行届カルヨリ倍々傳染ノ勢ヲ盛ニシ動モスレハ年々亘

リ消滅セサルコトアリ故ニ此病ノ豫防法ハ最モ忽ニスヘカヲサルモノトス

第一項 清潔法

第一條 發疹室扶私ノ病毒ハ不潔、狹隘、空氣ノ汚濁ヨリ生スルモノナレハ其發現スルニ當テ囚獄、兵營及ヒ製造所、貧院、棄兒院其他群集雜居稠密ノ場所ハ勿論一般ノ家屋グリ凡掃除ニ怠ラス務テ清潔ニシテ且ツ空氣ヲ疏通セシムヘシ最モ其身體ニ切ナル清潔法ヲ至要トシ日々沐浴シ衣服ノ洗濯ヲ怠ルヘカラス殊ニ病毒ノ發生ヲ助クヘキ一切ノ汚穢物即チ廁圈、芥溜、溝渠等ノ掃除ニ注意ヲ加フヘシ

第二條 避病院病室ニ於テ用フル所ノ臥具ハ無色若クハ淡色ノモノヲ要スヘシ其汚染ノ見易キカ爲メナリ自宅療養ノ者モ亦同様ノ注意ヲ要スヘシ

第二項 攝生法

第三條 此病ニ感スルノ素因ハ各人多クハ之ヲ有スト雖モ就中飢饉ノ窮民、軍陣ノ兵卒、監獄ノ囚徒等ノ如キハ其居處及ヒ攝生ノ不良ナルヨリ此病ニ罹ルモノ多シトス夫レ飢饉ノ時ニ當テハ攝生ノ事皆其宜キヲ得スト雖モ其最モ甚シキハ食物ノ不足ト不良トニアリ故ニ衛生官吏ハ務テ其食品中成ダケ滋養分多キモノヲ撰ヒ有害ノ物ヲ指示シテ之ヲ避ケシムヘシ

第四條 兵卒ノ軍陣ニ在ルルハ固ヨリ攝生ノ方ヲ講スルニ遑ナカルヘシト雖モ若シ一人發病スルルハ直チニ全軍ニ波及スルノ虞アルヲ以テ成ルダケ無用ノ露臥過勞ヲ慎ミ且ツ飲料ノ良否ニ注意ヲ加フヘシ囚獄、懲役場ノ如キハ流行ノ際殊ニ空氣ノ流通

及ヒ其食場ニ注意ヲ加ヘ工役等モ過度ナラシメサルヲ要ス一旦病毒ノ蔓延スルニ至テハ高貴豪富ノ人ト雖モ猶其傳染ヲ免ルル能ハス是各人其素因アルヲ證スルニ足ル故ニ此時ニ當テハ務テ身體ノ溫度ヲ適宜ニ保持シ飲食ヲ攝シテ過度ノ勞力ヲ爲スヘカラス且ツ夜氣、風雨等ノ感冒及ヒ身體ヲ衰弱セシムルノ諸件ヲ戒ムヘシ

第三項 隔離法

第五條 醫師發診室扶私ト診斷シタルルハ直チニ其家ノ門戸ニ病名票ヲ貼附スヘシ但患者治癒又ハ死亡若シハ避病院ニ送致シ其室ニ消毒法ヲ行ヒタル後ハ即チ其病名票ヲ去ルヘシ

第六條 發疹室扶私ハ其毒揮發性ニシテ患者ノ皮膚、蒸發氣、呼氣ヨリ發スルモノナレハ直チニ患者ニ接觸セサルモ尙ホ之ヲ感受スルコトアリ故ニ患者ノ身體ヲ以テ皆病毒ナリト看做スヘシ又患者數名ヲ狹隘ノ一室ニ入ルルハ病毒稠厚トナリ感染ノ勢益々烈シ此室内ニ入ルモノ忽チ其病害ヲ受ルノ恐アリ故ニ患者ハ速ニ之ヲ隔離シ且相當ノ廣室ニ移サ、ルヘカラス

第七條 病室ハ適宜ニ窓戶ヲ開キ換氣法ニ注意シ常ニ其内ノ空氣ヲ清鮮ナラシメ看護人ノ外必ス接近セシムヘカラス

第八條 家族中ニ於テモ看護人ヲ定メ止ムヲ得サル事故アルノ外他人ト交通ヲ絶チ又老幼等ハ成ダケ速ニ他家ヘ避退セシムヘシ否ラサレハ音ニ其害ヲ受ルノミナラス之カ媒介トナリ大ニ傳播スルノ恐アレハナリ

但家人ト雖モ要用アルノ外其室内ニ入ルヘカラス若シ外人ノ要用アリテ來ルルハ
戶外ニ於テ之ヲ辨スヘシ且ツ看護人ハ成ダケ更換スヘカラス是レ其揮發毒ノ衣服
等ニ附着シテ廣ク他人ニ傳染スレハナリ

第九條 病室内ニハ不用ノ器具ヲ置クヘカラス殊ニ毛布ノ類ハ其病毒ヲ包含シ易キカ
故ニ必要ノ外決シテ之ヲ置クヘカラス

第十條 此病ハ死體ヨリモ尙ホ其病毒ヲ發出シ以テ感染セシムルノ例少ナカラス故ニ
死體ニハ速ニ消毒法ヲ行フヘシ死體ニ沐浴セシメ或ハ屍傍ニ接近スル等ノ一ハ決シ
テ爲スヘカラス

第十一條 患者治癒死亡ノ後ハ病室ニ消毒法ヲ行ヒ數週間窓戸ヲ開放シ風氣ヲ流通ス
ヘシ蓋シ消毒ノ後ト雖モ即チ室内ニ起臥スルルハ傳染ノ恐ナキニアラサルカ故ナリ
第十二條 船舶中ニ此病ヲ發スル者アルルハ速ニ其室ヲ異ニシ看護人ノ外交通ヲ絶ツ
一尙ホ人家ニ於ルカ如クスヘシ

但此病ハ動モスノハ衆人群集セル船室ニ發シ又船中飲食ノ不潔不足等其素因トナ
ルカ故ニ若シ患者アラハ速ニ之ヲ隔離シ室内ノ清潔法ニ注意スヘシ

第十三條 製造所、會社、學校、旅店等其衆人群集ノ處ニ於テ發病セシ者アラハ成ク
ケ速ニ之ヲ避病院ニ送ルヲ良トス若シ避病院ナク他ニ相當ノ空屋アラハ直チニ此ニ
送致スヘシ然レモ其發病セシ所ノ室廣潤ニシテ且ツ他人ト充分ニ隔離スルヲ得ハ必
シモ他ニ送ルヲ要セサルヘシ

第十四條 避病院ノ位置ハ人家ニ接近セズ且ツ恒風ノ上ニアラサル地ヲ撰ヒ必ス往來
繁多ノ路傍等ニ置クヘカラス

但其門前ニ高ク病名標旗ヲ掲クヘシ
第十五條 避病院ノ建築ハ簡易ヲ旨トシ善美ヲ要セス是レ流行終熄ノ後燒却スルヲ良
トスレハナリ

第十六條 避病院ノ病室ハ最モ潤大ナルヲ要スル故ニ患者一人ニ二坪半ト見積リ其人
數ノ概計ハ虎列刺第三十四條ニ載セタル割合ニ從ヒ之ヲ設クヘシ其他醫師詰所、事
務所、看護人休息所並ニ簡易ニ盥室蒸室等ヲ設クヘシ(虎列刺第三十六條參照)

第十七條 避病院ノ門側ニ輕易ナル風呂ヲ置キ看護人、見舞人等退出ノ時必ス之ニ浴
セシムルヲ良トス又病室ハ空氣ヲ流通セシメンカ爲メ窓戸ヲ開キ冬時ハ暖爐ヲ置キ
其溫度ヲ適宜ニシテ空氣ノ代謝ヲ助クヘシ

但患者退院若クハ死亡スルノ後ハ毎回其病室内ニ消毒法ヲ行フヘシ
第十八條 避病院ニハ清淨ナル屍室ヲ設ケ患者若シ死亡シタルルハ直チニ之ニ遷シ病
室ニ畱置クヘカラス

但其屍室ニハ親族ノ吊者ヲ入ルカ爲メ其餘地ヲ設クヘシ其吊者ハ成クケ速ニ來ル
ヘキ手續ヲ爲スヲ要ス此病ハ死體モ亦發毒ヲ逞フスルモノナレハ必ス久ク留置ク
ヘカラス

第十九條 人家稀疎ノ村落ニ於テハ必スシモ避病院ヲ要セス若シ相當ノ空屋アラハ之

ヲ假用シ或ハ苦尋等ノ屋舎ヲ假設スルモ可ナリ

第二十條 尋常ノ病院ニハ決シテ此患者ヲ入ルヘカラス若シ院内ニ從來傳染病室ノ設アリテ充分ニ隔離法消毒法ヲ行ヒ得ヘキノ目的アルモノハ入院ヲ許スヘシト雖モ尋常ノ病院ヲ區隔シ之ヲ用フヘカラス

第二十一條 避病院看護人ノ員數ハ重症ノ患者ニハ二人コ一人ヲ附シ輕症ノ者ニハ四人コ一人ヲ附シ其快復ニ趣ク者ニハ六人コ一人ヲ附スル割合ヲ以テ便宜斟酌シ且ツ晝夜交代セシムヘシ

但看護人ニハ其表記アル衣服ヲ着セシメ且ツ成ダケ其人ヲ更換セシムヘカラス
第二十二條 避病院ニ在ル患者ノ親族又ハ別段ノ交誼アル者看護ヲ爲サソフヲ望ムルハ之ヲ許スヘシ

但其看護人ハ多數ヲササルヲ要シ且ツ屢々更替スルヲ許スヘカラス
第二十三條 避病院ニ携ヘ來リシ衣類手道具等ハ別室ニ置クヲ良トス

第二十四條 患者ノ親族又ハ別段ノ交誼アル者來訪スルモ成ダケ室内ニ入ルヲ許サルヲ良トス

第二十五條 此病ハ揮發性ニシテ一時ニ衆人ヲ侵シ若シ一人發病スルキハ其衣服等ニ附着セル病毒忽チ傳播シ大ニ流行ノ媒介トナルヲ以テ流行ノ際ニハ成ダケ衆人群集スルノ事業ヲ差止メ且ツ社寺參拜等ノ爲メ多人數旅行スルヲ差止ルヲアルヘシ

第四項 消毒法

第二十六條 此病毒ハ患者及ヒ死者ノ身置ヨリ發シテ衣服、臥具、器具ハ勿論居室ノ塵、席、屏障等ニ至ルマテ盡ク附着シテ其病毒久ク潛匿スルモノナレハ病體及ヒ死體ニ近接セルモノハ都テ病毒ト同視シ消毒法ヲ行フヲ要ス

第二十七條 消毒法ハ其物ニ從テ區別スルヲ左ノ如ク
第一 患者及ヒ看護人等消毒法

第二十八條 患者治癒ノ後始テ他人ト交通シ又ハ避病院ヨリ退出ノ節等ハ必ス沐浴シ石鹼水ヲ用テ全身ヲ洗ヒ他ノ衣服若クハ消毒法ヲ施シタル衣服ヲ着スヘシ看護人及ヒ患者死體運搬人並ニ避病院ノ醫師、死體取扱人及ヒ船中ニテ患者ト同席セシ者等他人ト交通スル時モ亦此法ニ從フヘシ

第二十九條 自宅患者ヲ往診セシ醫師及ヒ患者ノ家人ニシテ直接セサル者親戚朋友ノ一時見舞タル者ハ成ダケ石鹼水或ハ醋水ニテ顔面及ヒ手ヲ洗拭スヘシ

第二 死體及ヒ排泄物等消毒法

第三十條 死體ハ充分ニ稀薄石炭酸水(第二)ニ浸シタル單衣若クハ綿布ヲ以テ之ヲ包ミ速ニ棺内ニ斂ムヘシ
但死體ハ成ダケ之ヲ火葬スルヲ良トス

第三十一條 西洋形船舶航海中ニ死者アルキハ速ニ濃厚石炭酸水(第一)ニ浸シタル單衣若クハ綿衣ヲ以テ之ヲ包ミ假ニ棺内ニ斂メ通常屍室或ハ船中適宜ノ場所ヲ見計ヒ此ニ入レ置キ時々濃厚石炭酸水(第一)ヲ濯水スヘシ

但陸地ニ着スルハ速ニ其地方ノ警察官吏衛生委員ニ届出處分スベシ
第三十二條 此病ハ必シモ排泄物ヨリ傳染セスト雖モ空氣ヲ汚スノ恐アルヲ以テ成タ
ケ速ニ之ヲ取除ケ病室内ニ留置ベカラス

第三 衣服臥具等消毒法

第三十三條 患者ノ久ク着タル衣服、臥具ノ汚垢ニ染ミタル者又ハ死體ニ直接シタ
ル臥具、避病院ニテ用ヒタル臥具、蚊帳等ハ成クケ焼却スルヲ良トス其焼却ヲ憚ルベ
キモノニシテ洗濯スベキハ之ヲ桶ニ入レ稀薄石炭酸水(第二)ヲ濯キ浸シ置ク一二十
四時間コシテ更ニ沸湯ヲ注キ四五分時ヲ經ルノ後水ヲ以テ洗淨シ日光ニ曝スベシ石
炭酸等若シ缺乏スルハ熱湯中ニ入レ一時以上煮沸スベシ

第三十四條 同前ノ品種ニシテ洗濯スベカラサルモノハ亞硫酸瓦斯(第九)石炭酸蒸氣
(第三)ヲ以テ薰蒸シ或ハ熱氣消毒法ヲ行ヒシ後日光及ヒ大氣ニ曝スベシ

第四 家屋船舶等消毒法

第三十五條 患者及ヒ死體ヲ置キタル室ノ疊蓆類ハ之ヲ柱若クハ壁ニ倚セ掛ク戸棚等
ヲ開放シ室内ニアリシ諸器具ハ之ヲ排列シ窓戸ヲ密閉シテ六時乃至八時間亞硫酸瓦
斯(第九)ヲ薰シ然ル後窓戸ヲ開キ病毒附着ノ恐アル柱、板敷等ヲ稀薄石炭酸水(第二
)ヲ撒布シ更ニ之ヲ拭淨シ其他器具ハ石鹼水又ハ沸湯ヲ以テ洗淨シ充分大氣及ヒ日
光ニ曝スベシ避病院ノ病室及ヒ屍室モ亦之ニ倣フベシ
但金銀器、書畫其他彩色ヲ施セル物及ヒ絹帛等亞硫酸ノ爲メニ其色質ヲ變化スル

ノ恐アル者ハ初ニ之ヲ取除ケ別ニ石炭酸蒸氣(第三)或ハ熱氣消毒法等ヲ適宜撰用
スベシ

第三十六條 患者アリタル西洋形船舶ハ其處置尋常ノ家屋ニ大異ナシト雖モ下等客盛
ニ至テハ衆多ノ乘客皆積荷ノ間ニ枕藉シ幾シト彼我ノ別ナキカ故ニ若シ其中ニ發病
者アルハハ滿室ノ乘客、積荷、手荷物ハ皆病毒ニ浸染シタル者ト看做シ乘客、手荷物
ハ上陸ノ時充分ニ消毒法ヲ行ヒ積荷ハ其儘其室ニ於テ六時乃至八時間亞硫酸瓦斯(第
九)或ハ品種ニヨリ石炭酸蒸氣(第三)ヲ薰スルノ後ニ非サレハ陸揚スルヲ許サス
第三十七條 日本形小船ハ前條ヲ斟酌シテ消毒法ヲ行ヒ海水ヲ以テ普ク船身ヲ洗フベ
シ

第三十八條 尋常家屋ヲ避病院ニ借用セシモノハ其病室トナセシ部分ハ亞硫酸瓦斯(第
九)ヲ薰セシ後稀薄石炭酸水(第二)或ハ亞硫酸溶液(第十乙)ヲ洒キ石鹼水ヲ以テ
洗淨スベシ

第三十九條 病室ハ不斷換氣法ニ注意スベシ是亦多少消毒ノ効アルモノトス
第四十條 避病院ハ流行ノ後成クケ焼却スルヲ良トス否ヲサレハ先ツ汚穢シタル板敷

、板壁及ヒ柱等ハ濃厚石炭酸水(第一)又ハ亞硫酸溶液(第十甲)ヲ以テ充分ニ洗淨シ
數日間開放シテ大氣ニ曝シ然ル後之ヲ取毀ツベシ

第五 什具運搬器等消毒法

第四十一條 病室ニ用ヒタル什具ハ總テ稀薄石炭酸水(第二)或ハ亞硫酸溶液(第十乙)

ヲ濯キ然ル後石鹼水又ハ沸湯ニテ洗淨ヌヘシ其洗フヘカヲサルモノハ病室ニ消毒法ヲ行フノ際其内ニ排列シ(濕潤ニ堪フヘキモノハ之ヲ濕ヌキ良トス)亞硫酸瓦斯(第九)或ハ石炭酸蒸氣(第三)ヲ以テ一時間薰蒸スベシ

第四十二條 書籍新聞紙ノ類病室ニアリタルハ之ヲ緋展シ石炭酸蒸氣(第三)若クハ亞硫酸瓦斯(第九)ヲ薰スヘシ或ハ熱氣消毒法ヲ行フモ可ナリ

第四十三條 醫術器械及ヒ職人手道具其他木製、金屬製、陶製、漆製、ノ諸器類ハ總テ稀薄石炭酸水(第二)ヲ以テ洗フヘシ

痘瘡

痘瘡ノ病毒ハ揮發性及ヒ固製傳染毒ニシテ全ク患者ノ身體ヨリ發出シ又ハ死體及ヒ痘漿、痘痂ニ直接シテ感染スルノミナラズ其患者ニ接觸セシ衣服、臥具其他一切ノ物品ヨリモ傳染シ又其病室内ノ空氣、塵埃モ之カ媒介トナリテ其病毒ヲ傳送スルモノトス

痘瘡ハ古來ヨリ全世界ニ發現シ殊ニ惡性流行スルハ其勢猖獗ニシテ無數ノ人衆ヲ害シ良醫モ亦手ヲ束テ其術ヲ施スヘカヲサルアリ但人生一回此病ニ罹ルハ感受性ヲ脱盡シ得ルヲ以テ英國ノ醫博士シエンチル氏牛痘接種ノ法ヲ發明セシ以還其善感スル者ハ復ク天然痘ニ感スルナシ故ニ此法行ハレテヨリ大ニ患者ノ數ヲ減シ偶々流行スルモ其病性劇惡ニ至ラス殆ント其性ヲ變スルニ至ルヲ証スルニ足ル是故ニ種痘ヲ普及スルハ全ク此病ヲ防盡スル所以ニシテ即チ豫防ノ第一トス

第一項 清潔法

第一條 此病ハ各人感受性ヲ具フル故ニ一般清潔法ヲ要スルモ他病ニ於テ緊要トスルカ如クナラス

但患者ノ居室ヲ清潔ニシ痘漿等ニ汚染セル衣服ヲ屢々取換シ周圍ノ塵埃ヲ掃除シ專テ他人ニ傳染スルヲ防クヲ要スルニアルノミ

第二項 攝生法

第二條 前條ニ載スルカ如ク牛痘ヲ接種シテ其素因ヲ脱盡スルハ復ク天然痘ニ感スルコトナシ然レモ一回種ヲ以テ足レリトスヘキニ非ス再三接種シ其善感ノ確徴ヲ取ラサルヘカヲス唯衣服飲食等ノ攝生ヲ以テ此病ノ侵襲ヲ豫防スヘキニアラス

第三項 隔離法

第三條 醫師痘瘡ト診斷シタルハ直チニ其家ノ門戸ニ病名票ヲ貼附スヘシ但患者治癒又ハ死亡若クハ避病院ニ送致シ其病室ニ消毒法ヲ行ヒタル後ハ即チ其病名票ヲ去ルヘシ

第四條 痘瘡ノ毒ハ患者ノ身體又ハ其衣服、臥具等ヨリ傳染シ又患者ニ接近シタル者ノ衣服等ヨリモ傳染スルヲ以テ成ダケ患者ニ接近シ又ハ患者ノ用ヒタル衣服、器具等ニ觸ルヘカヲス

第五條 自宅療養ノ患者ハ其室ヲ異ニシ看護人ノ外ハ成ク接近スヘカヲス己ムヲ得サル事故アルノ外ハ他人ト交通ヲ絶チ殊ニ未痘者ヲ近クヘカヲス

第六條 家族中ニ於テモ看護人ヲ定メ其他要用アル者ノ外成タケ之ヲ室内ニ入ラシムヘカラス

但看護人ハ既痘者ニ限ルヘシ

第七條 病室内不用ノ器具ハ勿論殊ニ不用ノ毛布等ヲ置クヘカラス

第八條 患者死亡ノ後其屍傍ニ接近シ并ニ死體ニ沐浴セシムル等ハ爲サレテ良トス

第九條 縦令輕症ナル患者ト雖モ落痂後一週日ヲ經ルニアサレハ學校其他衆人群集ノ場所ニ行カシムヘカラス

第十條 蚊蠅ハ好テ患者皮膚ニ聚リ頗ル病毒傳播ノ媒介ヲナスモノナレハ病床ニハ常

ニ蚊帳ヲ張リ蚊蠅及ヒ其他ノ小蟲ヲモ防クヘシ

第十一條 病室ハ消毒ノ後ト雖モ數週間未痘者ヲ入ルヘカラス

但同室内ニ於テ若シ復ク此病ニ罹ル者アル時ハ此病室ヲ用フルモ妨ケナシ

第十二條 西洋形船舶航海中若シ發病者アルハ其室ヲ異ニシ看護人ノ外他人ト交通ヲ絶ツテ猶ホ人家ニ於ケルカコトクスヘシ

第十三條 製造所、會社、學校、旅店等ニ在テ發病シ引取人ナキ者并ニ狹隘不潔ノ地ニ雜居スル者等ニシテ看護消毒法ハ届カス病毒ノ傳播ヲ防キ難キ者ハ之ヲ避病院ニ送ルヘシ若シ避病院アラサルハ適當ノ空屋ニ移シテ之ヲ隔離スヘシ

第十四條 避病院ノ位置ハ人家ニ近接セス且ツ恆風ノ上ニアラサル地ヲ撰ヒ必ズ往來繁多ノ路傍等ニ設クヘカラス

但其門前ニ高ク病名標旗ヲ掲クヘシ

第十五條 避病院ヲ新ニ構造スルハ空氣ノ流通ヲ主トシ善美ヲ要セス其牀ヲ高クシ窓戶ヲ濶大ニシ且ツ板壁ヲ用ヒテ洗淨ニ便ニシ其家根ハ板葺苔等一時ノ便ニ任シテ可ナリ且ツ其病室ハ濶大ナルヲ要スルヲ以テ凡患者一人ニ二坪半ト見積リ之ヲ建設スヘシ

第十六條 避病院ノ病室ハ重症輕症ノ患者ヲ區別シテ之ヲ分隔シ二坪半ニ患者一人ヲ置クヲ常トシ縱令輻湊スルトモ一坪若クハ一坪半ニ一人ノ割合ヨリ狭クスヘカラス但此他醫師詰所、事務所、看護人休息所等便宜ニ之ヲ設ケ且ツ簡易ノ蒸氣室ヲ設クヘシ

第十七條 避病院ノ門側ニハ輕易ナル風呂ヲ設ケ看護人、見舞人等外出ノ時入浴ノ用ニ供スヘシ

第十八條 避病院ハ窓戶ヲ濶大ニシ空氣ヲ流通セシメ冬時ハ暖爐ヲ置キ室内ノ溫度ヲ適宜ニシ空氣ノ代謝ヲ助クヘシ

但病室ハ患者治癒死亡ノ後毎回消毒法ヲ施スヘシ

第十九條 避病院ニハ別ニ清淨ナル屍室ヲ設ケ患者若シ死亡シタルハ直チニ此ニ移スヘシ

但屍室ハ親族ノ弔者ヲ入ル、カ爲メ其餘地ヲ設クヘシ且ツ其弔者ハ成タケ速ニ來ルノ手續ヲナスヲ要ス

第二十條 尋常病院ニハ決シテ此患者ヲ入ルヘカラス若シ院内ニ從來傳染病室ノ設ケアリテ充分ニ隔離法消毒法ヲ行ヒ得ヘキノ目的アルモノハ入院ヲ許スヘシト雖モ尋常ノ病院ヲ區隔シテ之ヲ用フヘカラス

第二十一條 人家稀疎ノ村落ニ於テハ必シモ避病院ヲ設ルヲ要セス若シ相當ノ空屋アラハ假ニ之ヲ用フヘシ

第二十二條 避病院看護人ノ員數ハ重症ノ患者ニハ一人一人ヲ附シ輕症ノ者ニハ三人一人ヲ附スル割合ヲ以テ便宜斟酌シ且ツ晝夜交代セシムヘシ

但看護人ハ既痘者ニ限ルヘシ且ツ其表記アル衣服ヲ著セシメ成タケ其人ヲ更換セシムヘカラス

第二十三條 避病院ニ在ル患者ノ親族又ハ別段ノ交誼アル者看護ヲ爲シテ望ムルハ既痘者ニ限リ之ヲ許スヘシ但屢々更替スルヲ許スヘカラス

第二十四條 患者ノ親族等一時見舞ヲ爲サント請フルハ之ヲ許スト雖也成タケ屢々スヘカラス其出ル時ニハ必ス充分ノ消毒法ヲ施スヘシ

第二十五條 流行ノ勢猛烈ナルルキハ祭禮、劇場等衆人群集ノ事業ヲ差止メ學校モ成タケ之ヲ閉ツルヲ良トス

第四項 消毒法

第二十六條 此病毒ハ膿漿、痲痘、呼氣、津唾及ヒ死體ヨリ傳染シ又患者ノ衣服、臥具、

其他患者ニ接觸セシ器具及ヒ居室等ヨリモ傳染スルカ故ニ甚シク汚染セシモノハ成

タケ焼却スヘシ

第二十七條 消毒法ハ其物ニ從テ區別スルコト左ノ如シ

第一 患者及ヒ看護人等消毒法

第二十八條 患者治癒落痂ノ後一週日ヲ經テ初テ他人ト交通シ又ハ避病院ヨリ退出ノ節ハ必ス沐浴シ石鹼水ヲ用テ全身ヲ洗ヒ他ノ衣服若クハ消毒法ヲ施シタル衣服ヲ著スヘシ看護人及ヒ患者屍體運搬人並ニ避病院ノ醫師、死體取扱人等ノ他人ニ交接スルモ亦此法ニ從フヘシ

第二十九條 自宅患者ヲ往診セル醫師及ヒ患者ノ家人コシテ直接セサル者親戚朋友ノ一時見舞タル者等ハ石鹼水或ハ醋水コテ顔面及ヒ手ヲ洗フヘシ

第二 死體及ヒ排泄物等消毒法

第三十條 死體ハ充分ニ稀薄石炭酸水(第二)ヲ浸シタル單衣若クハ綿布ヲ以テ之ヲ包ミ速ニ棺内ニ斂ムヘシ

第三十一條 死體ハ成タケ火葬セシムルヲ良トス埋葬シタルモノハ其病毒數十年ヲ經ルモ消滅セサルモノトス

第三十二條 西洋形船舶航海中ニ死者アルキハ速ニ濃厚石炭酸水(第一)ニ浸シタル單衣若クハ綿布ヲ以テ之ヲ包ミ假ニ棺内ニ斂メ通常屍室或ハ船中適宜ノ場所ヲ見計ヒ此ニ入レ置キ時々濃厚石炭酸水(第一)ヲ灌注スヘシ
但陸地ニ著スルキハ速ニ其地方ノ警察官吏衛生委員ニ届出處分スヘシ

第三十三條 落痂及ヒ病室ノ塵埃又ハ患者ニ觸レタル綿布紙等ノ斷片ニ至ル迄時々收拾シテ之ヲ燒却スヘシ

第三 衣服臥具等消毒法

第三十四條 患者ノ久ク用ヒタル衣服、臥具及ヒ避病院ニ用ヒタル蚊帳ノ甚シク汚染シタル者并ニ避病院ノ臥具、疊、蓆等ハ之ヲ燒却スヘシ

第三十五條 患者ノ著シタル衣服、臥具及ヒ手巾、蚊帳等又ハ死體ニ著セシ衣服等ヲ洗濯ニ堪フヘキモノハ之ヲ桶ニ入レ稀薄石炭酸水(第二)ヲ澀キ浸シ置ク一二十四時間ニシテ更ニ沸湯ヲ注キ四五分時ヲ經ルノ後水ヲ以テ洗淨シ日光ニ曝スヘシ石炭酸等若シ缺乏スルハ熱湯中ニ入レ一時以上之ヲ煮沸スヘシ其洗濯ニ堪ヘサルモノハ其品種ニヨリ亞硫酸瓦斯(第九)若クハ石炭酸蒸氣(第三)ヲ以テ蒸蒸シ或ハ熱氣消毒法ヲ行ヒシ後日光及ヒ大氣ニ曝スヘシ

第三十六條 避病院ノ醫師、看護人及ヒ死體運搬人等ノ衣服ニ施スヘキ消毒法ハ前條ニ同シ

第四 家屋船舶等消毒法

第三十七條 患者及ヒ死體ヲ置キタル室ノ疊、蓆類ハ之ヲ柱若クハ壁ニ倚セ掛ケ戸棚等ヲ開放シ室内ニアリシ諸器具ハ之ヲ排列シ窓戸ヲ密閉シ六時乃至八時間亞硫酸瓦斯(第九)ヲ薰シ然ル後窓戸ヲ開キ病室附著ノ恐アル柱、板敷等ハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ撒布シ更ニ之ヲ拭淨シ其他ノ器具ハ石鹼水又ハ沸湯ヲ以テ洗淨シ充分大氣及ヒ

日光ニ曝スヘシ避病院ノ病室及ヒ屍室モ亦之ニ倣フヘシ
但金銀器、書畫其他彩色ヲ施セル物及ヒ絹帛等亞硫酸ノ爲メニ其色質ヲ變化スルノ恐アル者ハ初ニ之ヲ取除ケ別ニ石炭酸蒸氣(第三)或ハ熱氣消毒法等ヲ適宜撰用スヘシ

第三十八條 患者アリタル西洋形船舶ハ其處置尋常ノ家屋ニ大異ナシト雖モ下等各室ニ至テハ衆多ノ乘客皆積荷ノ間ニ枕藉幾ト彼我ノ別ナキカ故ニ若シ其中ニ發病者アルハ滿室ノ乘客積荷手荷物ハ皆病毒ニ浸染シタル者ト看做シ乘客手荷物ハ七陸ノ時充分ニ消毒法ヲ行ヒ積荷ハ其儘其室ニ於テ六時乃至八時間亞硫酸瓦斯(第九)或ハ品種ニヨリ石炭酸蒸氣(第三)ヲ薰スルノ後ニ非レハ陸揚スルヲ許サス

第三十九條 日本形小船ハ前條ヲ斟酌シテ消毒法ヲ行ヒ海水ヲ以テ普ク船身ヲ洗淨スヘシ

第四十條 避病院或ハ便宜ニヨリ他ノ空屋ヲ借用セシモノハ其病室ニ供セシ部分ニ亞硫酸瓦斯(第九)ヲ薰セシ後稀薄石炭酸水(第二)或ハ亞硫酸溶液(第十乙)ヲ注キ石鹼水ヲ以テ洗淨スヘシ

但消毒ノ後モ數週間其内ニ入ルヘカラス且ツ空氣ヲ流通セシムヘシ

第四十一條 病室ハ不斷換氣法ニ注意スヘシ是亦多少消毒ノ効アルモノトス

第四十二條 臨時假設ノ避病院ニシテ其保存スヘカラサルモノハ流行熄ムノ後之ヲ取毀ツヘシ尤モ其前汚穢シタル板敷、板壁及ヒ柱等ハ濃厚石炭酸水(第一)又ハ亞硫酸

溶液(第十甲)ヲ以テ充分ニ洗淨シ數日間開放シテ大氣ニ曝スヘシ

第五 什具運搬器等消毒法

第四十三條 避病院ニ携ヘ來リシ手道具、玩具等ハ治癒若クハ死亡ノ後亞硫酸瓦斯(第九)蒸氣法ヲ行ハサレハ之ヲ出スヘカラス

第四十四條 患者及ヒ死體ヲ運搬セシ器具等ハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ灌注シ更ニ石鹼水若クハ沸湯ヲ以テ洗淨スヘシ其舁舟ノ如キハ海水ヲ以テ洗フモ可ナリ

第四十五條 病室ニ用ヒタル什具、玩具ハ總テ稀薄石炭酸水(第二)或ハ亞硫酸溶液(第十乙)ヲ灌キ然ル後石鹼水又ハ沸湯ニテ洗淨スヘシ其洗フヘカラサルモノハ病室ニ消毒法ヲ行フノ際其内ニ排列シ(濕潤ニ堪フヘキモノハ之ヲ濕スチ良トス)亞硫酸瓦斯(第九)或ハ石炭酸蒸氣(第三)ヲ以テ一時間之ヲ蒸蒸スヘシ

第四十六條 患者ノ玩弄シタル圖書、書籍、新聞紙ノ類ハ之ヲ緋展シ石炭酸蒸氣(第三)若クハ亞硫酸瓦斯(第九)ヲ蒸蒸スヘシ或ハ熱氣消毒法ヲ行フモ可ナリ

第四十七條 醫術器械及ヒ木製、金屬製、陶製、漆製等ノ諸器ニシテ病室ニ觸レタルモノハ總テ稀薄石炭酸水(第二)ヲ以テ洗フヘシ

○傳染病豫防心得書附錄種痘施術心得書

內務省甲第九號
警視廳府縣へ達

明治十八年三月二十
四日

明治十二年九月當省乙第三十六號達傳染病豫防心得書附錄トシテ種痘施術心得書左ノ通追加候條此旨相達候事

種痘施術心得書

種痘術ヲ施ス者ハ種痘ノ適否接種ノ方法痘苗採收及時蓄ノ法善感不善感ノ鑑別種痘ノ注意等ヲ詳知セサル可カラズ其要左ノ如シ

第一 種痘ノ適否

- 第一條 種痘ハ左ニ掲クル者ニハ施サ、ルヲ可トス
 - 一 生後七十日ヲ經サル者
 - 二 種痘ノ爲ニ一時増進スヘキ病患アル者
 - 三 丹毒流行ノ土地ニ居住スル者
 - 四 蔓延性ノ皮膚病アル者
 - 五 熱性病ニ罹リ居ル者

第二條 種痘ニ適スル時期ハ(春三月四月五月)秋(九月十月十一月)二季ヲ以テ最良トス然レモ四季共ニ之ヲ施シテ妨ナシ

第二 接種ノ方法

第三條 種痘ヲ施スハ上膊(三稜筋處)ニ於テ各々三針乃至五針(受痘者ノ年齢ニ隨フ)トシ各針ノ距離曲尺五分以上ニシ痘疤ノ暈輪互ニ密接セサル様注意スヘシ

第四條 施術ニ先チ針尖ヲ拭淨シ一時ニ數人ニ接種スルキハ一人毎ニ之ヲ拭淨スヘシ
第五條 眞性ナル痘漿ヲ採リテ移種スルヲ確實ノ良法トスレモ此法ヲ行フニ能ハサル者ハ貯蓄ノ痘苗ニシ成ルヘク新鮮ナル者ヲ撰ヒ用フヘシ但痂皮ハ用ヒサルヲ可トス

第三 痘苗採取及貯蓄ノ法

第六條 痘苗ハ左ニ掲クル者ヨリ採取スヘカラス

- 一 痘疱ノ成形過度及過大ノ者 發暈非常ニ大ナル者 疱縁又ハ暈部ニ水疱ヲ生スル者 痘疱非常ニ隆起シテ澄明ノ漿液ヲ漏出スル者 一種ノ疑フヘキ例ヘハ紅藍色ヲ呈セルカ如キ者

但此等ノ異常痘疱ノ近傍ニ在ル正疱モ亦同シ

- 二 痘漿ノ血液ヲ混セル者 疱ノ中央ニ在ル痘漿ノ腐敗ニ向ントスル者 痘疱ノ口ニ化膿ニ傾キシ者 爬搔又ハ摩擦ノ爲ニ痘疱破潰セシ者
- 三 梅毒腺病及ヒ皮膚病ニ罹リ居ル者 營養不良ノ者
- 四 丹毒ヲ併發セル者經過不整ニシテ不善感ノ疑アル者(第十三條ヲ參照スヘシ)
- 五 天然痘ヲ經タル者 再三種ノ者

第七條 痘漿ヲ採ルハ通常接種後第八日(二十四時間ヲ以テ一日ト算ス下皆同シ)ヲ以テ佳トスト雖時候ノ寒

暖及各人ノ性質ニ隨ヒ第七日又ハ第九日ヲ以テ適度トスルコトアリ痘疱ハ善感良性ノ者ニ其包含セル所ノ漿液ハ渾濁セス粘稠露滴ノ如クナルヘシ

第八條 痘漿ヲ採ルニハ痘疱ノ中心ヲ避テ疱面ヨリ斜ニ淺刺シ深ク刺シテ出血セシムヘカラス

第九條 發痘一顆ナル者ノ痘疱ハ其漿液ヲ採ルヘカラス又數顆アルモ其一顆ハ傷クベカラス

第十條 痘苗ヲ貯蓄シテ接種ノ用ニ供セントスルニハ硝子板間ニ貯ヘテ密封シ又ハ硝子製毛細管ニ吸入セシメテ其兩端ヲ固封シ日光及寒熱ノ劇度ヲ避ケ貯フヘシ(痘苗ノ貯蓄法甚宜シキヲ得ルルハ五箇月間充分ノ効力アリ)

第四 善感不善感ノ鑑別

第十一條 種痘ノ善感不善感ヲ鑑別スルニハ左ノ各項ヲ以テ要點ト爲ス

- 一 接種後第二日以内ニ成形ヲ始メシヤ否
- 二 痘疱常形ニシテ其大サ及硬サハ皮下皮上共ニ同一ナルヤ否
- 三 紅暈ハ常形ナルヤ否
- 四 經過整然トシテ其時期ヲ誤ラサルヤ否
- 五 第八日ニ至リテ微熱ヲ發スルヤ或ハ然ラサルモ其他ノ徵候ヲ呈スルヤ否
- 六 痂皮ハ黯褐色又ハ黒色ニシテ其厚サ及硬サハ常度ナルヤ否

第十二條 種痘善感ノ徵候ハ左ノ經過ニ就キテ知ルヘシ

接種後第一日第二日ノ間ハ他ノ刺傷ニ異ナルコト無シ施術後針痕ノ周圍ニ淡紅色ノ小暈ヲ發スレトモ暫時ニ消失ス(或ハ此暈ヲ見サルコトアリ)

第三日ニハ針痕ノ部ニ小ナル紅點ヲ生シ試ニ指頭ヲ以テ之ニ觸ルレハ稍々隆起セルヲ覺ユ(經過緩慢ナル者ハ第四日第五日ニ至リ始テ此紅點ヲ生スルコト有リ)

第四日ニハ紅色ニシテ硬ク且ツ隆起セル圓形若クハ橢圓形ノ小結節ヲ生ス

第九類 衛生

第六日ニハ水泡稍々増大シ其邊緣隆起シテ疱ノ中央ニハ陷凹ヲ呈シ疱中ニハ稀薄透明ニ稍々帶藍色ナル液ヲ充實シ周圍ノ紅暈稍々増大ス
第七日ニハ諸症益々増進ス

第八日ニハ痘疱全ク成形ス其大サハ豆大ニシテ周圍ハ痲腫シ微シク疼痛アリ疱中ノ液ハ倍々充實シ紅暈亦著シク増大ス此期ニ當リ(或ハ此期以前)微熱ヲ發シ或ハ全ク熱候ナシ顔面ハ蒼白色ヲ呈スルコトアリ又腋下ニ疼痛ヲ覺エ水脈腫起スルコト有リ
第九日ニハ紅暈更ニ増大シ其色澤モ亦加ル
第十日ニハ疱液化膿シテ白濁或ハ黃色ノ濃稠液ト爲リ疱ノ中央稍々凸隆ス然レモ其形必ス扁圓ナリ

第十二日ニ至ルマテハ痘疱其形狀ヲ變スルコト無ク此日ヨリ收斂ヲ始メ疱ノ中央ヨリ邊緣ニ向ヒテ次第ニ乾固シ漸ク褐色ニ變シ周圍ノ紅暈モ亦漸ク消退ス
爾後黯褐色又ハ黑色ニシテ堅實ナル厚痂ヲ結ヒ初ハ皮膚ニ緊著シテ容易ニ剝離セズ結痂後八日乃至十日ニ至リ始テ剝脫ス其剝脫ノ後ニ遺セル痂痕ハ圓形又ハ橢圓形ニシテ淺キ凹窩ヲ爲シ其窩内ニハ更ニ數多ノ小凹點ヲ呈ス

但一回種痘セシ者ニ再三種シテ感染スルコトアルモ其痘顆小ニシテ七八日間ニ全ク經過スルヲ常トス
第十三條 種痘不善感ノ諸徴ハ左ノ如シ
一 接種後第二日以内ニ成形ヲ始メ常形ニ違ヒス直ニ廣ク蔓延セル炎性ヲ發シ皮

下ニ硬キヲ覺ヘスノ紅暈ハ不整形ナリ痘疱ハ速ニ化膿シ其隆起ノ狀或ハ半球形或ハ圓錐形ト爲リ乾固スレハ黃色ニシテ鬆疎ナル痂皮ヲ結フ(時トシテ第二日後ニ成形ヲ始ムル者アレモ其經過總テ不整形ナルヲ以テ自ラ善感ノ者ト區別スルヲ得ヘシ又不善感ノ者ト雖モ腋下ニ疼痛ヲ覺エ微熱ヲ發スルコト無キニ非ス)

二 接種後第一日ニ大ナル赤色ノ疱ヲ生シ速ニ漿液ヲ充實シ上皮破レテ膿面ヲ呈シ或ハ濕潤セル淡色ノ痂皮ト爲ルヲ見ル

三 紅暈速ニ増大シテ腫起シ或ハ遂ニ潰瘍ニ陥ル

四 第八日ニ至リ數疱相合シテ一大潰瘍ト爲リ或ハ一面ノ痂皮ヲ結ヒ其潰瘍又ハ痂皮ノ周圍ニハ廣ク赤色ヲ呈ス

五 痂皮剝脫ノ後ニ遺セル痂痕ハ深クシテ不整形ヲ呈シ其底面平滑ナリ

第五 種痘ノ注意
第十四條 初種ノ不善感ハ痘苗ノ不良ナルカ或ハ其人一時ノ不感性ヲ有セルニ因ル者ナルカ故更ニ三四週ノ後善良ナル痘苗ヲ撰ヒテ再ヒ接種スヘシ

第十五條 種痘ヲ施スニ當リテハ併發症ヲ防キ殊ニ天然痘流行ノ際ニハ接種後第八日ニ至ルマテハ嚴ニ其感染ヲ防禦スヘシ然レモ受痘者已ニ暗ニ天然痘ニ感染シ其潜伏期ニ於テ接種スルコト間々之アリ

第十六條 天然痘流行シ種痘ヲ猶豫ス可カラサル際ニハ第一條各項ニ掲クル者ト雖モ熱性病ヲ除クノ外ハ總テ接種スヘシ

第十七條 種痘中ハ寒冷ヲ避ケシメ成ルヘク清潔ノ空氣中ニ居ラシムヘシ平常慣習セ
ル食物等ハ総テ禁忌スルニ及ハス又別ニ醫藥ヲ要セス

○傳染病豫防心得書ニ據リ調製シタル消毒藥販賣方

明治十八年一月廿八日
內務省甲第二號警視廳府縣へ達

傳染病豫防消毒法之儀ハ追々相達置候處明治十三年當省乙第三十六號ヲ以更ニ豫防心
得書相達候ニ付テハ從前之豫防法ハ總テ消滅ニ屬シ候條右達ニ據リ調製シタル消毒藥
ハ同年第二十三號布告ニ準據シ販賣セシムヘキ儀ト可心得此旨相達候事

○徵毒檢査方法施設方

明治九年四月五日
內務省乙第四十五號府縣へ達

傳染病毒ノ最酷屬ナルモノハ徵毒ヨリ甚シキモノ無之其禍源ハ專ラ娼妓賣淫ニ起因ス
レハ豫防ノ法ハ娼妓徵毒檢査ノ外無之娼妓貸座敷差許候場所ハ必檢査方法施設可致處
其方法モ無之取締不十分ノ向モ不抄哉之趣右ハ衛生上最緊要之事ニ付篤ク注意致シ速
ニ方法施設取締行届候様可致此旨相達候事

但從來施行致居未タ不届出分并ニ自今施設致候分共方法取調當省へ可申出事

○傳染病豫防救治ニ備使スル醫師以下感染及死亡手當

規則
明治十年十二月一日
第八十九號府縣へ達

流行病豫防救治ノ爲諸官廳ニ於テ該事ニ服從セシムル雇ノ醫師檢疫委員并ニ地方公立
病院醫師其他從事ノ者該病毒ニ感染及ヒ死亡候節ハ本年ヨリ左ノ規則ニ照準シ處分可

致此旨相達候事

但本文手當金ノ儀省使ハ經費金ノ内府縣ハ豫備金ノ内ヲ以繰替仕拂置追テ大藏省へ
受取方可申出事

流行病豫防救濟ニ備使スル醫師以下感染及ヒ死亡手當規則

第一條 凡流行病アル節諸官廳ニ於テ豫防救治ノ方法ヲ施行スル爲メ備使スル醫師檢
疫委員(官員ニテ委員トナルモノハ此限ニアラス)看護人并地方公立病院醫師其他入夫等該病毒ニ感染及ヒ死
亡スルモノハ此規則ニ照ラシ手當金ヲ給スヘシ

第二條 手當金ヲ分テ療養埋葬及ヒ遺屬扶助ノ三種八等トナン病者ハ療治料ヲ給シ死
者ハ埋葬料及ヒ扶助料ヲ給スヘシ

第三條 手當金ノ差等ハ其月給ノ多寡ニ因リテ之ヲ定ム則テ二百圓以上百五十圓以上
百圓以上七十圓以上五十圓以上二十圓以上十圓以上十圓未満トナシ等級ニ應テ支
給スヘシ

但日給ノ者ハ一ヶ月ヲ平均三十日ト看做シ該日數ニ乘シテ本條月給ノ等差ニ準ス
ヘシ

第四條 療治料ハ自宅ニ於テ治療スルモノニ一日ニ付一圓ヲ給シ其官公立病院ニ入ル
モノハ適宜官費ヲ以支給スヘシ

第五條 遺族扶助料ハ戶主ニシテ家族ナキ者及ビ戶主ニアラスシテ妻子ナキ者ハ給セ
ス尤死者戶主ニアラス且妻子ナキ者ト雖モ其死者ニ依リ活計ヲ營ミ來タル遺族(一

戸籍内ニアルモノノアレハ之ヲ給スヘシ

第六條 埋葬料ヲ給スルニ獨身ニシテ且親戚ナキ者ハ病院或ハ同僚或ハ區戸長ニ下付スヘシ

第七條 流行病ノ節雇入ル、醫師ノ月給ハ明治八年第四十九號達ノ通タルヘシト雖モ現ニ十五圓以上ノ給料ヲ以て使府縣公立病院ニ從事スル醫師ヲ臨時該流行病ノ治療ニ任スルモノ并ニ虎列刺病ノ節十五圓以上ヲ以て雇タル檢疫委員ハ此規則ノ表面ニ照シテ給スヘシ

手當表

月給	給等	給療	治料	埋葬料	扶助	料
二百圓以上	一	等	一日ニ付一圓	五十圓	二百	五十圓
百五十圓以上	二	等	同	四十圓	二百	圓
百圓以上	三	等	同	三十五圓	百	五十圓
七十圓以上	四	等	同	三十圓	百	二十五圓
五十圓以上	五	等	同	二十五圓	百	圓
二十圓以上	六	等	同	二十圓	八	十圓

十圓以上	七	等	同	十五圓	六	十圓
十圓未滿	八	等	同	十圓	四	十圓

○官吏准官吏公務ニ依リ傳染病豫防救治ニ從事シ感染又ハ死亡者手當金給與方

十九年七月十三日 閣令第二十三號

官吏准官吏公務ニ依リ傳染病豫防救治ニ從事シ爲メニ感染シ又ハ死亡シタルトキハ左ノ區別ニ從ヒ手當金ヲ給ス

- 一 手當金ヲ分テ吊祭料救助料療治料ノ三種トス
- 一 救助料ハ感染者又ハ死亡シタル者ノ遺族ニ之ヲ給ス
- 一 療治料ハ感染者治療看護ノ雜費トシテ之ヲ給ス
- 一 吊祭料ハ年俸十二分ノ一若シクハ月俸一ヶ月分若クハ日給三十日分ヲ給ス但官ヨリ埋葬スル者ハ之ヲ給セス
- 一 救助料ヲ分テ二等トス

- 一 一等俸給五ヶ月日給百五十日分
- 一 二等俸給三ヶ月日給九十日分

- 一 感染死亡シタルトキハ一等救助料ヲ給シ死亡セサルトキハ二等療治料ヲ給ス
- 一 療治料ハ一日一圓ヲ給ス但官ヨリ治療スル者ハ之ヲ給セス

○傳染病每週申報様式

十九年五月十一日 内務省令第四號 府縣(東京府ヲ除ク)集治監假留監

明治十六年五月乙第二十號及同年六月乙第三十三號達傳染病每週申報左ノ通改正ス右様式ニ照準毎年四度(四月七月十月翌年一月)報告スヘシ

但流行ノ兆アリト認ルトキハ性其狀ヲ記シテ速ニ報告スヘシ(十九年内務省令第十九號内務報告例(雜ノ部)ニ悉當ノ職アルヲ以テ以下諸表等ヲ略ス)

第七十七章 種痘規則 十八年十一月九日 第三十四號布告

種痘規則左ノ通制定シ明治十九年一月一日ヨリ施行ス

但明治九年内務省甲第八號及甲第十六號布達ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

種痘規則

第一條 種痘ハ小兒出生後滿一年以内ニ之ヲ行フヘシ若シ不善感ナルトキハ更ニ一週年内ニ再三種ヲ行フヘシ
第二條 種痘ハ善感後ト雖モ五年乃至七年ニ再種ヲ行ヒ再種後五年乃至七年ニ三種ヲ行フヘシ

第三條 天然痘流行ノ兆アルトキハ第一條第二條ノ期限ニ拘ハラス掛官吏ノ指定シタル期日内ニ種痘ヲ行フヘシ

第四條 種痘ヲ受クヘキ者病氣或ハ事故アリテ第一條第二條第三條ノ時期ニ種痘ヲ行フコト能ハサルトキ病氣ハ醫師ノ診斷書事故ハ親戚又ハ隣保ノ證印ヲ爲シタル證書ヲ副ヘ戸長役場ニ届出ヘシ

第五條 種痘ヲ受ケシ者ハ醫師ノ指定シタル日ニ於テ檢診ヲ受ケ痘漿採取ヲ要スルト

キハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第六條 種痘濟ノ者ハ醫師ヨリ種痘證ヲ受領シ戸長役場ニ届出ヘシ

但天然痘ニ罹リタル者ハ醫師ヨリ其證ヲ受領シ本條ニ準スヘシ

第七條 十六歳未滿ノ者ノ尊長後見人若クハ雇主等ニシテ現ニ其幼者ヲ監督スル者ハ前各條ノ責ニ任スヘシ

貧院育兒院等へ入院ノ者ハ該主長ニ於テ前各條ノ責ニ任スヘシ

第八條 醫師ハ種痘ノ善感不善感ヲ檢診シ種痘證ヲ付與スヘシ

但天然痘ニ罹リタル者ヲ治療シタルトキハ本條ニ準シ其證ヲ付與スヘシ

第九條 第一條第二條第三條第四條第五條第六條及第八條ヲ犯シタル者ハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス

第十條 府知事縣令ハ種痘明細表ヲ製シ毎年一月七月ノ兩度内務卿ニ報告スヘシ

第十一條 此規則ヲ施行スル方法細則ハ府知事縣令ニ於テ便宜取設ケ内務卿ニ届出ヘシ

右奉 勅旨布告候事

● 伺 指令

● 種痘規則ノ儀ニ付東京府ヨリ内務省へ伺 明治十八年十一月廿七日 (十八年十二月二十四日官報)

本月九日第三十四號布告種痘規則第二條ノ年限前即チ五年以前ニ再種シタル者ハ其善感ナルト不善感ナルトヲ問ハズ法律上再種濟ノモノトセス五年ヨリ七年ノ間ニ接種スルニアラサレハ規則ニ背犯シタルモノト認ムヘキ儀ニ候哉

果シテ然ルハ例令ハ初種後四年ニ再種善感シタル者ト雖更ニ三年以内即初種後七年以内ニ法律上ノ再種ヲ爲サ、
ルヲ得サル筋ニ候哉又ハ善感ナル者ニ限リ再種濟ノモノトナル其ノ年ヨリ起算シテ五年乃至七年ニ三種ノレハ法律
上ノ責任ナリ候儀ト心得可然哉

指令 十八年十二月廿三日
前段何之通

●種痘規則ノ儀ニ付山梨縣ヨリ内務省ヘ伺 明治十八年十二月一日 (十八年十二月廿五日官報)

第一條 規則第一條ニ若シ不善感ナルトキハ更ニ一週年内ニ再三種ヲ行ナフヘシト有之候處若シ再三種ヲ行ナフモ
猶不善感ナル場合ニ於テハ其善感ヲ見ルニ至ル迄一週年毎ニ一回以上ツ、種痘可致儀ト心得可然哉

第二條 種痘善感後又ハ再種後天然痘ノ流行等ニ遭遇シ數度臨時ノ種痘ヲ爲シ、モノト雖凡規則第二條ノ期年ニ至
レハ更ラニ再三種ヲ行ナフヘキ儀ト心得可然哉

第三條 規則第二條ニ依リ三種ヲ了ヘタルモノハ天然痘流行ノ時ト雖凡規則ニ種痘ヲ爲サシムルニ不及儀ニ可有之哉
指令 十八年十二月廿三日

書而伺ノ趣左ノ通可心得事

第一條 若シ不善感ナルトキハ更ニ一週年内ニ再三種ヲ行ヒ尚ホ不善感ナルモ規則第一條ノ責任ハ之ナリシタル儀
ト心得ヘシ

第二條 伺ノ通

第三條 規則第二條ニ據リ三種ヲ了ヘタル者ト雖凡規則第三條ノ場合ニ於テハ掛官吏ノ見込ニ由リ更ニ三種ヲ行
ハシムル儀ト心得ヘシ

○第七十八章 虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則

明治十五年六月二十三日 第三十一號布告

虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則左ノ通制定ス

虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則

第一條 凡ソ虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶ハ検査官ノ検査ヲ受ケ其記名セル許可
證書ヲ得タル後ニ非レハ他港ニ進港シ陸地又ハ他船ト交通シ及ヒ乗組人船客ノ上陸
並ニ積荷ノ陸揚ヲ爲ス可カラズ

第二條 其船中該病患者又ハ該病死者ナキトキハ検査官直チニ其船舶ノ他港ニ進航シ
陸地又ハ他船ト交通シ及ヒ乗組人船客ノ上陸並積荷ノ陸揚ヲ爲スノ許可ヲ與フ可シ
但検査官ニ於テ必用ト認ムルトキハ其船舶ヲ四十八時間以内其指定スル場所ニ碇
泊セシメ十分ノ消毒法ヲ施スコトヲ得十八年第九號布告
ナリト但書ヲ追加ス

第三條 若シ其船中ニ該病患者又ハ該病死者アルトキハ検査官其船舶ヲ陸地及ヒ他船
ニ傳染ノ虞ナシト認ムル距離ニ於テ其指定スル場所ニ碇泊セシム可シ
該病患者ハ之ヲ避病院若クハ其住居若クハ其他検査官ノ適當ト認ムル場所ニ送致ス
可シ其死者ハ(若シ該病人ノ望アルトキハ其望ニ隨ヒ)地方官所定ノ場所ニ火葬シ若クハ十分ノ消毒法ヲ施
シタル後之ヲ埋葬スヘシ

前項ノ手續ヲ終リ検査官ハ其乗組人船客ニ十分ナル消毒法ヲ施シタル後上陸ノ許
可ヲ與ヘ其船舶及傳染ノ虞アリト認ムル積荷ニ十分ナル消毒法ヲ施シタル後其船
舶ノ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及積荷ヲ陸揚スルノ許可ヲ與フ可シ
第四條 此規則ニ違背シタル者若クハ此規則ノ執行ヲ妨害シタル者ハ刑法ニ依テ之ヲ
處分スヘシ

刑法第二百四十六條以下

第五條 此規則施行始終ノ期日並ニ場所ハ其都度内務卿ヨリ之ヲ指定ス可シ
右奉 勅旨布告候事

○虎列刺病流行ノ際檢疫所設置方 明治十三年三月十六日
内務省乙第九號(東京警視本署)
府縣
へ達

虎列刺病流行ノ際内地ニ於テ海陸ノ檢疫所ヲ設ケ行旅船客ヲ抑留候儀ハ經伺之上可取計
儀ト可心得此旨相達候事

○虎列刺病流行地方ヨリ古着及襪褌輸送ヲ禁ス 明治十八
年九月十八
日

内務省甲第三十一號警視廳府縣へ達

虎列刺病流行ノ際ニ於テハ其流行地方ヨリ古着及ヒ襪褌ヲ他ノ健康地ニ輸送スルコト
ヲ禁止スベシ此旨相達候事

●伺指令

●古着襪褌輸出入ノ件ニ付大坂府ヨリ内務省へ伺 二十年二月廿五日(同年三月三
十日官報)

虎列刺病流行ノ際ニ於テハ古着襪褌等他ノ健康地へ輸送ヲ禁止スヘキ旨明治十八年貴省甲第三十一號御達有之候處
大阪府下ノ儀ハ客年上申候通該縣業者及附屬ノ人口大約三萬五千餘ニシテ其販路タルヤ汎ク各地方ニ亘リ一朝之カ
輸出入ヲ禁止スレハ忽チ該縣業者ノ困厄ハ勿論之ニ頼リ僅ニ糊口スル細民即チ多致ノ層擧リト稱フルモノ、如キハ
他ニ求ムヘキ業ナク忽チ活路ヲ失ヒ終ニ街頭ニ彷徨ヒ乞食トナル者夥カラサル現狀ニ立至リ候ヨリ客年府下天保町
ニ熱氣消毒所ヲ設置シ同所ニ於テ古着襪褌消毒等ノ品ニ限リ當該吏ニ於テ認定ノ證據印ヲ付シ輸出入許可ノ儀再
度相伺十月二十七日ヲ以テ御間屆相成爲メニ該業者一般ノ活路ヲ開キ爾後此恩令ニ感シ該業者組合各私費ヲ以テ物

品取扱ノ場所敷棟ヲ築造シ尙消毒機械ヲ増設スル等大ニ其費用ナルヲ覺リ且其方法タル貨物ヲ損傷スルノ虞ナク
雖ノ効果顯然タルヨ實験候ヨリ意外ニ各地方ノ信用ヲ得ルニ至リ將來ノ豫防上ニ一大裨益ヲ勝越セシテ不勝候且熱
氣機械ニモ改良ヲ加ヘ乾濕致レニテモ施用スルヲ得ヘキ裝置トナシ特ニ襪褌消毒機械ノ如キハ渾テ濕熱ヲ以テ時間
ヲ徒費ス最モ簡便ニシテ充分消毒ノ功ヲ奏シ現今ニ於テハ毫モ不完全ノ廉無之就テハ將來虎列刺病流行ニ際スル
モ右消毒所ニ於テ消毒済ノ物品ニ限リ自今輸出入共特許相成度
指令 二十年三月二十八日

書面伺之趣聞屆候事

第七十九章 人家稠密ノ場所ニ於テ養養ヲ禁ス 明治六年
五月十五
日

第百六十三號布告

方今牛豚類ノ牧畜盛ニ行ハレ候處温暑ノ時ニ方テハ其臭氣人身ノ健康ヲ害スルノミナ
ラス近來獸類ノ傳染病流行往々人生ノ傷害ヲ醸シ候ニ付自今三府市街ノ區内ハ勿論各
地一般人家稠密ノ場所ニテ養養ノ儀堅ク禁止候條右區内ニ於テ從前營業ノ者ハ布令到
達ノ日ヨリ三十五日以内ヲ以テ郊外便宜ノ地ニ立退養養可致候事
但東京府下朱引内ハ假令草野空間ノ地ト雖ヒ養養不相成候尤乳汁搾取ノタメ養養候
ハ被差許候得共不潔臭穢ノ儀モ有之候ヘハ詮議ノ上可令取拂事

○養養制限酌方 明治七年一月九日
大藏省第三號達

昨明治六年第百六十三號ヲ以テ公布相成候趣者專人命保護ノタメ市街等人家稠密ノ地
ニテ養養候ヲ制限候等ニ候條山村僻邑等ハ實地適宜ニ斟酌可致此旨相達候事

第八十章 醫師免許規則 明治十六年十月二十三日
第三十五號布告

第九類 衛生

醫師免許規則別冊ノ通製定シ明治十七年一月一日ヨリ施行ス
但明治十五年二月第四號布達同年八月第三十九號布告ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス
右奉 勅旨布告候事

(別冊)

醫師免許規則

- 第一條 醫師ハ醫術開業試驗ヲ受ケ内務卿ヨリ開業免狀ヲ得タル者トス
但此規則施行以前ニ於テ受ケタル醫術開業ノ證ハ仍ホ其効アリトス
- 第二條 開業免狀ヲ得ントスル者ハ試驗及第證書ヲ以テ地方廳ヲ經由シテ内務省ニ願
出ツヘシ
- 第三條 官立及府縣立醫學學校ノ卒業證書ヲ得タル者其證書ヲ以テ開業免狀ヲ得ンコト
ヲ願出ツルトキハ内務卿ハ試驗ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ
- 第四條 外國ノ大學醫學部若シハ醫學學校ニ於テ卒業シタル者或ハ外國ニ於テ醫術開業
免許ヲ得タル者其卒業證書又ハ開業證書ヲ以テ開業免狀ヲ得ンコトヲ願出ツルトキ
ハ内務卿ハ其證書ヲ審査シ試驗ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ
- 第五條 醫師ニ乏キ地ニ於テハ府知事縣令ノ具狀ニヨリ内務卿ハ醫術開業試驗ヲ經サ
ル者ト雖モ其履歷ニヨリ假開業免狀ヲ授與スルコトアルヘシ
- 第六條 開業免狀ヲ得ル者ハ免狀下付ノ節手数料金三圓ヲ納ムヘシ
- 第七條 開業免狀ヲ得タル者ノ氏名本籍ハ内務省ノ醫籍ニ登錄シ時々之ヲ公告スヘシ

刑法第二百
五十六條參
照

第八條 開業免狀ヲ毀損亡失シ又ハ氏名本籍ノ變換ニ由リ免狀ノ書換ヲ願フ者ハ其事
由ヲ記シ地方廳ヲ經由シテ内務省ニ願出ツヘシ

第九條 開業免狀ノ書換ヲ願フ者ハ免狀下付ノ節手数料金壹圓ヲ納ムヘシ

第十條 醫師廢業又ハ死亡シタルトキハ地方廳ヲ經由シテ其開業免狀ヲ内務省ニ返納
スヘシ

第十一條 醫師其業ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行爲アルトキハ中央衛生會ノ審議ヲ經内
務卿ニ於テ其業ヲ停止若シハ禁止スルコトアルヘシ
但其事開業免狀ヲ得ルノ前ニ在リト雖トモ本條ニ準シ處分スルコトアルヘシ

第十二條 前條ニ據リ醫業禁止ノ處分ヲ受ケタル者アルトキハ地方廳ニ於テ直チニ其
開業免狀ヲ取上ケ之ヲ内務省ニ返納スヘシ其停止ノ處分ニ係ルモノハ幾年月日間停
業シタル旨ヲ開業免狀ニ裏書シ應印ヲ捺シテ之ヲ本人ニ下付スヘシ

第十三條 内務卿ハ醫業禁止ノ處分ヲ爲シタル後ト雖トモ本人ノ行狀ヲ調査シ中央衛
生會ノ審議ヲ經特ニ其禁止ヲ解シコトアルヘシ

○醫師開業試驗規則

明治十六年十月二十三日
第三十四號布達

今般第三十五號ヲ以テ醫師免許規則布告相成候ニ付醫術開業試驗規則別冊ノ通り相定
メ明治十七年一月一日ヨリ施行ス
但明治十二年二月内務省甲第三號布達ハ同日ヨリ廢止ス
右布達候事

(別冊)

醫術開業試驗規則

第一條 醫術ヲ開業セントスル者ハ此規則ニ據リ試験ヲ受クヘシ

第二條 内務卿ハ毎年二回醫術開業試験ヲ舉行スヘシ

但試験ヲ舉行スヘキ地方及ヒ試験期日ハ六ヶ月前之ヲ内務卿ヨリ告示スヘシ

第三條 内務卿ハ醫術開業試験ヲ舉行スル毎ニ官立及ヒ府縣立醫學校病院ニ從事スル

者又ハ地方ニ於テ學術名望アル醫師理化學者等ヲ選ヒ試験委員ヲ命スヘシ

但齒科醫術開業試験ニ於テ齒科醫一名ヲ試験委員ニ加フルコトアルヘシ

第四條 内務卿ハ主事者ヲ派遣シ試験一切ノ事ヲ監督整理セシムヘシ

第五條 醫術開業試験ハ之ヲ二期ニ分テ前期試験後期試験トス前後二期ノ試験ヲ同時

ニ受クルコトヲ得ス

但齒科醫術開業試験ハ全科一時ニ受クルモノトス

第六條 試験科目ヲ定ムルコト左ノ如シ

前期試験科目

第一 物理學

第四 生理學

後期試験科目

第一 外科學

第二 內科學

第三 藥物學

第二 化學

第三 解剖學

第四 眼科學

第五 產科學

第六 臨床實驗

第七條 齒科試験科目ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一 齒科解剖及生理

第二 齒科病理及治療

第三 齒科用藥品

第四 齒科用器械

第五 實地試験

第八條 前期試験ハ一ヶ年半以上後期試験ハ更ニ一ヶ年半以上修學セシ者ニ非レハ之

ヲ受クルコトヲ得ス

但齒科醫術開業試験ハ二ヶ年以上修學セシ者ニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ得ス

十七年第二號布達
ヲ以テ但書追加

第九條 前期試験ヲ受ケントスル者ハ其願書ニ修學ノ履歷書ヲ副ニ後期試験ヲ受ケン

トスル者ハ其願書ニ履歷書及前期試験及第ノ証書ヲ副ニ毎年六月十二月中地方廳ニ

差出スヘシ地方廳ハ翌月五日迄ニ其書類ヲ取纏メ内務省ニ進達スルモノトス

但履歷書ニハ其師若クハ他ノ開業醫師二名以上ノ保証アルヲ要ス

第十條 地方廳ニ於テ試験出願中當事ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行為アリト認ムル者ア

ルトキハ之ヲ内務省ニ具狀スヘシ内務省ニ於テハ中央衛生會ノ審議ヲ經其情狀ニ因

リ期限ヲ定メ試験ヲ許サルコトアルヘシ

第十一條 試験問題ハ試験主事者試験委員協議ノ上之ヲ撰定シ試験場ニ臨ミ受験人ヲ

シテ筆答セシムヘシ

但シ時宜ニヨリ口答セシムルコトアルヘシ

第十二條 試驗主事者ハ試驗終ルノ後試驗委員ト與ニ其成績ヲ評定シ及第シタル者ニハ直チニ及第證書ヲ與フヘシ

但及第證書ニハ試驗主事者試驗委員連署スヘシ

第十三條 試驗ニ落第シタル者ハ半年ヲ終ルニ非レハ再試験ヲ請フコトヲ得ス

第十四條 醫術開業試験ヲ受クル者ハ試驗開場ノ前日迄ニ左ノ手数料ヲ納ムヘシ

前期試験手数料 金三圓 後期試験手数料 金五圓 齒科試験手数料 金五圓

第十五條 受驗中疾病及ヒ其他ノ事故アリテ試験ヲ中止シ又ハ落第シタル者ト雖モ前條ノ手数料ヲ返付セス

○試驗ヲ要セスシテ醫師ノ免狀ヲ受與スヘキ者格例

明治十六年十一月十七日
内務省乙第四十六號府縣へ達

本年第三十五號布告醫師免許規則第三條ニ據リ試験ヲ要セス免狀ヲ授與スヘキ者ハ東京大學及ヒ左ノ條件ヲ具ヘ當省ノ特許ヲ得タル醫學校ノ卒業證書ヲ有スル者ニ限り候條右ニ適應スル醫學校有之候向ハ其校則教則及教員履歷書生徒員數其他學校ニ關スル一切ノ書類取纏メ豫メ當省へ稟議スヘシ此旨相達候事

但明治十五年太政官第四號布達ニ依リ既ニ特許ヲ得タル向ハ此際更ニ稟議ニ及ハス

一三名以上ノ醫學士(歐米ノ大學校ニ於テ卒業シタルモノ等)ヲ以テ教諭ニ充ツルモノ

一生徒ノ員數ニ相當セル助教ヲ置シモノ

一四年以上ノ學期ヲ定メ教則并ニ試驗法ノ完備スルモノ

一生徒ノ實地演習ヲ爲スヘキ病院アルモノ

一器械標本ノ具備スルモノ

○醫師開業受驗人心得

明治十六年十二月十日
内務省甲第二十六號告示

今般太政官第三十四號ヲ以テ醫術開業試験規則布達相成候ニ付右受驗人心得左ノ通相定候條此旨告示候事

受驗人心得

第一條 醫術開業試験ハ當省ヨリ告示シタル試験舉行地ノ中各自便宜ノ地ニ於テ之ヲ受クルコトヲ得ヘシ

第二條 醫術開業試験ヲ受ケント欲スル者ハ本年第三十四號布達醫術開業試験規則第九條ニ準據シ其願書ヲ居住ノ地方廳へ差出スヘシ

第三條 前條許可ノ指令ヲ受ケタル者ハ當省ヨリ告示シタル期限迄ニ試験舉行ノ地ニ着シ宿所氏名ヲ其地方廳へ届出ツヘシ

第四條 試験手数料ハ試験舉行ノ前日迄ニ醫術開業試験場へ相納ムヘシ

第五條 試験場ノ取締上不都合ト認ムヘキ所爲アル者ハ主事者ヨリ退場セシムルコトアルヘシ

第六條 試験中一科以上欠席スル者ハ其期ノ試験ヲ終フルコトヲ得ス十七年甲第三十五號布達ヲ以テ全條改正

願書式

醫術開業試験願

住所(寄留ナレハ本籍ヲ併記スヘシ)

族籍

氏

年月生

私儀何年何月何地ニ於テ醫術開業前期(後期) (齒科ナレハ醫術ノ上齒科ノニ字ヲ加ヘ前期後期ノ四字ヲ除ク) 試驗相受度別紙書類相添此段奉願候也

年月日

右 氏 名 印
戶 長 氏 名 印
衛生委員 氏 名 印

内務卿宛

○從來開業ノ醫師ハ試驗ヲ要セス鑑札等附與セシム

明治十年八月十六日
内務省乙第七十六號府縣へ達

昨明治九年當省乙第五號ヲ以テ醫師試驗ノ儀相達從來開業ノ者ハ試驗ヲ要セス地方限リ鑑札等ヲ與ヘ新舊ヲ區分シ以テ醫術改進ノ基礎相立候處維新以來該術ヲ以テ諸官廳及地方公立病院ニ奉職從事シ主トシ醫療若シハ教授ノ任ニ當リタル者ハ志願ニヨリ試驗ヲ不須直ニ免狀可交付候條左ノ箇條ニ照觀シ本人ノ願書及履歷書ニ管廳ノ添書ヲ付シ可申出此旨相達候事
但自今官立醫學校ニ於テ卒業證書ヲ得シモノハ外ハ總テ成規ノ試驗ヲ送テ候儀ト可

十八年内務省
甲第廿七
號依リ七
號生委員
ハ消滅ス

相心得事

一 内務省警視病院醫員及ヒ舊警視廳醫員

但藥局專任ノモノハ此例ニアラス以下之ニ倣ヘ

一 陸軍省軍醫副及軍醫試補以上

一 海軍省軍醫副以上

一 文部省及舊大學東校少得業生及ヒ醫學教官下醫當直醫以上並同省直轄諸學校醫員

皇漢醫掛種並
館掛ハ之ヲ除ク

一 司法省及舊彈正臺醫員

一 宮内省六等侍醫以上及舊少典醫權少侍醫以上

一 開拓使病院醫員

一 府縣病院及地方公立病院當直醫以上

○入齒齒拔口中治療接骨等營業ノ者開業及鑑札渡方

明治十八年三月二十三日
内務省甲第七號府縣へ達

入齒齒拔口中治療接骨等營業之者ハ明治十六年十月第三十四號布達ニ據リ醫術開業試驗ヲ經ルニ非サレハ新規開業不相成候條從來之營業者ハ此際各地方廳ニ於テ鑑札ヲ付與シ相當之取締法相立可申此旨相達候事
但既ニ取締法相設居候向ハ更ニ本分ノ手續ヲ爲スニ及ハス

第九編 衛生

○鍼灸術營業者取締方

明治十八年三月二十五日
內務省甲第十號府廳へ達

鍼灸術營業者之儀ハ從來開業之者并ニ新規開業セントスル者ハ自今出願セシメ其修業履歷ヲ檢シ相當ト認ムルトキハ差許不苦其取締方之儀ハ便宜相設可申此旨相達候事但既ニ營業差許タルモノハ更ニ出願セシムルニ及ハス

○醫師患者死亡届

明治九年二月五日
內務省乙第十三號各縣へ達

管內醫師施治ノ患者死亡スル時ハ左ノ書式ニ準シ遺漏ナク區戸長ヲ經テ管廳へ爲届出半ケ年宛取廻メ八月ヲ限リ當省へ可差出此旨相達候事
十年乙第廿八號ヲ以テ届書ハ當省へ差出ス
締(トアレ)内務取締ハ十二年乙第
五十六號省達ニ依リ消滅ニ付除去ス

死亡届 (料紙半紙ニツ折)

何府何國何郡何村(九年乙第百三十九號)號省達ニ依改正ス

何某父母兄弟妻子

病名 年號月日死

何業何職 姓

名 年 齡

右ハ私施治ノ患者ニ候處死去候間此段御届申上候也

何縣何大區何小區何町番地

年號月日

醫師 姓 名 印

何縣令何某 殿

本年二月乙第十三號達三府へハ(同月八日相達候)死亡届ノ儀往々書式ニ照準セシメ職業ヲ記載セサル書面有之元來死亡届ハ土地ト職業ニ原ツケル疾病ニ異同多少アルヲ查出シ豫防法講究ノ用ニ供候條向後例へハ大工ハ大工鍛冶ハ鍛冶其他總テ本人ノ職業ヲ記載スヘク此旨更ニ相達候事
九年十月廿七日
內務省乙第百二十四號府廳へ達

但シ例へハ大工ノ家族モ他業ヲ營候者ハ本人ノ職業ヲ記載シ若シ本人無業ナレハ無業ト記シ候儀ト可相心得事

○患者死亡届差出順序

明治九年四月一日
內務省乙第四十四號府廳へ達

當省本年乙第十三號ヲ以テ患者死亡届ノ儀相達候處右届書差出方順序醫師ヨリ直チニ差出候テハ數醫ノ施療ヲ受ケタル患者死亡ノ節醫師各自届出重複シ或ハ互ニ讓リ合等開相成候儀モ可生ニ付主任ノ醫師ハ必ス届書ヲ死者ノ家人ニ付與スヘク家人ハ必ス之レヲ請求シテ該病家ヨリ區戸長ニ爲届出候様可取計此旨更ニ相達候事
同上戸長ノ下或ハ
內務取締ノ五字ヲ
除ク

○引取人ナキ刑死者及囚徒ノ遺骸解剖方

明治十八年七月二十一日(文部卿達)

監獄則ニ掲クル所ノ刑死者及死亡者ニシテ親屬故舊其遺骸ノ下付ヲ請フ者ナキトキハ官公立醫學校若シハ病院ニ於テ該遺骸ヲ解剖實驗ノ用ニ供スルヲ得此旨相達候事但屍體剖觀ノ後ハ縫理シ原體ニ復シ不都合無之様取計ハシムベシ

內務省甲第二十
五號府廳へ達

十六年乙第
廿八號省達
ヲ以テ死亡
届ハ當省へ
差出スニ不
及旨ヲ示ス

○醫術開業試驗願書ニハ指令ヲ附セス出願者届出

方 二十一年八月二十八日
内務省告示第九號

醫術開業試驗願書へハ自今許可ノ指令ヲ附セサルニ付該出願者ハ試驗舉行ノ期日四日前ニ受験地ニ到着シ宿所氏名ヲ其地方廳ニ届出ヘシ

● 伺指令

第三十五號布告醫術規則第一條但書開業ノ証トハ縣限リ與ヘタル鑑札モ此内ニ含蓄スル儀カ
指令 何之通 十六年十一月二日

本年第三拾五號布告(醫師免許規則)ノ儀ニ付廣島縣ヨリ内務省へ伺 十六年十月二日
卒業証書ヲ得タル者ハ試驗ヲ要セス免狀下付ノ旨趣ナル哉
指令 十六年十一月十三日

醫師免許規則第三條ニ於テ試驗ヲ要セス免狀授與ノ證議ニ及フヘキ者ハ特ニ當省ノ許可ヲ得タル學校ノ卒業生ニ限ルヘシ

● 内務卿ヨリ醫術開業試驗規則第八條ノ件ニ付參事院議長へ質議并回答

十六年十一月一日

醫術開業試驗規則第八條ニ於テ前期試驗ハ一ケ年半年後期試驗ハ更ニ一ケ年半年以上修學セシモノニアラサレハ云々ト有之右更ニ一ケ年半年トハ前期試驗ヲ受ケタルヨリ計算スル儀ニ無之前修學ノ一ケ年半年ヨリ又更ニ一ケ年半年修學スルコトニシテ即チ就學ヨリ通算シテ三年ヲ經シ以上ハ試驗差許可申下相心得候ヘ共尙念此段及御質議候也
右回答 十六年十一月八日 本月一日付醫術開業試驗規則第八條ノ件ハ見解ノ通右及回答候也

● 醫術開業試驗規則之儀ニ付埼玉縣ヨリ内務省へ伺十六年十月三十一日

本年十月第三拾四號布告醫術開業試驗規則第六條ニ於テ試驗科目前後二期ニ區別有之其科目中眼科産科等モ列記有之儀ニ付從來眼科等時ニ其科之試驗ヲ以テ專門開業許可之儀ハ御開屆相成儀トハ在候得共同則第七條ニ於テ眼科醫ノミ獨專門開業許可相成候儀相見聊懸隔相生シ儀ニ付相伺候也

指令 十六年十一月十九日 伺之趣齒科醫術ニ限リ專門開業差許候儀ト可心得事

● 醫師免許規則中ノ儀ニ付山梨縣ヨリ内務省へ伺十六年十一月二日

醫師免許規則第一條但書ニ此規則施行以前ニ於テ受ケタル醫術開業ノ証ハ仍ホ其効アリトスト有之右ハ從前御省ノ試驗ヲ經或ハ試驗ヲ須ヒス免狀下付ノ者ハ勿論明治九年御省乙第五號御達ニ依リ縣限免許致シ候從來開業ノ醫師ナモ總テ包括シタル儀ト相心得可然哉
前項ノ如ク從前縣限リ免許候モノモ仍ホ其効アリトストルハ若此等ノ者其業ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行爲アルハ規則第十一條ノ旨ニ準シ縣令ニ於テ適宜處分致シ可然哉
指令 十六年十一月廿一日 第一項何之通 第二項當省ニ於テ成分スヘキ儀ト心得ヘシ

● 醫術試驗規則ニ付愛知縣ヨリ内務省へ伺十六年十一月十五日

本年大政官第三拾四號布告ニ依リ醫術試驗ヲ願出ル者ノ年齢ニ制限ハ無之候哉
指令 十六年十一月廿八日 醫術試驗ヲ願出ルモノノ年齢ハ制限ナシ

● 醫師免許規則及醫術開業試驗規則中疑義ノ兼島根縣伺十六年十一月六日

本年第三拾五號布告醫師免許規則及本年第三拾四號布告醫術開業試驗規則中左ノ項目疑義ニ涉リ決兼候間至急何分ノ御指令相成度此段相伺候也

醫師免許規則ノ部

一 第一條但書ニ此規則施行以前ニ於テ受ケタル醫術開業ノ證ハ仍ホ其効アリトスト有之候處右ハ本縣限リ履歷ニ依リ許可セシ開業免許証モ含蓄スル儀ト心得可然哉又ハ御省ヨリ交付相成免許証而已ニ止ル儀ニ候哉
一 第三條中官立及府縣立醫學校トハ客年文部省第四號達醫學校通知中乙兩種ノ醫學校ヲ指稱スル儀ニ候哉

醫術開業試驗規則ノ部

一 第八條ノ場合ニ於テ三ケ年以上醫學ヲ修メ居モノ前期試驗ヲ及第シ更ニ後期試驗ヲ受ケ度モノハ則チ三ケ年以上修學セシ故ヲ以テ更ニ一ケ年半年ヲ經過セサルモ出願可然哉又ハ前期試驗及第ノ上一ケ年半年修學スルモノニ非レハ不相成儀ニ候哉

一 内外産眼科等其機科專門開業願出度モノアルモ爾後一切不相成儀ト心得ヘクヤ
一 第四條主事者ヲ派遣シ試驗一切ノ事ヲ監督整理セシムヘシト有之候處右試驗場ニ係ル費用ハ則チ御省ヨリ御支帶相成候儀ニ候哉

指令 十六年十一月三十日

第一項前段之通 第二項本年當省乙第四十六號通ノ通心得ヘシ 第三項前段之通 第四項五項之通

●醫師免許規則之儀ニ付長崎縣ヨリ内務省ヘ伺十六年十一月七日

第一條 今般 第卅五號布告醫師免許規則第三條第四條ニ該ル者ノ出願ニハ別途修學歴書ハ要セサル儀ニ可有之哉
第二條 同上第五條ニヨリ假開業免狀ヲ得タル者他縣或ハ管内ト雖モ他郡區ヘ轉籍寄留之場合ハ免狀返納セシムヘキ儀ニ可有之哉

但當縣管内ニシテ轉住ノ場所醫師ニ乏シキ地方ナレハ本文ノ限リニ無之儀ト心得可然哉

第三條 假開業免狀御授與之者ヨリハ規則第六條及ヒ第九條ノ手数料ハ上納ニ不及儀ニ候哉

第四條 規則第十條ニ該ルモノアルトキハ客年(九月)坤衛第五九五號御訓示之通リ相心得可然哉

指令 十六年十二月三日第壹條第四條之通

第二條 免許區外ニ轉居スルモノハ同之通 但書ノ儀ハ其郡度具申スヘシ 第三條 手数料上納セシムヘシ

●醫術試驗規則之儀ニ付東京府ヨリ内務省ヘ伺十六年十二月十七日

本年太政官第三十四號布達醫術開業試驗規則第九條ニ據レハ後期試驗ヲ受ケントスル者ハ其願書ニ履歷書及前期試驗及第ノ證書ヲ副ヘ云々ト有之候處改正前ノ試驗規則ニ據リ内科外科眼科牙科等各專門ヲ試驗及第シ既ニ右ノ免許狀ヲ所持シ後期試驗志願ノ者ハ再ヒ前期試驗ヲ要セス直ニ後期試驗御許可相成候事トハ存候得共爲念此段相伺候也
指令 同之通 十六年十二月廿四日

●醫師開業免許規則之儀ニ付秋田縣ヨリ内務省ヘ伺 十六年十一月廿七日

今般太政官第三十五號ヲ以テ醫師開業免許規則公布相成候ニ付左ノ件々相伺候

第一條 規則第一條但書此規則施行以前ニ於テ受ケタル醫術開業ノ証ハ仍ホ其効有トスト有之然ルニ從來開業醫ニ

ノ是迄應業シ鑑札付與セサル者更ニ復業願出其証確實ナル者ハ今后ト雖モ本縣限リ開業免許不苦儀ト心得可然哉

第二條 規則第五條醫師ニ乏シキ地方云々ハ一府縣管内ヲ指示セラレ候儀ニ可有之哉或ハ一管内例之ハ甲地方ニ醫師アルモ乙地方ハ山間遠隔ニ據在シ醫師ニ乏シク患者醫療ヲ得ルニ苦ム等ノ實況アルモノハ是又本條ニ據リ具狀スルヲ得ル儀ト心得可然哉

第三條 死亡又ハ廢業者開業免狀ノ儀昨十五年三月廿五日同全四月廿六日御指令ニ依リ該免狀ハ本縣ヘ返納セシム候上裏面ヘ死亡或ハ廢業ノ旨ヲ明記シ捺印ヲ捺シ下付致置候處規則第十條ノ趣モ有之候得共當縣地ノ如キハ返納ニ

具狀ノ通リ醫師缺乏ノ事ヲ其子弟ヲ勸勵スルノ一端ニ相成候儀ニ付自今ト雖モ前御指令ニ據リ取計度候條如何相心得可然哉

第四條 規則第十二條醫業停止ノ處分ニ係ルモノハ幾年月間停止シタル旨ヲ開業免狀ニ裏書云々ト有之右ハ左ノ式ヲ以テ裏書取計可然哉 (免狀裏書式略之)

指令 十七年二月廿五日 第一條 十六年第三十四號布達ニ依リ試更ニ驗ヲ受シムヘシ

第二條 後段之場合ニ限ルヘシ 第三條 離間屆 第四條 同之通

●醫師免許規則之儀ニ付群馬縣ヨリ内務省ヘ伺十六年十二月十八日

第一條 今般第三十五號布告醫師免許規則中第五條ニ依リ醫術假開業免狀ヲ得シ者アリシ地方ヘ他ヨリ醫師轉住ス

ト雖モ三四名ノ多キニ達セサル以上ハ總令同村内タリトモ假免狀所有ノ醫師其儘開業罷在ニ苦儀ニ候哉

第二條 管内醫師ニ乏シキ地方區域制限ハ豫テ本縣限相定メ區別段御省ヘ伺又ハ御屆ニハ不及儀ニ候哉

指令 十七年二月廿六日 第一條 第二條トモ其郡度伺出ツヘシ

●醫師免許規則之儀ニ付佐賀縣ヨリ内務省ヘ伺十六年十二月十一日

第三拾四號布告醫師免許規則中疑團之廉々左ニ相伺候也

第一條 規則第五條ニ醫師ニ乏シキ地ニ於テハ府知事縣令ノ具狀ニ依リ醫術開業試驗ヲ經サル者ト雖モ其履歷ニヨ

リ假開業免狀ヲ授與スルコトアルヘシト有之其履歷トハ三ヶ年以上醫學ヲ修業シタル實蹟ヲ有シ其師若クハ他ノ開

業醫師(縣限リ取給鑑札付シタル從來開業醫師モ準之)二名以上ノ保證アルモノ等凡程度モ有之モノニ候哉

第二條 規則第八條ニ開業免狀ヲ毀損亡失シ又ハ氏名本籍ノ換ニ由リ免狀ノ番替ヲ願フモノ變云々トアリ該免狀ハ

本籍縣内ニ限リ他縣轉籍等ノ者ハ必ス番替ヲ要セシムヘク儀ニ有之候哉

第三條 規則第六條第九條ノ手数料ハ其時々或ハ一ヶ月取廻メ御省ヘ送納スヘキ哉

指令 十七年三月廿五日 第一條 修學年限及保證ノ制限ナシ

第二條 他府縣轉籍者ハ番替セシムヘシ 第三條 本年當省乙第十七號通ノ通心得ヘシ

●藥舖醫師兼業之儀ニ付福井縣ヨリ内務省ヘ伺十六年五月十一日

曾テ御省免狀所持又ハ麻痺許可シタル藥舖ニシテ醫學修業ノ上成規ニ據リ醫術開業出願候節試驗問題請求致候ハ

御交附可相成ハ勿論ト信認仕候而シテ試驗成績合格者ヘ開業免狀交附セラレシ上ハ右醫師從前藥舖業相兼業スルモ

固ヨリ醫師試驗規則其他ニ規忌之明文無之限リハ別ニ妨ク無之儀ト相心得可然哉

指令 同之通十七年四月十一日

醫師兼業之儀ニ付埼玉縣ヨリ内務省へ伺十七年四月十九日
醫師ニシテ兼業不相成儀ハ各縣同御指令等ニモ相見候就テハ藥種添ト雖正同業不相成儀ニ候哉
指令 十七年四月三十日 伺之趣藥種兩兼業不相成儀ト可心得事

醫師開業免狀授與之儀ニ付宮城縣ヨリ内務省へ伺十六年十二月二十四日

御省乙第四拾七號ヲ以テ明治十年御省乙第七拾六號達以後奉職ノ者ト雖正該達ニ比準スヘキモハ志願ニ依リ直ニ
醫師開業免狀御授與可相成旨御達相成候付テハ縣立遊病院擔當醫員ノ如キハ勿論該達ニ比準スルヲ得ヘキ儀ト存候
處縣立病院附屬梅醫院擔當醫員及郡區醫員ノ如キモ縣令ノ命スル處ニシテ地方稅賦金等ヨリ俸給々與致置候儀ニモ
有之且地方衛生會員中醫業ヲ以テ撰拔セラレタルモノハ俸給ハ給與不致ト雖正同業不相成旨御指令ヨリ命シ置候ニ就テハ是亦
該達ニ比準スルヲ得候儀ト相心得可然哉
指令 十七年五月二十日 醫師開業免狀授與ノ儀何書ニ掲載スル種類ノモノハ總テ許可ノ限リニアラス

秋田縣ヨリ醫師開業後期試驗願ノ儀ニ付内務省衛生局へ照會十七年六月廿六日

醫師開業後期試驗願出願ノ者ハ前期試驗及第ノ證書ヲ相添願出ヘキ成規ニ候處右ハ一身ノ榮譽ヲ證スルモノニシテ長
ク保存致度旨願出之者有之事情尤モノ次第ニ候條本證書ハ當應ニ於テ調査ノ上其寫ヲ以テ進達致不苦儀ニ可有之哉
回答十七年七月五日 本月廿六日附同業後期試驗願出願ノ節前期試驗及第ノ證書寫ヲ添ヘ差出スモ苦シカラス
入箇々抜口中療治接骨等營業者取締御達中疑義ノ廉宮城縣ヨリ内務省へ伺
十八年三月二十八日

第一條 入箇々抜口中療治接骨等營業ノ者トアルハ右四業ノ外ニ鍼灸按摩等ノ者ヲモ合蓄セラルルハナ
第二條 從來口科又ハ整骨科ノ者明治十六年十二月御省乙第五十號御達ニ據リ醫籍編入進達ノ上御省ヨリ免狀下附
ノ者ヲ除キ其他右ノ如キ營業ヲ爲ス者ノ取締相立候儀ト心得可然哉
第三條 營業鑑札ハ願費ヨリ支辨スヘキヤ又ハ地方稅ヨリ支辨スヘキモノナルヤ
第四條 從來ノ營業者ハ此際各地方廳ニ於テ鑑札ヲ附與シ云々トアレハ從來ノ營業者出願期限ハ地方廳ニ於テ適宜
相定可然哉
指令 十八年四月二十日 第一條鍼灸按摩ハ合蓄セス
但鍼灸ハ明治十八年常省甲第十號達ノ通知心得按摩ハ其職ノ見込ニ任セ適宜取締相成候儀ハ苦シカラス
第二條第四條同ノ通 第三條後段同ノ通

死體解剖ノ件ニ付栃木縣ヨリ内務省へ伺十八年十月八日(十八年十一月十九日官報)

第一條 本年(七月)御省甲第二十五號御達ニ刑死者及病死者ニノ親族故舊其遺骸ノ下付ヲ請フ者ナキモハ官公立醫
學校若クハ病院ニ於テ解剖實驗ノ用ニ供スルヲ得ト有之候處右ハ監獄則第七十九條第一項ニ依リ其死亡シタル時
限ヨリ二十四時以内ニ遺骸ノ下付ヲ乞フ者ナクハ直ニ解剖スルトセハ親屬故舊遺地ニ在ル者ハ或ハ失認ノ掛念
アルニ付時限ニ關セシ全ク遺骸ノ下付ヲ出願セサル者ニ限リ解剖差許ス儀ト心得可然哉
第二條 前條遺骸解剖ノ儀ハ癩ニ刑死者遺骸ノ下付ヲ乞フモノナキモノ、外何人ニ不拘本人ノ情願ニアラサル者ト
其遺屬者ノ承諾ヲ得サル者トハ解剖不相成旨御指令ノ趣モ有之候處甲第二十五號御達ニ依リハ死者ノ
情願并ニ遺屬者ノ承諾ヲ要セサル儀ト心得可然哉
指令 十八年十月廿二日 伺之趣左ノ通知心得事 第一條同ノ通 但既ニ二十四時間ヲ過キ候埋葬セシモノハ解
剖ヲ許スヘカラサル者トス 第二條同ノ通

刑死者及死亡者解剖ノ件ニ付岡山縣ヨリ内務省へ伺十八年十一月七日

本年御省甲第二十五號ヲ以監獄則ニ掲クル所ノ刑死者及死亡者ニシテ親屬故舊其遺骸ノ下付ヲ請フ者ナキモハ官
公立醫學校若クハ病院ニ於テ該遺骸ヲ解剖實驗ノ用ニ供スル云々ノ儀御達相成候ニ付テハ右刑死者等解剖施行ノ節
ハ同達但書ノ通死體解剖後整理シテ原置ニ復シ不都合無之候可致ハ無論ノ儀ニ有之候得共整理原置ニ復セシ上ハ適
宜埋葬若クハ火葬ニ取計可然哉
指令 十八年十二月一日

病死體解剖ノ件ニ付山形縣ヨリ内務省へ伺十八年十二月四日(十九年一月四日官報)

病死體解剖ノ儀ハ醫術進歩ノ爲メ緊要ノ事柄ニ付雙方熟議ノ上郡役所へ届置候ハ、恐部ノ割製不苦哉ノ旨伺出候者
有之右ハ明治九年七月二十九日付三府へ御達ノ類例モ有之同種相心得可然哉
指令 十八年十二月二十七日 伺ノ趣雙方熟議タリトモ官ノ許可ヲ可得儀ト可心得事

醫師開業免狀出願ノ際誤記セル族籍等訂正出願ノ件ニ付靜岡縣ヨリ衛生局

醫師開業免狀出願ノ際族籍姓名年齡等誤記ノ爲メ後日訂正ヲ出願候者ハ明治十六年太政官第三拾五號御布告第六
條ノ部外ナル哉
回答 十八年十二月八日
明治十八年十月三十日付衛第六拾號ヲ以テ醫師開業免狀出願ノ際族籍姓名年齡等誤記シタルモノ處分方ノ儀ニ付

御照會ノ趣致了承候右ハ總テ醫師免許規則第八條第九條ノ手續ニ據リ出願爲致可然ト被存候條右様御領承有之此度
段及御回答候也

第八十一章 水災後傳染病豫防心得

内務省報告

水災ニ因リテ害ヲ人身ニ及ホスモノ特ニ衣食住ノ欠乏又ハ變更ニ在ルノミナラス百般ノ汚物ヲ土地居宅若クハ飲料水ノ源泉ニ混淆シ又ハ地上ニ存在セル動植物質ヲ腐敗セシメ以テ間接ニ流行病毒ヲ醸成スルノ恐アリ夫數万ノ人民家ヲ失ヒ食ヲ得サレハ健康ノ身体モ猶ホ病ニ罹ルベキニ不幸ニシテ又流行病ノ發生スルニ遭ハハ實ニ無上ノ慘害ナラスヤ故ニ今日水災ノ余ヲ承タルノ地ニ在リテハ之カ豫防ニ注意スルヲ其緊要ニシテ暫時ヲ猶豫ス可ラス其最モ先ツ着手スベキハ水ノ退クヤ直チニ家屋ヲ洗淨シテ之ヲ乾燥セシメ又ハ街路園庭ニ存在セル動植物性ノ廢棄物ヲ聚メテ之ヲ海中ニ投シ之ヲ燒棄ル等凡ソ傳染病毒ヲ醸成シ又ハ其媒介ト爲ルベキノ害因ハ片時モ早ク之ヲ除却スルニ盡力スベシ水ハ地勢ノ高低ニ隨テ其ノ害ニ淺深大小ノ異ナルアレハ病毒ノ傳播ニ至リテハ高低ノ區別ナキモノナリ今左ニ簡便ナル豫防法ヲ記シテ各人ノ注意ヲ喚起ス

一 飲水ハ瀘過又煮沸シタルモノヲ用ヒ井戸ハ先ツ之ヲ浚ヘテ汚レ濁リタル水ヲ除キ已ニ清シテ臭ナク又不快ノ味ナキニ至リテ飲用トスベシ

一 水ニ浸シタル家屋ハ水ノ退キタル後清水ニテ其隅々迄モ洗淨シ殊ニ居間庖厨及ヒ日用ノ道具ハ丁寧ニ洗滌スベシ

但シ極テ不潔ナリト認ムル屋内ノ箇所ハ亞硫酸瓦斯ヲ以テ熏蒸シ又ハ「コロール

カルキ」水等適當ノ消毒藥ヲ加ヘタル水ヲ以テ洗淨スベシ

一 住居ハ洗淨シタル後窓戶ヲ殘テス明開キテ大氣ノ流通ヲ促シ又ハ火力ヲ借リテ速ニ燥カシムベシ

一 屋傍ノ地面又ハ溝渠等ノ溜水ハ速ニ疎通シ又疊ノ濕リタル分ハ用ヒサルヲ可トスレ

已ムヲ得スシテ之ヲ用ユルホハ數日間ノ日光ニ曝シテ全ク乾シ又床板ヲ放シ床下ノ溜水ヲ去リテ充分ニ燥スベシ其不潔ト認ムル箇所ニハ下直ナル消毒藥(「コロールカ
ルキ」石炭酸)ヲ投スベシ

一 水ノ退キタル後街路又ハ園庭ニ存在セル廢棄物ハ速ニ取聚メテ之ヲ燒棄ルカ又ハ海中ニ投スベシ

以上ノ清潔法乾燥法ヲ行フニ非サレハ水ノ退キタル後直チニ其家屋ニ起臥スベカラ

ス若シ己ヲ得スシテ歸任スルホハ次ノ數項ニ注意スベシ

一 各人ノ養生ニ注意スルヲ流行病アルホノ如クシ身体ヲ温包シ温暖飲食ヲ用ユベシ

一時々火ヲ焚キテ室内ヲ乾シ及窓戶ヲ開キテ大氣ヲ流通セシムベシ就寢ノ前ニ於テハ別シテ然リ

一 簞笥戸棚等屋内ノ道具ハ壁際ヨリ一尺許モ離シ置キ濕氣ノ蒸散ヲ妨ケサル様ニスベシ殊ニ食物ヲ貯フル器ハ速ニ乾燥セシムベシ

第八十二章 賣藥規則

明治十年一月二十日
第七號布告

賣藥規則別冊ノ通相定候條此旨布告候事

(別冊)

賣藥規則

第一章

第一條 此規則ニ稱スル處ノ賣藥トハ丸藥膏藥煉藥水藥浴劑散藥煎藥等ヲ調製シ效能

書ヲ附シ販賣スルモノヲ云フ十年第八十九號布告ヲ以テ全條改正

第二條 此賣藥營業者ハ藥味分量用法服用功能ヲ詳記シタル書ニ族籍氏名ヲ記シ其管

轄廳ニ願出免許鑑札ヲ受クベシ十一年第二十七號布告ヲ以テ(管轄廳)ノ下八字ヲ削リ

但免許ヲ受ケタル者ニケ所以上ニ於テ之ヲ調製スル時ハ其箇所毎ニ免許鑑札ヲ受

クベシ十五年第五十二號布告

第三條 管轄廳ニ於テハ願書ヲ檢査シ其製藥配伍ノ藥品劇毒微毒ニ拘ハラス取扱上失

誤ヲ生シ易キモノ及ヒ毒藥劇藥取締ニ關係スルモノハ之ヲ許ササルベシ十一年第二十七號布告ヲ以テ(內務省)ヲ(管轄廳)ト改メ(毒藥)ノ下(劇藥)ノ二字ヲ加フ

第四條 第八條ニ記シタル期限中藥味分量用法服用能書ヲ改正セント欲スル者其由ヲ

届出舊鑑札ヲ返納シテ更ニ新鑑札ヲ願受クベシ

第五條 賣藥ヲ請賣セント欲シ其營業者ノ許諾ヲ得タルモノハ族籍氏名ヲ記シタル願

書ニ營業者所持ノ免許鑑札寫及ヒ營業者ト取結ヒタル約定書トヲ添ヘ其管轄廳ヘ願

出免許鑑札ヲ受クベシ十年第八十九號布告ヲ以テ全條改正シ十二年第二十七號布告ヲ以テ(管轄廳)ノ下十三字ヲ削リ(ク)ノ一字ヲ加フ

第六條 賣藥營業者及ヒ請賣者共必ス免許ノ看板ヲ掲クベシ

第七條 賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自ラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サシメ

ント欲スルハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之ヲ所持ス

ベシ

第八條 營業鑑札請賣鑑札行商鑑札ハ其鑑札記載ノ月ヨリ滿五年ヲ以テ免許ノ期限ト

ス此期限ヲ過キ尙免許ヲ得ント欲スルモノハ舊鑑札ヲ返納シ更ニ新鑑札ヲ願受クベ

シ

第九條 第八條ニ記シタル期限中第四條ノ改正發賣ヲ願出之ヲ免許スル時ハ新鑑札記

載ノ月ヲ以テ一期ノ初月トナスベシ

第十條 免許期限内ト雖ヒ其製藥第三條ニ掲クル處ノ有害品ナルヲ更ニ發見スル時或

ハ營業者製藥ヲ粗惡ニスル等ノ一アル時ハ直ニ鑑札ヲ取上ケ發賣ヲ禁止スル一アル

ベシ十一年第二十七號布告ヲ以テ(有罪)ヲ(有害)ニ改ム

第十一條 營業者廢業スルカ又ハ禁止セラル、時ハ其請賣者及ヒ賣子共其販賣ヲ許サ

ス

第十二條 諸鑑札ヲ遺失シ又ハ水火盜難ニ因テ毀失シタル時ハ其仔細ヲ詳記シテ管轄

廳ヘ届出再ヒ之ヲ願受クベシ

第十三條 免許鑑札ヲ他人ニ讓渡サント欲スル者ハ雙方連印ノ願書ヲ管轄廳ニ差出シ

名前書換ヲ請フベシ

第十四條 賣藥營業者及ヒ請賣者免許期限中其相續人ニ於テ之ヲ相續スル時ハ其由ヲ

記シ管轄廳へ鑑札名前書換ヲ請フベシ十年第八十九號布告ヲ以テ全條改正
 第十五條 賣藥營業者廢業シ若シクハ禁止セラレタル所ハ營業者ハ勿論其請賣者ニ於テモ總テ諸鑑札ヲ返納スベシ

第二章

第十六條 賣藥營業者ハ左ノ通税金並鑑札料ヲ上納スベシ十四年第六號布告ヲ以テ(賣藥營業者)ノ下及ヒ請賣者ノ五字ヲ削リ(右鑑札料)ノ次(賣藥請賣鑑札料)及ヒ(賣藥行商鑑札料)ノ二項ヲ削ル

賣藥營業稅

藥劑一方ニ付一ケ年 金貳圓

右鑑札料

藥劑一方ニ付一枚 金二十錢

但第二條但書ニ依リ免許鑑札ヲ受クル者ハ其箇所毎ニ本文ノ税金并鑑札料ヲ納ムベシ十五年第五十二號布告

第十七條 水火盜難ニ因リ鑑札ヲ毀失シ更ニ新鑑札ヲ願受ル時ハ其鑑札料ノ半高ヲ納ムベシ

第十八條 税金ハ毎年兩度ニ區分シ前半年分ハ一月三十一日限リ後半年分ハ翌年七月三十一日限リ鑑札料ハ其都度並ニ管轄廳ニ上納スベシ十一年第四號布告改正

第十九條 税金ハ六月以前免許ノ者ハ全年分七月以後ハ半年分廢業ノ者ハ七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分ヲ納ムベシ

但第十條ノ有害品ナルヲ更ニ發見セシ時ニ限リ月割ヲ以テ税金ヲ納メシムベシ

十一年第二十七號布告ヲ以テ(有害)ヲ(有害)ニ改ム

第三章

十年第十六號布告
 第三章則ハ第六日ヨリ施行ス

第二十條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ自ラ行商シ又ハ行商セシムル者及ヒ之ヲ貸ス者又ハ期限過タル鑑札ヲ以テ自ラ行商シ又ハ行商セシムル者ハ其鑑札ヲ取上ケ藥劑一方ニ付五圓ノ罰金ヲ科スベシ

第二十一條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ又ハ期限過キタル鑑札ヲ以テ請賣スル者及ヒ無鑑札ノ者ヲシテ請賣セシメ又ハ鑑札ヲ貸ス者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ没入シ藥劑一方ニ付十圓ノ罰金ヲ科スベシ

第二十二條 免許ヲ受ケスシテ私ニ藥味分量用法服量能書等ヲ改更シ又ハ許可ヲ經スシテ無稽ノ妄說ヲ記載シ世人ヲ術惑スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ没入シ藥劑一方ニ付十圓以上二十五圓以下ノ罰金ヲ科スベシ

第二十三條 無鑑札ニテ營業スル者又ハ營業者ニシテ私ニ請賣者ニ藥劑ヲ調製セシムル者又ハ請賣者自ラ之ヲ調製スル者ハ其製藥及ヒ賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付二十五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ科スベシ十四年第六號布告ヲ以テ(營業者)ノ下三十八字ヲ追加ス

第二十四條 諸鑑札ヲ偽造シ又ハ他人ノ賣藥ヲ贗造シテ發賣スル者ハ其製藥及ヒ其賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付五十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ科スベシ

第二十五條 私ニ有毒藥ヲ配伍スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥及ヒ其賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付百圓以上五百圓以下ノ罰金ヲ科スベシ

第九類 衛生

第十四年内乙
第廿五號達
チ以テ請賣
行商及監札
料及行商製
作除ノ一項
ナリ

第二十六條 以上ノ犯則者ヲ見届ケ訴出ル者アル時ハ事實取札ノ上相違ナキニ於テハ其賞トシテ其罰金ノ半高キ與フヘシ

○賣藥取扱手續 明治十年三月十二日
内務省乙第三十二號府縣へ達

本年一月太政官第七號賣藥規則公布相成候ニ付テハ左ノ手續書及書式雛形ニ照準取扱可申此旨相達候事

- 一 昨明治八年七月以降當省ニ於テ下附候賣藥鑑札ハ追テ相達候迄免許發賣共當分書替爲願出ニ不及規則公布後相渡候鑑札同様相心得ヘシ
 - 一 前條ノ鑑札所持ノモノ營業免許年季ハ其鑑札ニ記載ノ月ヨリ起算スヘシ尤税金ノ儀ハ本年分ヨリ徵收スヘキニ付昨九年マテノ分ハ納メシムルニ及ハス
 - 一 但鑑札料ハ總テ上納爲致定期納附ノ節勘定帳ニ其區分ヲナスヘシ
 - 一 營業鑑札請賣鑑札ハ所持人ノ居家ニ限り營業ノ權アルモノニ付別戶支店等ニ於テハ別ニ其居住人ニ於テ鑑札ヲ所持スルニ非サレハ營業スルヲ得ヘカラス 十年内務大藏兩省
乙第六十五號達チ
以テ本項
ヲ追加ス
 - 一 前條營業鑑札所持ノ賣藥ヲ請賣又ハ行商業致シ居候分來ル四月三十日マテニ悉皆爲願出鑑札交付取計フヘシ 同上達チ以テ次項ヲ改正ス
但既出ニ風スルヲ以テ除之
 - 一 賣藥營業者並ニ請賣者免許看板ハ左式ノ通製セシムヘシ
- 豎 三尺 寸 法 同上

二十一年六
月十一日內
務省訓令第
十三號ヲ以
テ行商鑑札
式ヲ定ムル
第八十二章
末項參看

許 免 賣 藥 營 業

許 免 賣 藥 請 賣 業

四六

- 一 税金并ニ諸鑑札料納附ノ節ハ上納証ヲ添ユルノミニ勘定帳ハ一ケ年取束チ毎年八月三十一日限り該地差立大藏省租稅局へ進達スヘシ
 - 一 但シ會計年度ノ都合モ有之本年一月ヨリ六月マテノ分ハ別牒ニ製シ八月三十一日限り該地差立同局へ進達スヘシ 同上達チ以テ
全項ヲ改正ス
 - 一 行商鑑札ハ各管廳ニ於テ雛形ノ通之ヲ製シ願人ニ下附スヘシ尤行商スル藥劑ハ其方名ヲ一々鑑札ニ記載スヘシ
 - 一 但一人ニシテ數人ノ藥劑ヲ行商スル時ハ方數ニ拘ハラス營業者異ナル毎ニ鑑札ヲ別製シテ之ヲ渡スヘシ
 - 一 行商鑑札ヲ下付シタル分ハ其都度明細簿ニ登記シ置キ每半年分宛別ニ一本ヲ調製シ一月七月ノ兩度内務省ニ開申スヘシ 十四年乙第廿五號省
達チ以テ次項ヲ別ル
 - 一 賣藥營業稅並諸鑑札料上納勘定帳雛形 十年内務大藏兩省乙第六
十五號達チ以テ全項改正
- 明治何年七月ヨリ同何年六月マテ賣藥營業稅並諸鑑札料仕上勘定帳
賣藥營業願書式
明治八年當省乙第九十八號達雛形ニ照準スヘシ
(雛形并書式畧ス)
- 本年九月太政官第二十七號ヲ以テ賣藥規則改正公布相成候ニ付テハ左ノ手續并雛形ニ

照準シ取扱可申此旨相達候事 十一年十一月八日
内務省乙第七十號府縣へ達

賣藥取扱手續

- 一 鑑札料紙ハ別紙離形之通相製シ當省ヨリ相渡スヘシ
- 一 右料紙ハ凡積ヲ以テ毎年半期分宛一月七月兩度ニ受取方當省へ申立ヘシ
- 一 管廳ニ於テ鑑札ニ記スヘキ方名姓名番號等離形之通記入押印之上下渡スヘシ
- 一 一家畜牛馬等ニ用ユル賣藥鑑札ハ赤輪廓之分ヲ用ユヘシ
- 一 免許期限内ニ於テ鑑札書換テ要スル分ハ其事由并ニ書換タル年月日ヲ鑑札裏面ニ記入下附スヘシ

一 賣藥廢業鑑札是迄當省へ返納致來候處自今其義ニ及ハス管廳ニ於テ消却スヘシ
十四年乙第四十三號省達
 ナ以テ次ノ一項ヲ削ル

(鑑札離形畧之)

○賣藥請賣鑑札並行商鑑札製作費支辨方

明治十四年四月二十
六日

第三十二號
府縣へ達

賣藥請賣鑑札並行商鑑札製作費ノ儀ハ自今明治十三年四月第十六號布告第三條第七項ノ
 内ヲ以テ支辨スヘシ此旨相達候事

○賣藥手續中請賣鑑札及行商鑑札並行商鑑札製作費ノ

一項ヲ削除シ更ニ取扱方ヲ示ス

明治十四年四月三十日
内務省乙第二十五號府縣へ達

本年四月 太政官第三十二號公達相成候ニ付テハ明治十年三月 當省乙第三十二號達賣藥取扱
 手續中請賣鑑札料及ヒ行商鑑札料ノ廉並行商鑑札製作費云々ノ一項削除候條更ニ左ノ
 條項ニ照準シ取扱可申此旨相達候事

- 一 賣藥請賣及ヒ行商ニ地方稅ヲ賦課スルトハ本年府縣會ニ於テ其稅額ヲ議定シ十四年
 度ヨリ徵收スヘシ
- 一 請賣鑑札料紙ハ自今大藏省ヨリ配賦不致候條各管轄廳ニ於テ從前離形ノ通製造スヘ
 シ

但大藏省ヨリ下付セシ鑑札所持ノ者ハ別段引替ニ不及且ツ本年分豫算ヲ以テ受取
 候料紙未用ノ分ハ同省へ返納スヘシ

一 請賣者ニテ其賣藥ヲ調製候儀ハ無之筈ニハ候得共或ハ營業者ノ藥方分量ヲ傳ハリ調
 製候向モ有之候ハ、改正規則第二十三條ノ罰則ニ相當ルヘキモノニ付速ニ調製相止
 ヲ更ニ賣藥營業ヲ願出候様取計フヘシ

○賣藥行商鑑札表面書式

明治二十一年六月十一日
内務省訓令第十三號府縣

明治十年當省乙第三十二號達第八項行商鑑札表面自今左ノ請式ニ依リ記載セシムヘシ
 明治二十一年六月十一日

賣藥營業者自ラ行商ノ分

賣藥營業者賣子ヲ派出シ行商セシムル分

賣藥行商許可之證

賣藥行商許可之證

何廳府縣郡區町村族籍
賣藥營業者
氏 名
一方名 一方名 一方名
一方名 一方名
右行商開屆候事

何廳府縣郡區町村族籍
賣藥營業者氏
賣子 氏 名
一方名 一方名 一方名
一方名 一方名
右行商開屆候事

賣藥請賣者自ラ行商ノ分

賣藥請賣者賣子ヲ派出シ行商セシムル分

賣藥行商許可之證

何廳府縣郡區町村族籍
賣藥營業人 氏 名
何廳府縣郡區町村族籍
賣藥請賣營業 氏 名
一方名 一方名 一方名
一方名 一方名
右行商開屆候事

賣藥行商許可之證

何廳府縣郡區町村族籍
賣藥營業人 氏 名
何廳府縣郡區町村族籍
賣藥請賣營業 氏 名
賣子 氏 名
一方名 一方名 一方名
一方名 一方名
右行商開屆候事

● 伺 指 令

● 賣藥營業鑑札裏面へ滿期年月記載之儀ニ付岐阜縣ヨリ內務省へ伺 十六年五月廿五日
賣藥營業鑑札滿期之儀ニ付テハ兼テ取締法モ相般且其期ニ際シ夫々注意方相違候得共取締上不都合之廉有之候而已
ナラス夫是手數ヲ要シ候次第ニ付自今鑑札裏面へ滿期年月記載候モ不苦候哉右ハ十四年十一月大阪府へ伺指令之趣
モ有之候儀ニ付至急何分之御指揮有之度候也
指令 伺之通 十六年七月十日

● 賣藥營業請賣者ノ儀ニ付島根縣ヨリ內務省へ伺 十六年五月十二日
賣藥營業者カ免許期限ヲ過キタルトキ請賣者ハ期限内ト雖モ營業者カセキ續テ免許ノ報ヲ得サル内ハ該藥品ハ販賣
不相成哉且ツ之ヲ販賣スルモ罰令ニ正條ナキ以上ハ其筋へ告發スルニ及ハスヤ
指令 十六年八月三日

● 期限過キタル鑑札ヲ以テ賣藥營業ノ者處分方ノ儀ニ付新潟縣ヨリ內務省へ
伺 十六年五月十四日
賣藥請賣者處分ノ儀ハ前段伺ノ通後段ノ取締ハ前段ニ據リ了知スヘシ

● 賣藥請賣ノ者期限過キタル鑑札ヲ以テ營業者カ爲シタル者ハ賣藥規則第二十條第二十一條ニ於テ其罰例ヲ明記有
之候へ共營業者ニシテ同上ノ場合ニ於テハ準據スヘキ明文無之彼是ノ輕重不權衡ヲ免レサル條被考候條第二十三條
無鑑札營業スル者トナシ可及告發候ト相心得可然哉此段相伺候也
指令 伺之通 十六年八月三日

● 異邦ノ賣藥請賣ノ儀ニ付山口縣ヨリ內務省へ伺 十六年六月十八日
爰ニ支那人ノ製藥ニ係ル俗ニ唐人膏藥ト稱スル賣藥ヲ請賣致度願出候モノ有之右等モ都テ賣藥規則ニ據リ差許可然
哉相伺候也
指令 十六年八月八日

● 丸散藥等ノ藥劑ニ効能書ヲ付セス販賣ノ儀ニ付山梨縣ヨリ內務省へ伺
十六年六月四日

丸散膏丹等ノ類ニ効能書ヲ附セズ單ニ方名及用法代價ノミヲ附記シテ販賣スルモノ有之右ハ効能書ヲ附セサル以上ハ商標規則外ノ者ト見做サ、ルヲ得サル儀ニ可有之哉

指令 十六年八月十四日

指而伺之趣治病ノ目的ヲ以テ販賣スルモノハ總テ商標規則ニ準據セシムヘキ儀ト可心得事

●施藥ノ儀ニ付岡山縣ヨリ内務省へ伺十六年六月廿七日

賣藥規則ニ準シ方名製法用法功能等ヲ詳記シテ無代價施與致度旨出願候者へハ鑑札附與徵稅方等一般賣藥同様取扱可然乎將タ右等之儀ハ不問屆儀ニ候乎

指令 後段伺之通 十六年八月八日

●賣藥營業者免許期限過鑑札書換及税金徴收之儀ニ付山形縣ヨリ内務大藏兩省へ伺十五年一月十七日

賣藥營業者免許鑑札記載ノ月ヨリ滿五年ヲ過キ尚鑑札ヲ付ント欲スル者ハ舊鑑札ヲ返納シ更ニ新鑑札ヲ願受クヘシト規則上正條ニ付免許期限ニ至リ新鑑札願受クル者ハ鑑札書換手数料ヲ徴シ引續キ營業者トシ亦期限過ル際迄新鑑札願受クサル者ハ管ニ取調傳鑑札返納可爲致順序ノ處若シ免許期限過新鑑札願受クノ者ハ營業申請セシ儀ニ付一旦廢管届出サセタル上更ニ營業出願セシメ新規鑑札料及營業稅トモ徴收シ可然或ハ此等之者ト雖モ引續キ營業者ト同視シ鑑札書換手数料而已徴收可然哉且免許期限過キノ鑑札ヲ以テ賣藥營業セシ者有之時ハ規則第二十三條ノ無鑑札營業者ニ照準スヘキヤ右相伺候也

指令 十六年九月八日

伺之趣左之通可心得事
前段免許期限ニ至リ引續キ營業鑑札下付候モノハ新規營業ト見做鑑札料營業稅共徴收可致事
後段伺之通

●藥湯營業ノ儀ニ付福島縣ヨリ司法省へ伺十五年五月十八日

藥湯營業免許ヲ得タルモノヨリ其調劑品ヲ買請温度及水登等部テ該營業者ノ方法ニ依ヒ藥湯營業スルモノ、如キハ賣藥請許同様之手續ヲ以テ鑑札下付可然哉此段相伺候也

指令 伺之通 十六年九月十四日

●賣藥營業人其販賣ノ効能書中ニ方名姓名等記載方之儀ニ付京都府ヨリ司法省へ伺十六年八月廿七日

第一條 賣藥營業者ニシテ免許鑑札而ノ方名ヲ上包シ又能書等ニ記入セサルモノ有之縱令ハ方名山田藥ヲ許可ナルニ其包紙ハ特ニ振藥トノ記載スル類右ハ方名變換ニ係リ鑑札而ト離離シ開賣上不都合ニ付今後ハ素ヨリ既往ノ分ト雖モ右時發願候ハ、直ニ鑑札而ト同一ノ方名ニ訂正爲致可然儀ニ候哉
第二條 甲ノ營業人有之調劑ノ藥品分量主治ノ異ナルト雖モ同方名ニテ其販賣ノ包紙ニハ同ク單ニ方名ノ記載シ則ニ其營業者ノ姓名ヲ記入無之ヨリ買得者ニ於テ甲乙識別シ難ク他日其配藥中ニ不正ノ所業發見スルト雖モ其證跡ヲ舉クルニ困ミ取締上差支不抄候間効能書ノ表面ヘハ是又同上必ス營業者ノ姓名ヲ詳記シ甲乙共一目瞭然ラシムル爲致可然哉

指令 指而伺之通 十六年九月十四日

●賣藥請賣及行商鑑札方數記載方之儀ニ付福井縣ヨリ内務省へ伺十六年五月二十四日

賣藥請賣及行商鑑札方數記載方之儀ハ明治十年御省乙第三十二號及十一年乙第七十號御達ニ據リ五方迄ヲ限リ記載下附致來候成十四年第三十二號公達ヲ以テ自今郡區吏員給料旅費及廳中諸費之内ヲ以テ支辨可致標相候候ニ就而ハ其方數之如キハ縣限リ適宜記載致シ可然哉此段相伺候也

指令 十六年九月十九日

●賣藥能書中六種傳染病之項削除之儀ニ付岐阜縣ヨリ内務省へ伺十六年十月十日

賣藥能書中六種傳染病ノ項アルモ從來許可致來候處右ハ人民ニ於テ自然傳染ニ罹ルモ賣藥ヲ服シ傳染ヲ受ケスシテ該病陰蔽之弊ヲ醸成候モ難計取締上ニモ關係候儀ニ付自今能書中六種傳染病之項削除販賣爲致度此段相伺候也

指令 十六年十月十八日

●賣藥營業鑑札及受賣行商鑑札裏面記載方ノ儀ニ付三重縣ヨリ内務省へ伺

十六年十月九日

發賣營業鑑札滿期暫替或ハ廢方ニ際シ取締上往々不都合ノ虞モ有之就テハ十四年十一月大坂府並ニ本年五月岐阜縣
伺御指令ノ趣モ有之儀ニ付當縣ニ於テモ右鑑札下附ノ際其裏面ヘ滿期ノ年月ヲ朱書シ下渡度且受賣行商鑑札ノ儀モ
右同様罷載ノ上下渡候爲取扱度此段相伺候也
指令十六年十月廿二日

書面伺之趣相屆候事

●鐵泉販賣ノ儀ニ付島根縣ヨリ內務省ヘ同十六年九月八日

鐵泉ヲ採掘運搬シテ病者ヲ浴セシムルハ賣藥規則外トシ可取扱旨明治十一年御省番外御通賣藥檢査心得山ニ有之候
ニ付テハ內服ノ爲販賣スルモノモ同様取扱可然被存候得共之ニ効能ヲ附シ販賣スルニ至リテハ稍異ナル所有之候儀
被相考候處是亦同様取扱差支無之候哉或ハ賣藥規則ニ準シ可取扱儀ニ候哉何分ノ御指揮相成度候也
指令十六年十月一日

書面伺之趣ハ賣藥規則外トシ取扱候儀ト可心得事

●函館縣ヨリ內務省衛生局ヘ照會及回答十六年十一月三十日

耕作物害虫驅除ノ賣藥願出ルトキハ家畜牛馬等ノ賣藥ト同様開屆ケ差支ナキヤ
回答十六年十二月五日

耕作物害虫驅除ノ目的ニテ販賣スル藥品ハ賣藥規則外トナシ御願限リ便宜御成相成然ルヘク候

●賣藥營業者ノ儀ニ付岡山縣ヨリ內務省ヘ同十七年二月二十五日

發ニ賣藥營業及ヒ請賣者支店ヲ開設シ販賣セント欲スル者ハ十年御省乙第六十五號御達ニ別戶支店等ニ於テハ其居
住人ニ於テ鑑札ヲ所持スルニ非レハ云々ト有之然ル上ハ鑑札記載方ニ於テハ本上營業人ノ名前ヘ伺別戶支店ヲ擔當
スル者ノ姓名ヲモ記載可下渡儀ニ可有之哉果シテ然ラハ税金ハ本店而已ニテ可然哉
指令十七年四月九日

伺ノ趣鑑札而ニハ何誰支店代理人何誰ト記シ營業稅及鑑札料共箇所毎ニ徵收スル儀ト可心得事

●賣藥鑑札ノ儀ニ付山形縣ヨリ內務省ヘ同十七年四月十六日

賣藥營業者滿期換願ヒシタルモ其請賣行商者鑑札ハ規則第八條ノ年取迫替換ヘス可然ヤ
指令十七年四月廿二日

伺之趣

●賣藥營業之儀ニ付埼玉縣ヨリ內務省ヘ同十七年四月九日

賣藥營業者ニシテ甲地ニ住居シ乙地ニ一定之床見世テ設ケ日々出張製劑ヲ販賣スルモノ有之右之如キハ行商鑑札ヲ
付與シ可然哉又ハ請賣鑑札ヲ付與可致哉
指令十七年五月九日

前段伺之趣

●賣藥規則中疑義之件栃木縣ヨリ內務省ヘ同十七年四月十八日

賣藥規則第十三條ニ據リ免許鑑札ヲ他人ニ讓渡サントスル者及ヒ第十四條ニヨリ免許期限中其相續人ニ於テ之ヲ相
續スル時又水火盜難其他紛失等ニ付免許鑑札替換出願中鑑札所持不致ト雖モ期限中故營業不苦儀ト相心得可然哉
指令十七年五月十六日

伺之趣

第八十三章

藥品取扱規則

明治十三年一月十七日
第一號布告

藥品取扱規則左ノ通相定來ル二月十五日ヨリ施行シ明治十年二月第二十號布告毒藥劇藥
取扱規則ハ右同日限相廢候條此旨布告候事

藥品取扱規則

第一條 凡ソ藥品中最注意シテ精撰スヘキモノヲ第一類注意トシ其性効峻烈ニシテ僅
少ノ分量ト雖モ直チニ生命ヲ傷害スルコ足ルヘキモノヲ第二類注意トシ其性効第二類

第十三號布告
第十三號布告
第十三號布告
第十三號布告
第十四號布告

ノ如ク峻烈ナラサルモ用量ニ因テ容易ニ危害ヲ來スヘキモノヲ第三類トス其類目別表ノ如シ

但新タニ發見及ヒ舶來シタル藥品ハ先ツ最寄司藥場ニ出シテ試験ヲ受ケ其告示スル所ニ從フヘシ

第二條 第一類藥品ハ其性効ノ緩劇ニ拘ハラス若シ精良ナラサルトキハ醫師ノ目的ヲ誤リ以テ人命ヲ危フスルカ故ニ其粗製品故意ニ他物ヲ混シタルニアラス全ク化學製造上或ハ採收ノ際其法疎漏ニシテ純精ナラサルモノノ類ヲ云フ之ヲ藥用トシテ販賣スヘカラス

但藥舖ニ於テ自ラ其真否ヲ鑑別シ能ハサルトキハ最寄司藥場ニ請ヒ試験ヲ受クルコトヲ得十七年第五號布告ヲ以テ(請ヒ)ニトテ得(下)無費ニテ其ノ五字ヲ削除ス

第三條 第一類中ノ粗製品ト雖モ仍ホ學術上工職上等ノ用ニ供スルニ足ルモノハ粗製ノ字ヲ其器ニ明記シ之ヲ販賣スルコトヲ得

第四條 第二類第三類ノ藥品ハ醫師ノ處方書ニ據テ調合スルノ外醫師藥舖化學者製藥者工職者等ヨリ品名量數需用ノ目的年月日及ヒ住所姓名ヲ詳記シタル證書ヲ以テスルニアラサレハ決シテ販賣或ハ授與スヘカラス

但證書處方書ハ之ヲ保存シ臨時ノ點檢ニ供スヘシ且本條ノ手續ニ依ルモノト雖モ幼稚ノモノ其他不安心ト認ムルモノニハ一切交付スヘカラス

第五條 第二類第三類ノ藥品ヲ販賣スルトキハ其器若クハ包紙ニ必ラス普通ノ名稱ヲ記シ且第二類ハ毒ノ字第三類ハ劇ノ字ヲ明書スヘシ

但醫師ノ處方書ニ據ラスシテ封緘ヲ開キタル第二類第三類ノ藥品ヲ小賣若クハ授與スルトキハ本文ノ外更ニ適應ノ器ニ入レ密封印スヘシ

第六條 第二條第四條本文ニ背戻シ又ハ贋品故意ニ他ノ物品ヲ本品ニ混合シテ其容量重態ヲ増スモルモノ、敗品總テ發敗、風化、或ハ潮解シ若クハ酸腐ヲ生シ陳敗ニ傾ク等ニ因リ其藥品本性ノ効力ヲ變シ或ハ其効力ヲ失スルモノノ類ヲ云フ販賣スルモノハ其贋敗品ヲ没入シ三十圓以上五百圓以下ノ罰金若クハ一月以上一年半以下ノ懲役第一條但書第四條但書及第三條第五條ニ背戻スルモノハ一圓以上二十五圓以下ノ罰金若クハ一日以上二十五日以下ノ懲役ヲ科シ又ハ罰金懲役ヲ併セ科スヘシ

第一類注意表

- 印度大麻葉及其製劑
- 麥奴及其製劑
- 乳酸鐵
- 吐根
- 礞砂精(アンモニヤ水)
- カラハル豆及其製劑
- ヨウウム
- 沃土鐵舍利別
- 莨菪葉并根及其製劑
- 番木鱧子及其製劑
- ペブシチ
- 吐酒石
- チキタリス葉及其製劑
- 肝油
- 沃土加里
- 第一沃土汞(黃色沃土)

第九類 衛生

第一コロール汞(甘汞)
 炭酸アンモモニヤ(硝砂華)
 蔓陀羅華及其製劑
 芫菁(斑蝥)
 コロラルヒドフライト
 格魯望篤實及其製劑
 阿片製劑
 醋酸アンモニヤ水(ミンデレリ精)
 サリシール酸及鹽類
 規尼鹽類
 硝酸銀
 稀酸セリウム
 エーテル(アール)
 ヒュス葉及其製劑
 莫爾比涅鹽類

第二類藥表

麟
 シラーレ(矢毒)
 カンタリヂーチ
 亞砒酸(異名 砒石、砒)其製劑及(雄黃、雌黃)
 砒化合物(砒石、砒)
 砒抱合物(雄黃、雌黃)
 臭素加里(ブロームカリウム)
 鹽基性硝酸砒
 蓖麻子油
 水素還元鐵

第二コロール汞(昇汞)
 老利爾結兒私水并苦扁桃水
 蒺刺巴脂并球根及其製劑
 コロ、フォルム
 格魯失屈謨實及其製劑
 アトロヒ子鹽類
 サントニー子
 薩爾撒根
 機那皮
 綿馬及其製劑
 失鳩答草及其製劑
 臭素加里(臭素、臭素私)
 鹽基性硝酸砒
 蓖麻子油
 水素還元鐵

揮發苦扁桃油
 有毒性アルカロイド并其鹽類
 ニコチチ、チキタリチ、ナルセーチ、ヴェラトリチ、ブルシチ、ニコチチ、コナーチ、コナーチ、ア
 トロヒチ、アコニチチ、エメチチ、ヒヨシアマチ、モルヒチ、ストリキニーチ等

猛劇汞劑
 白降汞、第一沃汞、第二沃汞、昇汞、赤降汞、硝酸亞酸化汞、青酸汞、生々乳
 青酸及其製劑

第三類藥表

印度大麻葉及其製劑
 番木鱉及其製劑
 麥奴及其製劑
 ヘルレボル根及其製劑
 吐酒石其他安質莫尼製劑
 藤黃
 硫酸
 苛性加里(腐蝕)
 芥子油及芥子精
 コナウム及其製劑

菘若葉并根及其製劑
 巴豆及巴豆油
 ポドヒリオン
 吐根及其製劑
 葎蒿首及其製劑
 チキタリス葉及其製劑
 カンパル豆及其製劑
 苛性曹達(腐蝕)
 甘汞及輕粉、汞灰散、藍丸
 沃土加里

ヨウウム鐵
 雙鸞菊球根(烏頭)及其製劑老利爾結兒私水并苦扁桃水
 ヴェネトリ根
 蒺藜巴脂并球根及其製劑
 芫菁(斑)及其製劑
 プロミウム(臭素)
 コロシウム實并根及其製劑
 コロトフオルム(迷藤)
 コロラルヒドレート
 コロム酸加里及重コロム酸加里
 亞鉛華其他亞鉛製劑
 醋酸鉛(糖)其他鉛製劑
 次醋酸銅其他銅製劑(酸化銅)
 硝酸銀
 臭素加里
 鹽化金ナトリウム
 鹽基性硝酸蒼鉛其他蒼鉛製劑
 ヒュス葉及其他製劑

ヨードホルミウム
 過酸滿俺酸加里及曹達
 蔓陀羅華葉及其製劑
 ケレナソート
 コロム酸
 コロシント實及其製劑
 コロトフコラルヒドレート
 コロダイン
 阿片及其製劑
 サヒナ葉及其製劑
 サントコーチ
 硝酸(硝石)
 失鳩管葉及其製劑
 鹽酸(海提精)
 鹽化水素酸
 鹽酸重土其他重土製劑
 エウホルピウム及其製劑
 石炭酸

瑞香皮及其製劑

○燐製ノ鼠取藥ヲ禁ス
大カンモニ一脂
明治十年三月二十二日
内務省乙第三十六號府縣へ達

從來燐製ノ鼠取藥ヲ以テ賣藥トナシ候儀聞届鑑札下渡候向有之候處右ハ毒藥ニテ到底民間誤用之虞ナキヲ免レンス殊ニ本年太政官第二十號毒劇藥取扱規則公布相成取締上ニモ關係候ニ付自今一切禁止候條右營業者有之府縣ハ其旨相達速ニ鑑札返納可取計此旨相達候事

但請賣業之モノモ同様賣業規則ニ照シ禁止之處分可相達候事

○アニリン其他鑛屬製ノ繪具染料取締方
明治十一年四月十八日
内務省乙第三十五號府縣へ達

近年アニリン其他鑛屬製ノ繪具染料ヲ以テ飲食物ニ著色スルモノ不抄趣ニ候處右ハ自然人身之健康ヲ害スルハ勿論中ニハ甚シキ中毒ニ罹リ忽チニ非命ノ横夭ヲ致スモノモ有之危険ノ至リニ候條各地方廳ニ於テ注意取締可致此旨相達候事
 追テ地方慣用ノ品ニヨリ毒性分ノ有無判然難致モノハ其原物相添當衛生局へ照會試驗ヲ受可申事

○繪具染料取締方
明治十三年三月十七日
内務省乙第十號府縣へ達

本年一月太政官第一號ヲ以テ藥品取扱規則公布相成候ニ付テハ繪具染料等モ第二類並第三類表中ニ掲載有之モノハ該規則ニ照シ賣買可致等ニ候條心得違ノ者無之様可取計此旨相達候事

○摺附木製造ニ黄燐ヲ用フルヲ禁ス

明治十八年一月二十八日
内務省甲第一號警視廳府縣へ

摺附木製造ニ黄燐ヲ用ヒ候儀ハ自今禁止候様可致此旨相達候事

○藥品其他検査手数料ヲ定ム

明治十七年十月十四日
内務省甲第二十七號告示

當省衛生局東京大阪検査所ニ於テ舉行スル藥品其他ノモノノ検査手数料左ノ通相定來ル十一月一日ヨリ徴收候條此旨告示候事

検査手数料

一藥品 一容器(瓶ノ類)ニ付金一錢乃至五錢

但大容器ノ藥品ヲ検査シタル上小容器ニ分チテ印紙ヲ貼付スルモノハ其小容器ヲ以テ一容器トス尤單ニ告示箋ヲ與フルモノハ其個數ノ多少ニ拘ハラズ金一圓ヲ徴ス

左ノ各項手数料ハ一個毎ニ徴收スルモノトス

- 一 飲水及氷雪 飲料適否鑑定 定價分析 金拾錢乃至五拾錢
- 一 乳汁 單筒ナル理學的検査并定性分析 定價分析 金貳拾錢乃至貳圓
- 一 酒類 全全全全全 金貳拾錢乃至貳圓
- 一 飲食物 全全全全全 金貳拾錢乃至貳圓
- 一 大氣及有害性瓦斯類 定性定量ニ拘ハラズ 金一圓乃至五圓
- 一 食器中有害性金屬 定性分析 定量分析 金貳拾錢乃至壹圓

一 衣服料

一 礦泉 定性分析 定量分析

一 顏料

一 玩具其他着色物中有害性色質 定性分析 定量分析

一 化學製品

一 礦物及金屬 全全全全全

一 警察及裁判關係諸品 検査ノ難易及之ニ要スル時日ノ長短ニ依リ

一 前各項外ノ諸品ハ其検査ノ難易及之ニ要スル時日ノ長短ニ依リ相當ノ手数料ヲ徴收スヘシ

一 右諸品時日ヲ限り検査ヲ乞フモノハ試験所ノ都合ニヨリ之ヲ許可スルコトアルヘシ然ルルルハ普通検査手数料ノ五倍以内ヲ増徴ス可シ

● 伺指令

● 検査手数料之儀ニ付靜岡縣ヨリ内務省へ伺十七年十月二十八日

今般御省甲第廿七號ヲ以テ衛生局試験所ニ於テ舉行スル試験手数料之儀告示相成候處左之廉々疑團有之候ニ付左ニ相伺候

- 一 右手数料ノ儀ハ人民ノ志願ニ依リ試験願出候者ノミ徴收相成候儀ニ候哉
- 二 人民ニ於テ志願ニアラサルモ御省ノ令達ニ依リ試験ヲ乞ハサルヲ得サルモノ例之ハ明治九年御省乙第五十四號達ニ依リ興業試験願出ルモノ、如キハ徴收不相成儀ニ候哉
- 三 前同様縣令ノ令達ニ依リ縣令へ願出ルモノニシテ縣令ヨリ更ニ御省へ試験依頼スルモノ例之ハ着色料鑛泉等ノ如キハ前同様徵集不相成儀ニ候哉
- 四 人民ノ願出ニ無之縣令ニ於テ試験ヲ必要ト認メ試験ヲ御省へ依頼スルモノ例之ハ有害品検査等ノ如キハ徵集不相成儀ニ候哉

相成儀ニ候哉

指令 十七年十一月十三日

第一項 官民ノ別ナク徴收ス

第二項 何ノ通

第三項第四項 第一項ノ令ニ依リ了知スヘシ

第八十四章

石炭酸其他劇藥傳染病流行ノ際販賣ヲ許

明治十三年五月十五日

第二十三號布告

石炭酸其他劇藥ハ本年一號布告藥品取扱規則第四條ニ照シ可取扱ノ處傳染病流行ノ際ハ内務省布達ニ從ヒ消毒藥ニ調製候分ニ限リ藥舖ニ於テ販賣差許候條販賣望ノ者ハ其管轄廳ニ可願出此旨布告候事

第八十五章

藥用阿片賣買並製造規則

明治十一年八月九日

第二十一號布告

明治三年八月布告生阿片取扱規則ヲ廢シ藥用阿片賣買並製造規則左ノ通相定候條此旨布告候事

但施行ノ時日ハ追テ内務省ヨリ可相達事同年内務省甲第廿七號ヲ以テ十二年五月一日ヨリ施行ノ旨ヲ布達ス

藥用阿片賣買並製造規則

第一條 阿片ノ賣買及ヒ製造ハ藥用品ニ限リ此規則ニ依テ之ヲ許可ス

第二條 藥用阿片ハ内國産若クハ外國産ヲ論セズ總テ内務省ニ於テ其品位ヲ定メテ之ヲ買上ケ地方廳ヲシテ阿片卸賣特許藥舖ニ之ヲ拂下ケシムヘシ

二十五年十月
勅令第五十
第七號第三
第七條第十
五條第十
ハ第二十五
一月十五日
施行ノ旨
連テラ
二項ノ
七十三
七十三
十八年内務
省甲第二號
七十三
七十三

第三條 地方廳ヨリ拂下クル阿片ハ量目一匁ヲ以テ一器トシ每器衛生試驗所ノ印紙ヲ貼附スルモノトス

第四條 地方廳ハ土地ノ廣狹位置ヲ度リ一管内相當ノ人員ヲ限リ藥舖ノ身元人物ヲ選ミテ内務省ニ稟議シ鑑札ヲ受ケテ之ヲ本人ニ交付スヘシ

但廢業ノ者アル節ハ其鑑札ヲ内務省ニ返納スヘシ
第五條 特許鑑札ヲ受タル藥舖ノ住所姓名ハ該管轄廳ヨリ管内ノ公私病院醫師藥舖一般ニ報告スヘシ

但廢業ノ者アル節モ本文ニ準シ速ニ報告スヘシ

第六條 特許鑑札ヲ受タル藥舖ハ其店頭ニ特許藥用阿片賣捌所ト大書シタル看板ヲ掲ケ置クヘシ

第七條 特許ヲ受タル藥舖ハ半年分賣捌ノ高ヲ豫算シ毎年兩度該地方廳ニ申立其拂下ケヲ請フヘシ但缺乏ノ節ハ臨時拂下ケヲ請フコトヲ得

第八條 凡ソ醫師病院及ヒ一般藥舖等ニ於テ藥用阿片ヲ要スルハ其量目並ニ其住所姓名及年月日病院ハ其名稱及ヒ院長ノ姓名ヲ記シ調印シタル證書ヲ以テ特許藥舖ニ就キ之ヲ購求スヘシ特許藥舖ニ於テハ之ヲ賣渡スニ其量目一度ニ四十匁ヲ超ヘカラス

但病院及醫師等ニ於テ便宜ニ依リ一般藥舖ニ就キ之ヲ購求スルト一般藥舖相互ニ賣買スルトキハ妨ケスト雖旧必ス本條ノ証書ヲ以テスヘシ且其量目一度ニ八匁ヲ超ヘカラス

第九條 凡テ内外國人共醫師ノ處方箋ヲ持參シタル者ノ外ハ特許藥舖并ニ一般藥舖ニ於テ一切之ヲ賣渡スヘカラス

第十條 特許藥舖ハ每半年分阿片拂受並ニ一匁以上賣捌ノ高及ヒ買人ノ住所姓名並ニ一匁以下賣捌ノ總高等明細表正副二通ヲ造リ其管轄廳ニ差出スヘシ尤一匁以下ノ分ハ平常其明細簿ヲ記シ置キ臨時取調ノ用ニ供スヘシ

但管轄廳ハ其一通ヲ内務省ニ進達スヘシ

第十一條 醫師病院一般藥舖ニ於テハ每半年必シモ前條明細表ヲ差出スヲ要セスト雖モ平常其明細簿ヲ記シ置キ臨時取調ノ用ニ供スヘシ

第十二條 藥用阿片ヲ製造セント欲スル者ハ鹽業ノ種類派ヒ培養採收製造ノ方法ヲ記シ管轄廳ヲ經由シテ内務省ノ免許鑑札ヲ受クヘシ

第十三條 阿片製造人ハ其製造シタル阿片ノ量目ヲ記シ署名調印シタル願書ヲ以テ地方廳ヲ經由シ内務省ノ買上ケテ願フヘシ右買上ケテ受クルノ外決シテ内外人民ニ販賣スルヲ許サス

但内務省ニ於テ其品位藥用ニ適セサルモノトスルトキハ地方廳ヨリ其旨ヲ製造人ニ通知シ其阿片ハ其廳ニ預リ置クヘシ

第十四條 阿片買上ケ及ヒ拂下ケノ代價ハ歲ノ豐凶及ヒ外國一般ノ相場等ニ因テ高低アルヘシト雖モ其品位ニ應シテ價格ヲ定ムルハ該藥主用ノ性分即チ「モルヒチ」ノ多少ニ因ルヘシ

第十五條 内務省ニ於テ買上ケ及ヒ拂下ケル阿片ノ「モルヒチ」含量ハ買上ケ品ハ百分中ニ九分以上拂下ケ品ハ百分中ニ十分以上ヲ含有スルモノトス

第十六條 此規則ニ違犯スル者ハ其犯情ニ從ヒ阿片賣買若クハ製造ヲ禁シ其所有ノ阿片ヲ沒收シ百五十圓ヨリ五百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

○阿片賣買並製造規則施行ニ付取扱方

明治十一年十一月四日 内務省乙第百六十八號府縣

本月二日當省甲第二十七號ヲ以テ阿片賣買並製造規則施行ノ日限布達候ニ付テハ豫メ左件ノ通可取計此旨相達候事

一各管内藥舖營業者及ヒ阿片製造者ニ於テ現在所持ノ阿片ノ試驗ヲ要スルモノハ來ル十二月限り最寄司藥場ニ差出ス可シ試驗ノ上相當ノ品ハ小器ニ分チテ印紙ヲ貼附シ之ヲ下渡シ若シ其買上ケ望ムモノハ定價ヲ以テ買上ケ可ク品位不相當ノ品ハ其理由ヲ記シテ持主ニ返附スヘシ

一阿片賣買並製造規則第四條ニ據リ各郡區ニ於テ阿片賣捌ヲ特許スヘキ藥舖ヲ撰定シ其郡區町村番地姓名年齢ヲ詳記シ來ル十二月限り申出ヘシ

○製藥免許手續

明治九年五月八日 内務省乙第百五十四號府縣へ達

製練藥品ノ儀ハ本邦ニ於テモ往々舶來品ニ勝レル良品モ有之處只管輸入品ヲ妄信シ概シテ國產ヲ卑ムノ風ニ流レ價惡藥ノ輸入日チ逐テ増加シ其損害不勘ニ付自今製造品試

驗ノ上其良否ヲ鑑定シ免許鑑札相渡スヘク候條醫療用ノ工職用ヲ不問藥品製煉致シ候者ハ其製造品相添左ノ箇條書ニ從ヒ願出許可ノ上販賣致シ候條可取計此旨相達候事
但阿片製造人ノ儀ハ詮議ノ次第有之候條當分地方限リ開屆置昨八年當省乙第百五十六號達ニ照準シ可取計事

製藥免許手續

- 一 製藥人ハ屬籍住所姓名等詳記シタル願書ニ通テ作り其製品ヲ添へ管廳へ出サシメ管廳ハ之ニ添書シテ内務省ニ出スヘシ
- 一 製品ハ各地ノ便宜ニ就キ最寄司藥場ニ送致シ置キ其譯添書ニ追申スヘシ
同年乙第百三十四號達ヲ以テ(送致シ)ノ下(試驗ヲ受ケ)チ(置キ)ニ改メ但書ヲ加フ
- 但シ司藥場ニ於テハ試驗ノ上直チニ本省ニ差出シ別ニ該管廳ニ通知セサルモノトス
- 一 試驗ノ上良品ナルモノハ免許鑑札ヲ交附シ若シ其製造十全ナラサルモノハ本人ノ志願ニヨリ司藥場ニ於テ製煉ノ方法傳示スヘシ
- 一 製藥許可ヲ得タルモノハ官許ノ文字ヲ冒シタル商標ニ藥名及ヒ其住所姓名ヲ記シ每器ニ貼シテ販賣スヘシ
- 但藥名ハ國字洋文兩様共記載スルハ勝手タルヘシト雖片洋文ノミヲ書スヘカラス必ス普通ノ譯名或ハ譯名無之モノハ假名ニテ原名ヲ記スヘシ
- 一 鑑札雛形(略之)

○内國產濕潤阿片並粉末阿片價格

二十年十月十九日 內務省告示第五號

阿片製造人ヨリ買上クヘキ内國產濕潤阿片並地方廳ヨリ阿片卸シ賣特許藥舖ニ拂下ク
ル粉末阿片價格來ル明治二十一年一月一日ヨリ左ノ通相定ム

買上價格

濕潤阿片 百分中九以上十分未満

百目ニ付金四圓五十錢

但「モルヒ子」含量十分以上ノモノハ本項ノ割合ニ依リ其價額ヲ増ス

拂下價格

粉末阿片 「モルヒ子」ノ含量十乃至十一分ノモノ

壹匁入壹瓶ニ付金拾錢

●伺指令

●藥物製造ノ儀ニ付靜岡縣ヨリ内務省へ同十六年七月十四日
酒類防廢藥又ハ變酒濁下藥ト唱ヘ歐味ノ藥品ヲ調和シ製造許可願出候者有之右ハ明治九年御省乙第五十四號達ニ照準シ御省へ進達可致候ニ候哉
指令 十六年八月十一日 書而伺之越其縣限リ適宜取計ヲ俄ト可心得事

●勸業事務上製造ノ藥用阿片ノ儀ニ付三重縣ヨリ内務省へ同十六年七月十二日

明治十一年(八月)第廿一號公布藥用阿片賣買並製造規則頒行相成候處縣廳又ハ郡役所等ノ勸業事務上其栽培場或ハ試驗場ノ類ノ箇所ニ於テ阿片製造ノ爲メ根莖ヲ培養シ且ツ藥用阿片ヲ製造セントスルハ該規則第十二條ノ例ニ比準シ其旨ヲ詳記シ縣廳勸業事務ニ關スル分ハ御省へ御届及ヒ郡役所勸業事務ノ分縣廳ニ爲届出候ニ止リ御省ノ免許鑑札ヲ受ケルニ及ハサル儀ト心得可然哉尤其製造ノ阿片取扱方ハ該規則第二條ニ照シ御省へ御買上相願候ハ勿論ノ事ト存候處其製造專准ノ手續官衙勸業事務ニ風スル分ハ該規則中明文無之ニ付如何取計可然哉
指令 (農商務省達) 十六年八月十七日 伺之通但郡役所ノ分モ内務省へ省届出ツヘキ事

第十類 圖書

第八十六章 出版條例

明治二十年十二月二十八日
勅令第七十六號

朕出版條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十年十二月二十八日

内閣總理大臣 伯爵伊藤博文
内務大臣 伯爵山縣有朋
司法大臣 伯爵山田顯義

出版條例

第一條 凡ソ機械含密其他何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス文書圖書ヲ印刷シテ之ヲ發賣シ又ハ頒布スルヲ出版ト云ヒ其文書ヲ著述シ又ハ編纂シ若クハ圖書ヲ作為スル者ヲ著作家ト云ヒ發賣頒布ヲ擔當スル者ヲ發行者ト云ヒ印刷ヲ擔當スル者ヲ印刷者ト云フ

第二條 新聞紙又ハ時々ニ發行スル雜誌ヲ除クノ外文書圖書ノ出版ハ總テ此條例ニ依ルヘシ但雜誌ニシテ專ラ學術技術ニ關スル事項ヲ記載スルモノハ内務大臣ノ許可ヲ得テ此條例ニ依ルコトヲ得

第三條 文書圖書ヲ出版スルトキハ發行ノ日ヨリ到達シ得ヘキ日數ヲ除キ十日前製本三部ヲ添ヘ内務省ヘ届出ヘシ

第四條 官廳ニ於テ文書圖書ヲ出版スルトキハ其官廳ヨリ發行前製本三部ヲ内務省ニ送付スヘシ

第五條 出版届ハ著作者又ハ其相續者及發行者連印ニテ之ヲ差出スヘシ但非賣品ハ著作者ノミニテ届出ルコトヲ得

著作者又ハ其相續人ヲ知ルヘカヲサルトキハ其由ヲ記シ發行者ヨリ差出スヘシ
學校會社協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖書ノ届ハ其學校會社等ヲ代表スル者發行者ト連印シテ之ヲ差出スヘシ

第六條 文書圖書ノ發行者ハ文書圖書ノ販賣ヲ以テ營業トスル者ニ限ル但著作者又ハ其相續者ハ發行者ヲ兼ルコトヲ得

第七條 文書圖書ヲ印刷スル者ハ其發行ト否トヲ問ハズ印刷ノ年月日及印刷者ノ氏名件所ヲ記載シ其發行ニ係ルモノハ發行者ノ氏名住所ヲ併セテ記載スヘシ

第八條 社則塾則引札諸藝ノ番付普通ノ書式アル諸種ノ用紙又ハ證書ノ類ハ第三條第六條ニ據ルヲ要セス

第九條 文書圖書ノ冊號ヲ逐ヒ順次ニ出版スル者ハ其都度第三條ノ手續ヲ爲スヘシ但雜誌ノ類ニ在テハ内務大臣ノ許可ヲ經テ其手續ヲ省略スルコトヲ得

第十條 一タヒ出版届ヲ爲シタル文書圖書ノ再版ハ出版届ヲ要セスト雖モ若シ改正増減シ又ハ註解附條繪圖等ヲ加ヘタルモノハ仍ホ第三條ニ依ルヘシ

第十一條 演説若クハ講義ヲ筆記シテ一部ノ書ト爲ストキハ演説者若クハ講義者ヲ以

テ著作者トス但演説者若クハ講義者ノ許諾ヲ經スシテ出版シタルモノニ關シテハ其演説者若クハ講義者ハ著作ノ責ニ任セス

他人ノ講義又ハ公然ナラサル演説ハ其講義者又ハ演説者ノ許諾ヲ經ルニ非サレハ其筆記ヲ出版スルコトヲ得ス但本項ニ違フ者ハ版權條例ニ依リ其責ニ任セシム

第十二條 數人ノ著作若クハ數人ノ講義演説ヲ編纂シテ一部ノ書ト爲スモノハ編纂者ヲ著作者ト見做スヘシ

前條第一項ノ但書及第二項ハ本條ニ適用スヘシ

第十三條 翻譯ハ翻譯者ヲ以テ著作者ト見做スヘシ但翻譯トハ漢文ヲ延譯スルモノヲモ包含ス

第十四條 學校會社協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖書ハ其出版届ヲナス者ヲ以テ著作者ト見做スヘシ

第十五條 公ニセサル官ノ文書及上書建白請願書ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ詳畧ニ拘ハラズ之ヲ出版スルコトヲ得ス

官廳ノ議事及法律ニ依リ傍聽ヲ禁シタル公會ノ議事ハ詳畧ニ拘ラス之ヲ出版スルコトヲ得ス

第十六條 治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムル文書圖書ヲ出版シタルトキハ内務大臣ニ於テ其發賣頒布ヲ禁シ其刻版及印本ヲ差押フルコトヲ得

第十七條 外國ニ於テ印刷シタル文書圖書ニシテ治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノ

ノト認ムルトキハ内務大臣ハ其文書圖書ノ内國ニ於ケル發賣頒布ヲ禁シ其印本ヲ差押フルコトヲ得

第十八條 軍事ノ機密ニ關スル事項ヲ記載スル文書圖書ヲ出版スルコトヲ得ス

第十九條 重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ハ公判ニ付セサル以前ニ於テ之ヲ出版スルコトヲ得ス

第二十條 刑律ニ觸レタル罪犯ヲ曲庇スルノ論說ヲ出版スルコトヲ得ス

刑事ノ被告人又ハ刑律ニ觸レタル犯罪人ヲ救護シ又ハ賞恤スル爲ニスル文書ヲ出版スルコトヲ得ス

第二十一條 第三條ノ届出ヲ爲サスシテ文書圖書ヲ出版シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 發行者自己ノ氏名住所又ハ印刷者ノ氏名住所又ハ出版ノ年月日ヲ記載セサル文書圖書ヲ發行シタルトキハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ其之ヲ記載スルモ實ヲ以テセサルモノハ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條ヲ犯ス者罰前項ニ同シ

第二十三條 印刷者其氏名住所ヲ其印刷スル所ノ文書圖書ニ記載セス若クハ記載スト雖モ實ヲ以テセサルモノハ罰前條ニ同シ

第二十四條 政體ヲ變壞シ朝憲ヲ紊亂セントスルノ文書ヲ出版シタルトキハ著作發行者印刷者共犯ヲ以テ論シ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五十圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

圖書ニシテ其目的前項ニ同キモノハ罰前項ニ同シ

第二十五條 猥褻ノ文書圖書ヲ出版シタルトキハ著作發行者共犯ヲ以テ論シ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 文書圖書ヲ寫眞トナシ因テ第十八條第二十四條第二十五條ヲ犯ス者ハ各本條ニ依テ處分ス

第二十七條 本條例ニ依リ出版ヲ禁セラレタル文書圖書ヲ出版シタルトキハ著作發行者共犯ヲ以テ論シ一月以上二年以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

其發賣頒布ヲ禁セラレタル文書圖書ヲ發賣頒布スルトキハ發行者又ハ發賣頒布者罰前項ニ同シ但其未タ發賣頒布セサル文書圖書ハ之ヲ沒收ス

第二十八條 第二十四條第二十五條第二十七條ノ場合ニ於テ刻版及印本ハ檢察官ニ於テ假ニ之ヲ差押フルコトヲ得差押フル所ノ刻版及印本ハ裁判ノ確定ヲ待チ無罪ナレハ本主ニ還付シ有罪ナレバ沒收ス

第二十九條 前條ノ差押ヲ爲ストキハ製本ノ體裁ニヨリ其差押フヘキ部分ト他ノ部分ト分割シ得ルニ於テハ之ヲ分割スルコトアルヘシ

第三十條 他人ノ講義演說ヲ筆記若クハ編纂シ又ハ他人ノ著作ヲ編纂シタル文書圖書

ヲ出版シ第二十四條第二十五條ヲ犯シタル場合ニ於テ講義者演説者若クハ著作者ニシテ其出版ヲ承諾シタルモノナルトキハ筆記者若クハ編纂者ト同シク其罪ヲ論ス

第三十一條 文書圖書ヲ出版シ因テ誹毀ノ訴ヲ受ケタル場合ニ於テ其私行ニ涉ルモノヲ除クノ外裁判所ニ於テ其人ヲ害スルノ惡意ニ出テ又專ラ公益ノ爲ニスルモノト認ルトキハ被告人ニ事實ヲ証明スルコトヲ許スコトヲ得若シ其証明ノ確立ヲ得タルトキハ誹毀ノ罪ヲ免ス其損害賠償ノ訴ヲ受ケタルトキモ亦同シ

第三十二條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ニス

第三十三條 此條例ニ關スル公訴ノ期滿免除ハ二年トシ其犯罪ト認メラレタル文書圖書ヲ最後ニ發賣頒布シタル時ヨリ起算ス其發賣頒布セサルモノハ其最後ニ印刷シタル時ヨリ起算ス

第三十四條 文書圖書ヲ印刷スルトキハ直子ニ發賣頒布セスト雖モ其目的發賣頒布ニ在ル者ハ總テ此條例ニ依ル

○直ニ内務省へ納本ノ向地方廳へ届出方

明治八年十一月二十日
内務省甲第三號布達

圖書刻成納本致候節其所在地方廳經由セス本人ヨリ直ニ納付ノ向ハ其旨趣并納本ノ定價等速ニ其地方廳へ可届出此旨布達候事

但版權免許料ノ義ハ必其地方廳ヲ經由可差出事

○納本添書式

明治九年一月十二日
内務省甲第五號布達

圖書刻成納本之節添書式區々ニテ一定セサルヨリ往々不都合ノ儀少ナカラス候條別紙雛形ノ書式ニ照準可差出此旨布達候事

但シ定價ハ每部卷末ニ捺印シ編ヲ逐ヒ漸次出版スルモノハ每(編冊)其定價ヲ捺印可致事

(別紙)

(納本添書式雛形略之)

○納本差出方

明治十七年二月二十八日
内務省甲第五號告示

出版圖書刻成納本ノ儀ハ自今當省圖書局へ差出スヘシ此旨告示候事

伊明治九年一月甲第貳號布達納本書式宛名ハ局長ト改正ス

○納本總務局へ差出方

明治十八年七月一日
内務省甲第八號告示

出版圖書刻成納本之儀ハ自今當省總務局へ差出スヘシ此旨告示候事

但宛名ハ明治十七年(二月廿八日)甲第五號告示但書之通り

○外國ノ圖書ヲ翻譯シテ出版届出及版權出願方

明治十五年

十一月十五日内務省
乙第六拾號府縣へ達

外國ノ圖書ヲ翻譯シテ出刻届出或ハ出版々權出ノ節原著者ノ國名姓名及ヒ原題名等ハ自今調査ノ都合有之候條原字ヲ以テ別紙ニ認メ願届書面ニ一通相添可爲差出此旨相達候事

但願屆書面へ記載方ノ儀ハ從前ノ通タルヘシ

○文部省出版ノ圖書へ註解圖書傍訓等ヲ加へ又ハ

増減シテ出版スルヲ禁ス 明治十二年二月二十一日
文部省第貳號布達

文部省出版ノ圖書へ註解圖書傍訓等ヲ加へ又ハ本文ヲ増減シテ出版致シ候儀自今不相成候尤原本ノ儘翻刻致シ候儀ハ可爲從前之通候條此旨布達候事

○文部省出版圖書翻刻ノモノハ檢査ヲ遂ケ誤刻ノ

モノ發賣差止方 明治十四年三月十日
文部省第壹號布達

文部省出版圖書中世上ニ於テ翻刻スル圖書ノ内誤刻有之モノ相見エ教育上ノ弊害ヲ生スル不趣儀ニ付自今翻刻ノ圖書ハ當省ニ於テ檢査ヲ遂ケ誤刻有之モノハ時宜ニヨリ其發賣ヲ可差止候條此旨豫メ布達候事

但本文翻刻圖書ハ檢査ノ爲メ入用ニ付翻刻出來次第翻刻人ヨリ當省へ一部納本可致候事

○神社寺院ノ守札及神佛號ヲ記セル畫像等ハ其神

社寺院ノ外出版ヲ禁ス 明治十五年十月十八日
內務省乙第百五拾五號府廳へ達

神社寺院之守札ト認可モノ及神佛號ヲ記載セル畫像ハ其神社寺院ノ外出版不相成儀ト可心得此旨相達候事

但從前屆書ノ分ト雖モ本文ニ抵觸シ不都合ト認ムル場合ニ於テハ更ニ申出ツヘシ

○出版條例施行以前出版届ヲ爲シ爾後出版スルモノ

ノ届出方 二十一年三月十九日
內務省告示第貳號

明治廿年勅令第七十六號出版條例施行以前出版届出ヲナシ爾後出版スルモノハ更ニ同條例第三條ノ届出ヲナスヘキ等ニ付右届出ハ本年內務省令第一號第三條ノ書式ニ依ル可シ

○舊出版條例ニ依リ版權免許ヲ得タルモノ願書及

手数料免許料納方 二十一年四月二日
內務省令第三號

第一條 舊出版條例ニ依リ版權免許ヲ得タル者其免許狀ヲ毀損又ハ紛失シタルハ其事由ヲ記シ證明書ノ下付ヲ內務省ニ願出ルコトヲ得但手数料トシテ金五十錢ヲ同省ニ納ム可シ

第二條 舊出版條例ニ依リ版權免許ヲ得未タ出版セサル圖書ニシテ自今出版ノモノハ其製本ニ何年月日版權免許ト記載シ改正出版條例第三條ニ依リ届出ヲナスト同時ニ舊出版條例第貳十條ノ免許料ヲ內務省ニ納ムヘシ

第三條 第一條ノ手数料並第二條ノ免許料ハ本年內務省令第一號第七條ニ從ヒ大藏省金庫局又ハ國庫金出納本支所ノ預證書ヲ以テ之ヲ納ム可シ

第八十七章 版權條例 明治二十年十二月廿八日
勅令第七十七號

朕版權條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十年十二月二十八日

内閣總理大臣 伯爵伊藤博文
内務大臣 伯爵山縣有朋
司法大臣 伯爵山田顯義

第一條 凡ソ文書圖書ヲ出版シテ其利益ヲ專有スルノ權ヲ版權ト云ヒ版權所有者ノ承諾ヲ經スシテ其文書圖書ヲ翻刻スルヲ僞版ト云フ

第二條 出版條例ニ依リ文書圖書ヲ出版スル者ハ總テ此條例ニ依リ其版權ノ保護ヲ受ルコトヲ得

第三條 版權ノ保護ヲ受ント欲スル者ハ發行前製本六部ノ定價ヲ添ヘ版權登錄ヲ内務省ニ願出ヘシ

第四條 官廳ニ於テ文書圖書ヲ出版シ版權ノ登錄ヲ得ント欲スルトキハ其由ヲ内務省ニ通知スヘシ

第五條 版權登錄ノ文書圖書ニハ其保護年限間ハ版權所有ノ四字ヲ記載スヘシ其記載セサル者ハ登錄ノ効ヲ失フモノトス

第六條 内務省ニ於テハ版權登錄簿ヲ備ヘ置キ登錄ノ願出アル毎ニ之ヲ登錄シ登錄證書ヲ下付スヘシ

登錄ヲ經タル文書圖書ハ内務省ニ於テ時々之ヲ官報ニ揭示スヘシ

第七條 版權ハ著作ニ屬シ著作死亡後ニ在テハ其相続者ニ屬スルモノトス

講義若クハ演說ヲ筆記シテ一部ノ書ト爲シタルモノ、版權ハ講義者若クハ演說者ニ屬シ若シ筆記者ニ於テ講義者若クハ演說者ノ許諾ヲ經テ出版スルトキハ筆記者ニ屬シ筆記者死亡後ニ在テハ其相続者ニ屬スルモノトス

翻譯者ノ版權ハ翻譯者ニ屬シ翻譯者死亡後ニ在テハ其相続者ニ屬スルモノトス 官廳學校會社協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖書ノ版權ハ其官廳學校等ニ屬スルモノトス

數人ノ著作若クハ數人ノ講義演說ヲ編纂シタル文書圖書ノ版權ハ編纂者ニ屬シ編纂者死亡後ニ在テハ其相続者ニ屬スルモノトス但編纂者ト原著作者講義者演說者又ハ其相続者トノ關係ハ相互ノ約束ニ依ル

第八條 版權ハ制限ヲ附シ若クハ附セスシテ賣渡シ讓渡スコトヲ得

第九條 版權登錄證書ヲ毀損又ハ紛失シタルトキハ事由ヲ記シ其再度下付ヲ内務省ニ願出ルコトヲ得但手数料トシテ金五十錢ヲ納ムヘシ

第十條 版權保護ノ年限ハ著作ノ終身ニ五年ヲ加ヘタルモノトス若シ版權登錄ノ月ヨリ死亡ノ月マテ計算シ之ニ五年ヲ加ヘ仍ホ三十五年ニ足ラサル時ハ版權登錄ノ月ヨリ三十五年トス

數人ノ合著ニ係ルモノ、版權年限ハ最終ニ死亡シタル者ニ據リテ計算ス 官廳又ハ學校會社協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖書並著作者死亡ノ

後ニ出版スル文書圖書并著作死亡ノ後ニ出版スル文書圖書ノ版權年限ハ版權登錄ノ月ヨリ計算シ三十五年トス

第十一條 冊號ヲ逐ヒ順次ニ出版スル文書圖書ノ版權年限ハ各號毎ニ其出版ノ月ヨリ起算ス但其都度第三條ノ手續ヲナスヘシ

雜誌ノ類ニ在テハ内務大臣ノ許可ヲ得テ第三條ノ手續ヲ省略スルコトヲ得

第十二條 版權ノ保護ハ其文書圖書ヲ改正増減シ又ハ註解附録繪圖等ヲ加ヘ又ハ製本ノ式ヲ改メ又ハ冊數ヲ分合スルカ爲メ變更スルコトナカルヘシ

第十三條 特ニ世ニ有益ナル文書圖書ニシテ版權年限間ノ利益其著作出版ノ勞力ト費用トヲ償ハサルノ事情アルモノニハ版權所有者ノ願出ニ依リ内務大臣ニ於テ仍ホ十年間版權保護ノ期限ヲ延ハスコトアルヘシ

第十四條 文書圖書ノ版權年限中所有者死亡シ他人ニ於テ其版權相續者ナキコトヲ確信シ之ヲ出版セント欲スルトキハ其由ヲ官報及東京ノ四社以上ノ重ナル新聞紙並其所有者居住地ノ新聞紙ニ七日以上廣告シ最終ノ廣告日ヨリ六箇月内ニ版權相續者ノ出テサルトキハ内務大臣ノ許可ヲ受テ之ヲ出版シ版權ヲ繼續スルコトヲ得

著作又ハ相續者ヲ知ルヘカヲササル著作ニシテ未タ出版セサルモノ亦前項ノ手續ニヨリ出版シ版權ノ保護ヲ受クルコトヲ得

第十五條 新聞紙又ハ雜誌ニ於テ二號以上ニ涉リ記載シタル論說記事又ハ小説ハ其編輯者ノ承諾ヲ得ルニアラサレハ刊行ノ月ヨリ二年内ニ之ヲ編纂シテ一部ノ書ト爲シ

出版スルコトヲ得ス

其二年ヲ經ルト雖モ已ニ一部ノ書ト爲シ版權登錄ヲ經タルモノハ原文ニ就テ更ニ編纂スルコトヲ得ス

第十六條 版權所有ノ文書圖書ヲ僞版シタル者ハ其版權所有者ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ其寫本ヲ發賣シテ版權ヲ犯ス者亦同シ

第十七條 僞版ノ訴アリタルトキ裁判官ハ出訴者ノ情願アルニ於テハ假ニ其發賣頒布ヲ差止ムルコトヲ得但審理ノ未僞版ニアラスト判決セラレタルトキハ出訴者ニ於テ其差止ヨリ生スル損害賠償ノ責ニ任スヘシ

第十八條 僞版ニ關スル損害賠償ノ責ハ僞版者ノ相續者ニ及ブモノトス

第十九條 版權所有者ノ承諾ヲ經スシテ版權所有ノ文書圖書ヲ翻譯シ増減シ註解附録繪圖等ヲ加ヘ若クハ其未タ完結セサル部分ヲ續成シテ出版スル者及本條例第十五條ニ違フ者ハ僞版ヲ以テ論ス

他人ノ講義又ハ演說ヲ筆記シ其許諾ヲ經スシテ出版スル者亦前項ニ同シ

第二十條 翻譯書ノ版權ハ其翻譯者ニ屬スト雖モ其原書ニ就キ別ニ翻譯スル者ニ向ヒ僞版ノ訴ヲ爲スコトヲ得ズ但其既ニ出版スル所ノ翻譯ヲ剽竊シタルコトヲ證明スルモノハ此限ニアラス

第二十一條 世人ヲ欺瞞スル爲メ故テニ版權所有ノ文書圖書ノ題號ヲ冒シ或ハ模擬シ又ハ氏名社號屋號等ノ類似シタル者ヲ濫合シテ他人ノ版權ヲ妨害スル者ハ僞版ヲ以

テ論ス

第二十二條 著作人又ハ其相續者ノ承諾ヲ經スシテ未ダ出版セサル文書圖書ヲ出版シ又ハ非賣ノ文書圖書ヲ翻刻スル者亦僞版ヲ以テ論ス

第二十三條 文書圖書ヲ寫眞ト爲シ因テ其版權ヲ犯ス者ハ僞版ヲ以テ論ス

第二十四條 内國ニテ版權所有ノ文書圖書ヲ外國ニ於テ僞版シタルモノヲ輸入販賣スル者ハ僞版ヲ以テ論ス

第二十五條 僞版ノ訴アリテ其僞版タルヤ否ヲ決シ難キトキハ其訴ヲ受ケタル裁判所ニ於テ三名以上ノ鑑定者ヲ選ビ之ヲ鑑定セシムルコトアルヘシ

第二十六條 僞版ニ關スル損害賠償ノ責ハ其原書ノ版權年限終ルノ後三年ヲ以テ期滿得免ノ期トナス

第二十七條 僞版者及情ヲ知ルノ印刷者販賣者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮若クハ二十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

但被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

僞版ニ係ル刻版及印本ハ其何人ノ手ニ在ルヲ問ハス之ヲ沒收シ其既ニ販賣シタルモノハ其賣得金ヲ沒收シテ併セテ被害者ニ下付ス

第二十八條 版權ヲ所有セサル文書圖書ト雖モ之ヲ改竄シテ著作人ノ意ヲ害シ又ハ其表題ヲ改メ又ハ著作人ノ氏名ヲ隱匿シ又ハ他人ノ著作ト詐稱シテ翻刻スルヲ得ヌ違フ者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス但著作人又ハ發行者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第二十九條 第三條ノ手續ヲナサシテ版權所有ノ字ヲ記載シタル文書圖書ヲ出版スル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕再犯加重較罪俱發ノ例ヲ用ニス

第三十一條 此條例ニ關スル公訴ノ期滿免除ハ二年トシ其犯罪ト認メテレタル文書圖書ヲ最後ニ發賣頒布シタル時ヨリ起算ス其發賣頒布セサルモノハ其最後ニ印刷シタル時ヨリ起算ス

第三十二條 現行ノ出版條例ニ據リ免許ヲ得タル版權ノ年限ハ現行條例ニ據リ計算スルモノトス

○版權免許ヲ得テ後他管ニ轉居スル者届出方

九月八日
内務省甲第三十號布達

版權免許ノ儀所在ノ地方廳ヲ經山シ免許ヲ得テ後他ノ府廳ニ所屬換或ハ轉住寄留換等ニ付藏版持轉スル者ハ別紙書式ニ準シ新舊同地方廳ヲ經テ當省ヘ可届出此旨布達候事但他(府縣)下ノ者ヘ版權(讓賣)渡ノ者モ出版前後ニ拘ハラス書式ニ準シ届出ヘキ事

○我有版權ノ圖書ニシテ外國人ノ翻刻ニ係ル者ハ

販賣ヲ禁ス

十一月二十一日
内務省乙第九十號府廳へ達

我が有版權ノ圖書ニシテ外國人ノ翻刻ニ係ルモノハ内國人民ニ於テ販賣不相成ハ勿論ノ事ニ候得共尙心得違ノ者無之様兼テ其旨相諭可申此旨相達候事

○版權返納願出ニ不及

十八年三月七日
内務省告示第八號

版權返納之儀自今願出ニ不及候條免許證相添其旨内務省へ届出ツヘシ
但手數料ハ届出之節直ニ地方廳へ相納ムヘシ
右告示候事

第八十八章 脚本樂譜條例

明治二十年十二月二十八日
勅令第七十八號

朕脚本樂譜條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十年十二月廿八日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文
内務大臣伯爵山縣有朋
司法大臣伯爵山田顯義

脚本樂譜條例

第一條 演劇脚本及樂譜ハ出版條例及版權條例ニ據リ之ヲ出版シ及版權ヲ所有スルコトヲ得

第二條 演劇脚本若クハ樂譜ヲ出版シテ版權ヲ所有スル者ハ版權年限中ハ其興行權（即チ利益ノ爲メ公衆ノ前ニ演スルノ權）ヲ併セ有スルコトヲ得但興行權ヲ有セントスルトキハ其脚本又ハ樂譜ニ興行權所有ノ五字ヲ記載スヘシ

第三條 演劇脚本及樂譜ノ興行權ハ制限ヲ付シ若クハ付セスシテ之ヲ賣渡シ讓渡スコトヲ得

トヲ得

第四條 演劇脚本若クハ樂譜ノ興行權ヲ犯シタル者ハ興行權所有者ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ著作者又ハ其相續者ノ承諾ヲ經スシテ未タ出版セサル脚本若クハ樂譜ヲ興行スル者亦同シ

第五條 興行ニ關スル損害賠償ノ責ハ其興行權ヲ犯シタル最終ノ月ヨリ一年ヲ以テ期滿得免ノ期トナス

第八十九章 寫真版權條例

明治二十年十二月廿八日
勅令第七十九號

朕寫真版權條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十年十二月二十八日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文
内務大臣伯爵山縣有朋
司法大臣伯爵山田顯義

寫真版權條例

第一條 凡ソ光線ト藥品トノ作用ニヨリ入物器物景色其他物象ノ眞形ヲ寫シタルモノヲ寫真ト云ヒ寫真ヲ發行シテ其利益ヲ專有スルノ權ヲ寫真版權ト云フ

第二條 寫真版權ハ寫真師ニ屬シ寫真師死亡後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス但他人ノ囑托ニ係ルモノ、寫真版權ハ囑托者ニ屬シ囑托者死亡後ニ在テハ其相續者ニ

屬スルモノトス
囑托ニ係ル寫眞ノ種板ニシテ現存スルモノハ版權所有者ニ於テ之ヲ寫眞帥ヨリ受取
ルコトヲ得ルモノトス

第三條 寫眞版權ノ保護ヲ受ント欲スル者ハ發行前寫眞一版ニ付見本二葉及六葉ノ定
價ヲ添ヘ版權登録ヲ内務省ニ願出ヘシ但人物ノ寫眞ハ登録ヲ待タスシテ其保護ヲ受
ルモノトス

第四條 版權登録ノ寫眞ニハ其保護年限間ハ版權所有權ノ氏名住所版權登録ノ年月ヲ
記載スヘシ其記載セサルモノハ登録ノ効ヲ失フモノトス

第五條 内務省ニ於テハ寫眞版權登録簿ヲ備置キ登録ノ願出アリタル片ハ之ヲ登録シ
登録證書ヲ下付スヘシ

寫眞版權登録證書ノ取扱ハ總テ文書圖書ノ版權登録證書ニ準スルモノトス

第六條 寫眞版權保護ノ年限ハ登録ノ月ヨリ十年トス

第七條 寫眞版權ハ制限ヲ付シ若クハ付セスシテ賣渡シ讓渡スコトヲ得
第八條 版權ノ保護ヲ受ルノ寫眞ハ之ヲ複製シ若クハ器械又ハ舍密ノ作用ニヨリ多數
ヲ複製シ得ヘキ方法ヲ以テ寫眞術ト類似ノ模寫ヲ爲シ及寫眞帥ニ於テ本人又ハ其相
續者ノ承諾ヲ受スシテ囑托ニ係ル寫眞ヲ複製スルコトヲ得ス

第九條 第三條ノ手續ヲナサスシテ版權登録ヲ詐稱シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ
罰金ニ處ス

第十條 第八條ニ違フ者ハ版權條例ニ據リ偽版ヲ以テ論シ二十圓以上二百圓以下ノ罰
金ニ處シ及損害賠償ノ責ニ任セシム

損害賠償ノ責ハ其原寫眞ノ版權年限終ルノ後一年ヲ以テ期滿得免ノ期トス

第十一條 此條例ニ關スル公訴ノ期限ハ一年トシ其犯罪ト認メラレタル寫眞又ハ模寫
物作爲ノ時ヨリ起算シ其發賣セルモノハ最後ニ發賣シタル時ヨリ起算ス

第十二條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第九十章 出版及版權脚本樂譜寫眞條例ニ關

スル願届手續 明治二十一年一月二十日
内務省令第一號

出版條例版權條例脚本樂譜條例並寫眞版權條例ニ關スル願届手續左ノ通之ヲ定ム

第一條 凡願書ニ署名スル者ハ各住所ヲ詳記シ實印ヲ捺シ内務大臣宛ニテ差出ス可シ
第二條 凡文書圖書ヲ印刷スル者ハ出版條例第七條ニ從ヒ其印刷竣功ノ年月日並其住
所氏名ヲ記載シ其之ヲ發行スル者ハ同條例第三條ニ從ヒ届出ノ年月日並住所氏名ヲ
記載ス可シ

第三條 出版届ハ第一書式再(三)届ハ第二書式版權登録願ハ第三書式寫眞版權登録願
ハ第四書式版權登録再度下附願ハ第五書式ニ依ル可シ

第四條 専ラ學術技藝ノ雜誌ニシテ出版條例第二條但書ニ從ヒ同條例ニ依ラント欲ス
ル者並第九條但書ニ依リ届出ノ手續ヲ省略セント欲スル者ハ第六書式ニ依ル可シ

第五條 版權條例第十一條第二項ニ依リ版權登録願ノ手續ヲ省略セント欲スル者ハ第

七書式ニ依リ豫メ二回以上出版ノ分隨意取東子版權登錄ヲ願出ルコトヲ得
第六條 外國ノ圖書ヲ翻譯シ出版スル者ハ原書ノ題名著者ノ氏名出版ノ地名及年號ヲ
原字ヲ以テ認メ届出ニ添附ス可シ

第八條 版權登錄願ヲ許可スルルハ第八書式寫真版權登錄願ヲ許可スルルハ第九書式
ノ證書ヲ下附ス可シ但毀損紛失等ニ依リ再度下附スルモノハ本證書ノ謄本其事由並
下附ノ年月日ヲ裏書シ内務省ノ印ヲ捺ス

第一書式 用紙美濃

出版 御 届

一書 名 全何冊(枚)又ハ何冊(枚)ノ内何冊(枚)自第何號至第何號

右何誰著述(編纂、演說、講義、翻譯)何々ノ事ヲ記載(論述)セシモノニテ今般出版候條
製本三部相添此段御届申上候也

年月日

道廳何(府縣)何(郡區)何(町村)何番地
發行者 氏 名 印

同 上 著作者(相續者)氏 名 印

内務大臣(爵)何誰殿

第二書式 用紙同上

再 版 御 届

一書 名 全何冊(枚)又ハ何冊(枚)ノ内何冊(枚)自第何號至第何號

右何誰著述(編纂、演說、講義、翻譯)ノ書ニシテ何年何月何日出版セシ處改正(増減、注
解附錄、繪圖等)相加ヘ今設再(三)版候條製本三部相添此段御届申上候也

年月日

道廳何(府縣)何(郡區)何(町村)何番地
發行者 氏 名 印

同 上 著作者(相續者)氏 名 印

内務大臣(爵)何誰殿

第三書式 用紙同上

版權登錄願

一書 名 全何冊(枚)又ハ何冊(枚)ノ内何冊(枚)自第何號至第何號

右今般出版候條版權登錄被下度六部ノ定價金何圓錢大藏省金庫局(何々國庫金出納
本)(支)所預證書相添此段相願候也

年月日

道廳何(府縣)何(郡區)何(町村)何番地
版權所有者ノ 氏 名 印

内務大臣(爵)何誰殿

第四書式 用紙同上

寫真版權登錄願

一 物象ノ名 何枚

右何々異形ヲ寫シタルモノニシテ今般發行致度候條版權登錄被下度見本二葉並六葉ノ定價金何圓錢大藏省金庫局(何々國庫金出納本)支所預證書相添此段相願候也

年月日

道廳何(府縣)何(郡區)何(町村)何番地
版權所有者ノ氏名印

內務大臣(爵)何誰殿

第五書式 用紙同上

(寫眞) 權登錄再度御下付願

(寫眞版權登錄第何號)

一書名 (物象ノ名)全何冊(枚)(又ハ何冊(枚)ノ內何冊(枚) 自第何號至第何號)

右何年月日版權登錄御許可ヲ受タル處何々ニ依リ毀損(紛失)候條版權登錄證更ニ御下付被下度手数料金五拾錢大藏省金庫局(何々國庫金出納本)支所預證書相添此段相願候也

年月日

道廳何(府縣)何(郡區)何(町村)何番地
版權所有者ノ氏名印

內務大臣(爵)何誰殿

第六書式 用紙同上

學術(技藝)雜誌出版條例ニ依リ出版(並手續省略)願

一書名

右專ラ何々ノ學術(技藝)ニ關スル事項ヲ記載シ毎月何回(又ハ何々ノ日ヲ以テ)發行致スヘキモノニ候處出版條例ニ依リ出版(致シ且同條例第三條ノ日限ニ不抱其出版ノ都度御届ニ不及發行前製本ノミ相納候條)致度此段相願候也

年月日

道廳何(府縣)何(郡區)何(町村)何番地

發行者 氏名印

同上

編輯者 氏名印

內務大臣(爵)何誰殿

第七書式 用紙同上

學術(技藝)雜誌版權登錄手續省略願

一書名

右出版條例ニ依リ出版致度旨今般(何年何月)御許可ヲ得候處自第何號至何第何號何冊分一時版權登錄被下度各號六部ノ定價金圓錢大藏省金庫局(何々國庫金出納本)支所預證書相添此段相願候也

年月日

道廳何(府縣)何(郡區)何(町村)何番地

發行者 氏名印

同上

編輯者 氏名印

内務大臣(爵)何誰殿

第八書式

版權登錄之證

書名 何冊

著作者 氏 名

版權所有者 氏 名

右第 號ヲ以テ版權登錄簿ニ登錄ス

明治 年 月 日

内務省 印

同上謄本裏書式 △印ハ朱

本證書毀損(紛失)再度下付願出ニ依リ此謄本ヲ下付ス

明治 年 月 日

内務省 印

但謄本ハ表面省名ノ下ニ押印セズ

第九書式

寫真版權登錄之證

物象ノ名 何枚

版權所有者 氏 名

右第 號ヲ以テ寫真版權登錄簿ニ登錄ス

明治 年 月 日

内務省 印

全上謄本裏書々式

本證書毀損(紛失)再度下付願出ニ依リ此謄本ヲ下付ス

明治 年 月 日

内務省 印

第九十一章 新聞紙條例

朕新聞紙條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治二十年十二月二十八日 勅令第七十五號

御名 御璽

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

明治二十年十二月二十八日

内務大臣 伯爵山縣有朋
司法大臣 伯爵山田顯義

新聞紙條例

第一條 新聞紙ヲ發行セントスル者ハ發行ノ日ヨリ二週日以前ニ發行地ノ管轄廳(東京府)ヲ由シテ内務省ニ届出ヘシ

第二條 新聞紙發行ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 題號
- 二 記載ノ種類
- 三 發行ノ時期

四 發行所及印刷所

五 發行人、編輯人及印刷人ノ氏名年齢

編輯人ハ二人以上アルトキハ其主トシテ編輯事務ヲ擔當スル者タルヘシ但紙面ニ部門ヲ分チ其部門ニ主任編輯人ヲ設クルコトヲ得

第三條 届出ヲ爲シタル後、題號、記載ノ種類又ハ發行人ヲ變更セントスルトキハ二週日以前ニ第一條ノ手續ニ從ヒ届出ヘシ

發行ノ時期、發行所、印刷所、編輯人、印刷人ニ變更アリタルトキハ一週日以内ニ第一條ノ手續ニ從ヒ届出ヘシ

第四條 發行人死去シ又ハ法律上其資格ヲ失ヒタルトキハ一週日以内ニ發行人ヲ定メ第一條ノ手續ニ從ヒ届出ヘシ其届出ヲナスマテハ假發行人ノ名義ヲ以テ發行スルコトヲ得

第五條 發行ノ届出ヲナシタル日又ハ發行休止ノ日ヨリ五十日ヲ過キテ發行セサルト

キハ其届出ノ効ヲ失フモノトス

第六條 内國人ニシテ滿二十歳以上ノ男子ニ非サレハ發行人、編輯人、印刷人トナルコトヲ得ス

公權ヲ剝奪セラレタル者及公權ヲ停止セラレタル者其停止間發行人、編輯人、印刷人トナルコトヲ得ス

第七條 編輯人、印刷人ハ互ニ相兼ヌルコトヲ得ス

第八條 發行人ハ保證トシテ左ノ金額ヲ届書ト共ニ管轄廳(東京府)ニ納ムヘシ

- 一 東京ニ於テハ千圓
 - 一 京都大坂横濱兵庫神戸長崎ニ於テハ七百圓
 - 一 其他ノ地方ニ於テハ參百五十圓
 - 一 一月三回以下發行スルモノハ各前記ノ半額
- 保證金ハ時價ニ準シタル公債證書又ハ國立銀行ノ預手形ヲ以テ之ヲ納ムルコトヲ得
學術、技藝、統計、官令又ハ物價報告ニ關スル事項ノミヲ記載スル者ハ本條ノ限ニアラス

第九條 保證金ハ新聞紙ノ發行ヲ廢止シ又ハ其發行ヲ禁止セラレタルトキハ之ヲ還付ス

第十條 第一條第三條第四條ノ届出ヲ爲サヌ又ハ保證金ヲ納ムヘキ新聞紙ニシテ保證金ヲ納メスシテ發行スルモノハ正當ノ届出ヲナシ又ハ保證金ヲ納ムルマテ警視總監

又ハ地方長官ニ於テ其發行ヲ差止ヘシ

第十一條 新聞紙ハ每號ニ發行人編輯人印刷人ノ氏名發行所ヲ記載スヘシ
發行人、印刷人ノ外何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス新聞紙又ハ記載ノ條項ニ署名ス
ル者ハ總テ編輯人ト共ニ其責ニ當ラシム

第十二條 新聞紙ハ其發行毎ニ先ツ内務省ニ二部管轄廳東京府ハ警視廳及管轄始審裁判所檢事
局ニ各一部ヲ納ムヘシ

第十三條 新聞紙ニ記載シタル事項ノ錯誤ニ付キ其事項ニ關スル當人又ハ關係アル者
ヨリ正誤又ハ正誤書辨駁書ノ掲載ヲ求メタルトキハ其求テ受ケタル後其次回又ハ第
三回ノ發行ニ於テ正誤ヲナシ又ハ正誤書辨駁書ノ全文ヲ掲載スヘシ若シ正誤書辨駁
書ノ字數原文ノ二倍ヲ超過スルトキハ其超過ノ字數ニ付其新聞社ノ定メタル普通廣
告料ト同一ノ代價ヲ要求スルコトヲ得

正誤辨駁ハ原文ト同號ノ活字ヲ用ヒ同一欄内ノ首部ニ掲載スヘシ
正誤辨駁ノ文章若クハ趣旨法律ニ關ル、トキ又ハ之ヲ求ムル者其氏名住所ヲ明記セ
サルトキハ掲載スルヲ要セス

第十四條 官報又ハ他ノ新聞紙ヨリ抄録セシ事項ニシテ其官報又ハ新聞紙ニ於テ正誤
又ハ正誤書辨駁書ヲ掲載シタルトキハ當人又ハ關係アル者ノ求ナシト雖モ其新聞紙
ヲ得タル後其次回又ハ第三回ノ發行ニ於テ正誤スヘキコト前條ノ例ニ依ル但廣告料
ヲ要求スルコトヲ得ス

第十五條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ裁判ヲ受ケタルトキハ其新聞紙ノ次回發行
ニ於テ宣告ノ全文ヲ掲載スヘシ

第十六條 重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ハ公判ニ附セサル以前ニ於テ之ヲ記載スルコ
トヲ得ス
傍聽ヲ禁シタル訴訟ニ關スル事項ハ之ヲ記載スルコトヲ得ス

第十七條 刑律ニ觸レタル罪犯ヲ曲庇スルノ論說ヲ記載スルコトヲ得ス
刑事ノ被告人又ハ刑律ニ觸レタル犯罪人ヲ救護シ又ハ賞恤スル爲ニスル文書ヲ掲載
スルコトヲ得ス

第十八條 公ニセサル官ノ文書及上書建白請願書ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ
詳略ニ拘ラス之ヲ記載スルコトヲ得ス
官廳ノ議事及法律ニ依リ傍聽ヲ禁シタル公會ノ議事ハ詳略ニ拘ラス之ヲ記載スルコ
トヲ得ス

第十九條 治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムル新聞紙ハ内務大臣ニ於テ其
發行ヲ禁止シ若クハ停止スルコトヲ得

第二十條 新聞紙ノ發行ヲ禁止シ若クハ停止シタルトキハ内務大臣ハ其新聞紙ノ發賣
頒布ヲ禁シ其新聞紙ヲ差押フルコトヲ得

第二十一條 外國ニ於テ發行シタル新聞紙ニシテ治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモ
ノト認ムルトキハ内務大臣ハ其新聞紙ノ内國ニ於ケル發賣頒布ヲ禁シ其新聞紙ヲ差

押フルコトヲ得

第二十二條 陸軍大臣海軍大臣ハ特ニ命令ヲ發シテ軍隊軍艦ノ進退又ハ軍機軍略ニ關スル事項ノ記載ヲ禁スルコトヲ得

第二十三條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付公訴ヲ起ストキハ檢察官ハ假ニ其新聞紙ヲ差押フルコトヲ得

裁判官ハ犯罪ノ情狀ニ依リ差押ヘタル新聞紙ヲ沒收スルコトヲ得

第二十四條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ訴訟ヲ起シタルトキ原告ニ於テ其新聞紙ニ署名シタル編輯人ハ實際主トシテ編輯事務ヲ擔當スルモノニアラスシテ他ニ主任編輯人アルコトヲ證明シタル場合ニ於テハ裁判官ハ其署名シタル編輯人及實際ノ主任編輯人ヲシテ共ニ其責ニ當ラシムヘシ

第二十五條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ誹毀ノ訴アル場合ニ於テ其私行ニ涉ルモノヲ除クノ外裁判所ニ於テ其人ヲ害スルノ惡意ニ出テス專ラ公益ノ爲ニスルモノト認ムルトキハ被告人ニ事實ヲ證明スルコトヲ許スコトヲ得若其證明ノ確立ヲ得タルトキハ誹毀ノ罪ヲ免ス其損害賠償ノ訴ヲ受ケタルトキモ亦同シ

第二十六條 裁判確定ノ日ヨリ一週日以内ニ裁判費用及罰金ヲ完納セス又ハ損害ヲ賠償セサルトキハ保證金ヲ以テ之ニ充ツヘシ仍ホ足ラサルトキハ刑法徵收處分ニ依ル保證金ヲ以テ裁判費用賠償及罰金ニ充テタルトキハ發行人ハ管轄廳東京府ハノ通知ヲ得タル日ヨリ一週日以内ニ其缺額ヲ完納スヘシ若シ完納セサルトキハ其之ヲ完納ス

ルニ至ルマテ警視總監又ハ地方長官ニ於テ其發行ヲ差止ヘシ

第二十七條 第一條第三條第四條ノ届出ヲ爲サス又ハ第六條第七條第十一條第一項第十二條ヲ犯シ又ハ保證金ヲ納ムヘキ新聞紙ニシテ保證金ヲ納メスシテ發行シタルトキハ發行人ヲ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス但詐稱ノ罪ヲ犯スモノハ罰發行人ニ同シ

第一條第三條第四條ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサルトキハ發行人一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條ノ末項ニ属スル新聞紙ニシテ保證金ヲ納ムヘキ新聞紙ノ事項ヲ記載シタルトキハ編輯人罰前項ニ同シ

第二十八條 第十三條第十四條第十五條ニ違フトキハ編輯人ヲ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 第十六條第十七條第十八條ニ違フトキハ編輯人ヲ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條 第二十一條ニ違ヒ發賣頒布ヲ爲ス者ハ罰前條ニ同シ

第三十一條 第二十二條ニ違フトキハ發行人編輯人ヲ一月以上二年以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條 政體ヲ變壞シ朝憲ヲ紊亂セントスルノ論說ヲ記載シタルトキハ發行人、編輯人、印刷人ヲ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五十圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ

附加ス

本條ヲ犯ス者ハ其犯罪ノ用ニ供シタル器械ヲ沒收ス

第三十三條 猥褻ノ新聞紙ヲ發行スルトキハ發行人、編輯人、チ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條 第十三條ノ場合ニ於テ私事ニ係ルモノハ被害者ノ告訴ヲ待チ其罪ヲ論ス

第三十五條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第三十六條 此條例ニ關スル公訴ノ期滿免除ハ六箇月トス

第三十七條 時々ニ發行スル雜誌ノ類ハ出版條例ニ依ルモノヲ除クノ外皆此條例ニ依ル

○官報ニ登載シタルモノノ新聞紙ニ登載方 明治十六年六月廿二日 第貳拾壹號布達

凡ソ官報ニ登載シタルモノノ新聞紙條例ニ依リ記載スルコトヲ得サル者ト雖モ各新聞紙ニ於テ其文ヲ抄録スルコトヲ得

官報ニ於テ新聞紙ニ記載シタル事項ノ誤ヲ正ストキハ新聞紙條例第二十九條ニ從ヒ正誤ノ全文ヲ登載スヘシ
右布達候事

○官吏タル者私ニ新聞紙等ニ政務ヲ叙述スルヲ禁

凡ソ官吏タル者官報公告ヲ除ク外新聞紙又ハ雜誌雜報等ニ於テ私ニ一切ノ政務ヲ叙述ス 明治八年七月七日 第百十九號院省(使)廳府廳(達)

スル事不相成候條此旨相達候事

但百般學科ニ係ル叙述ハ此限ニアラス

○公文ヲ新聞紙ニ掲載スルヲ禁ス 明治八年九月十二日 第百五拾八號院省(使)廳府廳(達)

自今各廳事務ニ係ル上申往復等ノ公文ヲ新聞紙ニ掲載候儀不相成候此旨相達候事

○他ノ新聞紙ノ論說ヲ新聞紙ニ轉載方 明治十八年五月二十三日 內務省甲第十七號院省(使)廳府廳(達)

新聞紙ニシテ他ノ新聞紙(歐文新聞ヲ除ク)ニ掲載スル論說ヲ十日以内ニ其新聞紙ニ轉載スルキハ必ス原新聞紙ノ持主又ハ社主ノ承諾ヲ要セシメ候條現ニ發行ノ新聞紙ハ直チニ向後發行セントスルモノハ出願ノ際其旨持主又ハ社主ハ相達左ノ書式ニ準シ受書ヲ徵シ當省ハ進達可致此旨相達候事

但豫メ轉載ノ目的ヲ定メ發行スルモノハ別ニ本文原新聞持主又ハ社主ノ承諾證爲差出受書一同進達候儀ト心得ヘシ

(書式略之)

○新聞紙ニ關スル諸屆書式 明治二十一年一月二十六日 內務省告示第一號

新聞紙ニ關スル諸屆書式左ノ通相定ム

發行屆書式 但用紙美濃紙以下之ニ同シ

何新聞(雜誌)發行屆

一題號

何新聞

- 一 記載ノ種類 政治、法律、農工商業等ノ類
- 一 發行ノ時期 毎日、毎週、毎月何回、一箇年何回ノ類
- 一 發行所 府縣國郡區町村番地何社社號ナキモノハ戸主ノ氏名
- 一 發行人 住所 氏 名
何年何月生本月何年何箇月
- 一 編輯人 同 氏 名
何年何月生本月何年何箇月
- 一 印刷人 同 氏 名
何年何月生本月何年何箇月

右ハ新聞紙條例ヲ遵守シ年月日ヨリ發行致候ニ付保證金何圓(若クハ國立銀行預リ手形公債証券)ヲ以テ管轄廳へ納置候間此段御届申上候也

(保證金ヲ納ムルニ及ハサルモノ、例ハ左ノ如シ)

右ハ新聞紙條例ヲ遵守シ年月日ヨリ發行致候間此段御届申上候也
年 月 日 發行人 氏 名 印

題號變更届書式
何新聞改題届

何新聞改題

一 何新聞

右年月日ヨリ改題候間此段御届申上候也

年 月 日

發行人 氏 名 印

種目變更届書式
何新聞記載ノ種目變更届

- 一 現今種類 政治、法律、農工商業其他何々
- 一 變更種類 何々

右年月日ヨリ變更致候間此段御届申上候也

(保證金ヲ納メス發行シタルモノ更ニ保證金ヲ要スル種類ニ變更スルモノ、例ハ左ノ如シ)

右年月日ヨリ變更致候ニ付保證金何圓(若クハ國立銀行預リ手形公債証券)ヲ以テ管轄廳へ納置候間此段御届申上候也

年 月 日

發行人 氏 名 印

發行人變更届書式
何新聞發行人變更届

何新聞是迄何誰發行人ニ候處年月日ヨリ何誰ニ於テ新聞紙條例ヲ遵守シ發行致候ニ付

此段御届申上候也

(發行人死去シ又ハ法律上資格ヲ失ヒタルモノノ例ハ左ノ如シ)

何新聞是迄何誰發行人ニ候處何月何日死去(若クハ法律上ノ資格ヲ失ヒ)候ニ付何誰假發行人ノ名義ヲ以テ引續發行致居候處年月日ヨリ何誰ニ於テ(以下前例)

年月日

舊發行人 氏 名 印

發行人死去ノキハ其遺族親戚等ト新發行人ト連署ス

住所

新發行人 氏 名 印

內務大臣某殿

編輯人印刷人變更書式

何新聞編輯人(又ハ印刷人)變更屆

舊編輯人(又ハ舊印刷人) 氏 名

住所

新編輯人(又ハ新印刷人) 氏 名

何年何月生本月何年何箇月

右之通年月日ヨリ變更致候間此段御届申上候也

年月日

發行人 氏 名 印

內務大臣某殿

時規變更屆書式

何新聞發行時規變更屆

一何年何月何日發行第何號マテハ隔日若クハ毎月一回又ハ何々

一何年何月何日發行第何號ヨリ改メ毎日若クハ毎週又ハ何々

右之通變更致候間此段御届申上候也

發行人 氏 名 印

內務大臣某殿

發行所變更屆書式印刷所變更書式亦前例ニ依ル

何新聞發行所變更屆

一舊發行所

何社社號ナキモノハ

府縣國郡區町村番地

何社社號ナキモノハ

戶主ノ氏名

右之通年月日ヨリ變更致候間此段御届申上候也

年月日

發行人 氏 名 印

內務大臣某殿

○定時刊行印刷物ノ第三種郵便取扱ノ認可ヲ出願スルモノ心得

二十年十一月二日 逓信省告示第百九十二號

府縣社以下神社什物之儀自今左之通相心得取締可致此旨布達候事
一 什物ハ各部類ヲ分子其品柄員數等詳細牒簿ニ記載シ尙他ノ寄附ニ係ルモノハ其年月姓名等ヲモ記入スヘシ

第一 寶物古文書

第二 祭具什器並持添之田畝附屬之建物等

右牒簿二部ツ、編製神官並氏子氏子無之向ハ該地ノ崇敬人總代二名以上尙該地之區戶長連署調印一部ハ區戶長役所へ一部ハ其社へ藏メ置ヘシ

○社寺什物取締方

明治十二年五月十九日 內務省乙第貳拾貳號府縣へ達

社寺寶物古文書等之儀ハ各管廳ニ於テ取締相立厚ク保護可致等ニ有之就テハ各管內府縣社以下神社并寺院共所藏ノ寶物古器物古文書等別紙書式ニ照準取調目錄帳爲差出調査之上本年十月限取纏當省へ可届出此旨相達候事

別紙

書式

某(神社寺院)寶物古器物古文書目錄

一 綴起書

幾卷

撰者及ヒ筆者ノ姓名并ニ其年月ヲ記ス

一 文書

幾通

百年以上若クハ名家ノ筆ニ係ルモノニテ文書ト稱スヘキ者ハ一々其目ヲ掲ケ撰者

一 書畫或ハ繪卷物

筆者年月寄附人并傳來ノ所由ヲ記ス(以下篇幅ニ至ルマテ記載方皆之ニ準ス) 幾幅或ハ幾卷

絹地紙地彩色墨畫等ノ別ヲ記シ繪詞等記載方都テ前ニ準ス
一 寫本或ハ寫經 幾本

一 扁額 格別貴重ナルモノハ行數紙數等ヲモ詳細ニ記載スヘシ 一面

寸法ヲモ記ス

一 棟札

一枚

年月及ヒ人名ヲ記ス

一 鏡

一面

銘(若クハ無銘)寸法 形 鑄文 重量 年月寄附人傳來ノ所由等ヲ記ス(已下記載方皆之ニ準ス)

一 鈴

一箇

一 劍

一口

燒刃裝具ノ地金模様(銘アラハハ銘)等ヲモ記ス

一 古金

一枚

一 古錢

一枚

一 古印

一顆

印文 鈕 形等ヲモ記ス

一甲書

一副

札威シ毛等ヲモ記ス

一琴

一張

一笛

一管

此他古書籍百年以上若クハ名家ノ筆ニ係ルモノ古法帖明朝摺以上ニ係ルモノ武器文具樂器珠玉石劍等ニ至ル迄各部ヲ分ケ類ヲ推シ書式ニ照ラシテ記載スヘシ且其金銀銅器ニ係ルモノハ其重量等詳細ニ記センヲ要ス

右之通御座候也

年 月 日

何(府縣)管下

何國何(郡區)何(町村)

何神社祠官掌宗派何寺院住職

職名 姓名 印

右神社氏子或ハ崇敬人寺檀信徒或ハ法類總代

姓名 印

姓名 印

姓名 印

右調査候處相違無之候也

年 月 日

何(府)縣印

○社寺ノ什物並地所建物等ノ類抵當其他處分方

明治十二年七月十四日 內務省乙第三拾九號府縣へ達

本年當省乙第二十二號ヲ以テ社寺寶物古文書保護之儀相違候ニ就テハ今般調製スヘキ目録帳中へ記載ノ物品ハ明治十年第四十三號公布之通抵當ト爲スヘカヲ筋ニ有之依テ自分社寺ニ於テスル抵當ハ氏子檀家協議之書面ヲ以テ一應管應へ申出サセ調査ノ上至ク寶物古文書ニアラサル分ニ限り認可スヘシ此旨相違候事

但目録帳へ記載セスト雖モ該社寺ニ別段ノ由緒アル地所建物等ハ寶物古文書ニ准スヘク且社寺ノ物件不得以儀有之處分候節ハ明治六年第二百四十九號公布同九年敎部省第三號達書之通心得ヘシ

○町村鎮座氏神氏子去就禁否

明治十五年五月一日內務省乙第三拾八號府縣(沖繩縣ヲ除ク)へ達

各町村鎮座氏神ノ儀ハ其土地ニ就キ從來一定ノ區域有之儀ニ付各自ノ信否ニ任セ振ニ去就スヘキモノニ無之候條町村分合等ニヨリ不得已場合有之甲社ノ氏子一部落舉テ乙社ノ氏子ト相成節ハ甲乙社神官氏子協議ノ上雙方連署爲届出明細帳引直シノ儀當省へ可申出此旨相違候事

但雙方協議不整節ハ受理スヘカヲサレ儀ト心得ヘシ

○寺院附屬地所等抵當賣買其他財產ニ關スル願ハ

管長ノ添書ヲ要ス

明治十七年十月三十日 內務省乙第三拾七號府縣へ達

一 神佛敎務所敎院敎會所法務所 前社事務所ノ類 説敎所説敎ノ行フモノ ハ國並宗派ニ分子六月三十日十二月三十一日

ハ差止候尤該社々頭ハ勿論敎院説敎所ニ於テシ又ハ出張所等ニテ信仰ノ者ハ授與致候儀ハ不苦候條他管内ノ分ハ兼テ其管轄廳へ可届附此旨相達候事

但氏子等へ配授ノ儀ハ非此限尤新規出張所取設候節ハ其管轄ノ許可ヲ可受儀ト可

相心得候事九年達書甲第七號 達書第三十四號 省達ヲ以テ本文(出張所)ノ下(取設)ヲ等ニテ下改メ但此限ノ下廿七字ヲ增加ス

達書第十七號

府 縣

別紙甲第六號ノ通官國幣社へ相達候條爲心得此旨相達候事

○社寺明細帳調製差出方

十二年六月廿八日 内務省乙第三十一號府縣(沖繩縣ヲ除ク)へ達

各管下神社寺院明細帳之儀最前進達ノ分脱誤不少候條別紙書式ニ照準更ニ精密取調且境外遙拜所招魂社祖靈社明細帳ヲモ調製本年六月三十日ノ現況ヲ以テ取調同十二月限

リ可差出此旨相達候事

但眞宗寺院明細帳ノ儀ハ十年當省乙第六十九號達之趣候處今般取調ニ付テハ各宗

寺院同様取調差出スヘキ事

別紙

○神社明細帳書式

何府縣管下何國何郡何町何村何字何

社格何

某 神社

一 祭神

一 由緒

一 社殿間數

一 境内坪數並地種

一 境内神社幾社

神社

祭神

由緒

建物

一 境内某遙拜所

由緒

建物

一 境内招魂社

由緒

建物

一 境内祖靈社

由緒

建物

共有人員

一 境外所有地

耕地段別

地價金額

山林段別

地價金額

宅地段別

地價金額

一 氏子戶數

一 管轄廳迄ノ距離里數

以上

○寺院明細帳書式

何町字何

何町字何

何町字何

何縣管下何國何郡何町字何

總本山或ハ本寺又ハ某末寺

某寺

一本尊

一由緒

一室宇間數

一 境內坪數并地匯

何宗何派

一 境內佛堂幾宇

某堂

本尊

由緒

建物

一 境內庵室幾宇

某庵

本尊

由緒

建物

一 境外所有地

耕地段別

地價金額

山林段別

地價金額

宅地段別

地價金額

一 檀徒人員

何町字何

何町字何

何町字何

一 管轄廳迄ノ距離里數

以上

○ 境外遙拜所明細帳書式

何縣管下何國何郡何町字何

某神社遙拜所

一 由緒

一 建物間數

一 境内坪數並地種

一 信徒人員

以上

○ 境外招魂社明細帳書式

何縣管下何國何郡何町字何

招魂社

一 由緒

一 建物

一 共有人員

以上

○ 境外祖靈社明細帳書式

何縣管下何國何郡何町字何

祖靈社

一 由緒

一 建物間數

一 境内坪數並地種

一 共有人員

以上

明細帳取調方心得

一 明細帳ハ神社寺院境外遙拜所招魂社祖靈社ノ五種ニ分テ神社寺院ハ每郡各冊ニ編製シ表紙ニ何國何郡神社寺院明細帳ト署記ス一郡ニシテ他府縣ニ跨ル者ハ何郡ノ内ト記シ又一郡一冊内ハ町村ヲ以テ次叙シ同町村内ノ神社ハ社格寺院ハ宗派ヲ以テ區別シ且冊首ニ町村名目錄ヲ附スヘシ境外遙拜所以下ハ每國各冊ニ編製シ表紙ノ署記並目錄ハ前ニ準スヘシ

一 用紙ハ美濃十三行界紙ヲ用ヒ一社寺毎ニ各紙ニ相認ムヘシ

但攝末社ノ名義ヲ問ハス神社境外ニ在ル者ハ總テ一社トシ各紙ニ認ムヘシ

一 神宮官國幣社並同境内神社社格ノ有無ニ拘ハラズハ取調ニ及ハス

一 山野路傍存置ノ神祠並衆庶參拜ヲ許可セシ人民私邸内ノ神祠ハ並ニ一社トシ其神社境内へ移轉セシ者ハ境内神社ノ項下ニ記スヘシ

一 遙拜所招魂社祖靈社並寺院ノ別院支坊末庵等ハ公許共有ニ係ル者ノミヲ取調フヘシ
 但官祭招魂社並建物無之遙拜所ハ記載ニ及ハス
 一 由緒ハ創立公稱廢合再興復舊移轉及ヒ社格等許可ノ年月並該社寺ニ關スル緣由沿革ヲ詳記スヘシ

一 社寺境内地ノ社寺名受ニ非ル者ハ名受人ノ姓名私有共有ノ別ヲ地種ノ下ニ登記スヘシ

一 社寺境内ニ社堂外ノ建物教院ノ類アラハ社堂間數ノ次ニ並ヘ舉クヘシ

一 祭神由緒不詳ト雖モ古老ノ口碑等ニ存スル者ハ其旨ヲ記シ境内遙拜所等無之者ハ其項ヲ除クヘシ

一 社寺ニ氏子檀徒無之向ハ信徒講中ノ類ノ人員ヲ記スヘシ

一 明細帳取調濟ノ後府縣限リ處分セシ事件ニシテ明細帳ヲ改正シ又ハ記入スヘキ者ハ每月末取纏メ本省ヘ届出ヘシ

但從前届出方ノ成規アル者ハ格別ナリトス尤向後新ニ明細書ヲ出スモノハ總テ此書式ニ準スヘシ

○社殿堂宇祭祀法用ニ必要ナル部分公賣處分後

再建期限

二十年十月二十一日
内務省訓令第四十五號北海道廳府縣(沖繩縣ヲ除ク)

社寺ニシテ若シ其社殿堂宇等祭法用ニ必要ナル部分公賣處分ヲ請タル場合ニ於テハ該處分ノ日ヨリ百日以内ニ再建ノ方法ヲ立關係者連署寺院ハ管長副書ヲ以テ届出ルモノ

ニ限リ建築ノ爲メ滿二箇年間ノ猶豫ヲ與フヘシ百日ヲ經テ再建ノ方法ヲ不申出又ハ滿二箇年間ニ建築セサルモノハ明細帳ヲ削除スヘシ

○第九十三章

社寺境内樹木伐採方

明治六年七月二日
第貳百三拾五號布告

社寺境内ノ樹木ハ假令其社寺修繕等ニ相用ヒ候共猥ニ伐木不相成候若シ難止事情有之節ハ其地方廳ヘ願出許可ヲ可受事

○社寺伐木取扱概則

明治十五年八月二日
内務省府縣ヘ達

社寺境内樹木伐採之儀ハ明治六年第二百三十五號公布並八年第百七號公達九年當省並敎部省第十二號達十二年當省乙第三十三號達之趣有之官有地ニ係ルモノハ當省エ伺出處分之管ニ候處近來修繕之爲メ多分之伐木願出候向モ有之然ルニ社寺境内ハ修繕用材培植ノ地ニ無之數百年來之古木一朝地ヲ拂ヒ遂ニ風致ヲ毀損スル向モ不少候條自今請願之節ハ不得止分ニ限リ別紙條規ニ照シ取扱候條右廉々調査之上可伺出此旨爲心得示達候事

但縣限リ處分ニ係ル民有地第二種ハ勿論民有地第一種ニアル社寺境内樹木ト雖モ本文之振合ヲ以取扱フヘシ

別紙

社寺境内伐木取扱概則

第一條 社寺境内木ヲ五類ニ分子風致木目通寸間ニサ第一類トシ目通り壹丈以上ヲ第二類トシ同五尺以上ヲ第三類トシ同壹尺以上ヲ第四類トシ同壹尺未満ヲ第五類トス

第二條 第一類第二類之木ハ伐採ヲ許サス
 第三條 第三類ハ總木數十分ノ一拾本ニ付一本第四類ハ同十分之二拾本ニ付二本以內伐採ヲ許スア
 ルヘシ

第四條 第五類ハ別ニ分通ヲ定メス生立ノ爲メ拔伐ノ外伐採ヲ許サ、ルモノトス
 第五條 社ハ本殿拜殿寺ハ本堂庫裏之造修用材ニ限り第三條ニ據ルモノトス
 但必ス仕様書具申セシム

第九十四章 神佛教導職ヲ廢シ寺院ノ住職ヲ任
 免シ及教師ノ等級ヲ進退スルコトヲ管長ニ委ス

明治十七年八月十一日
 第拾九號布達

自今神佛教導職ヲ廢シ寺院ノ住職ヲ任免シ及教師ノ等級ヲ進退スルコトハ總テ各管長
 ニ委任シ左ノ條件ヲ定ム

第一條 各宗派妄リニ分合ヲ唱ヘ或ハ宗派ノ間ニ爭論ヲ爲ス可ラス
 第二條 管長ハ神道各派ニ一人佛道各宗ニ一人ヲ定ム可シ
 但事宜ニ因リ神道ニ於テ數派聯合シテ管長一人ヲ定メ佛道ニ於テ各派管長一人ヲ
 置クモ妨ケナシ

第三條 管長ヲ定ム可キ規則ハ神佛各其教規宗制ニ由テ之ヲ一定シ内務卿ノ認可ヲ得
 可シ

第四條 管長ハ各其立教開宗ノ主義ニ由テ左項ノ條規ヲ定メ内務卿ノ認可ヲ得可シ

一 教規

一 教師タルノ分限及其稱號ヲ定ムル事

一 教師ノ等級進退ノ事

一 以上神道管長ノ定ム可キ者トス

一 宗制

一 寺法

一 僧侶並ニ教師タルノ分限及其稱號ヲ定ムル事

一 寺院ノ住職任免及教師ノ等級進退ノ事

一 寺院ニ屬スル古文書寶物什器ノ類ヲ保存スル事

一 以上佛道管長ノ定ムヘキ者トス

第五條 佛道管長ハ各宗制ニ依テ古來宗派ニ長タル者ノ名稱ヲ取調ヘ内務卿ノ認可ヲ
 得テ之レヲ稱スルコトヲ得

右布達候事

○管長身分取扱

明治十七年八月十一日
 第六拾八號神佛各宗派一般へ達

右相達候事

○從前教導職タリシ者身分取扱方

明治十七年八月十一日
 第六拾九號神佛各宗派一般へ達

第十一類 社寺

省十八年
 丁祭以第一
 規可制從認
 認ノシハ從認
 部類シハ從認
 其類ノシハ從認
 省十八年
 丁祭以第一
 規可制從認
 認ノシハ從認
 部類シハ從認
 其類ノシハ從認

第十七年
 第十號以第
 第六拾八號
 省十八年
 丁祭以第一
 規可制從認
 認ノシハ從認
 部類シハ從認
 其類ノシハ從認

準シ取扱フ者トス
右相違候事

○盲僧取締方 明治八年七月十二日 教部省選書第貳拾九號府縣へ達
元青蓮院配下盲僧ノ儀者總テ天台宗ニ於テ所轄取締可致様其管長へ達置候條此旨爲心得相違候事

但盲僧之一派永存之旨趣ニ無之候條爾後盲子養取或ハ他人へ傳業候等之儀ハ勿論不相成筋ニ候事 八年達書第三十五號 省達ヲ以テ但書追加

○盲人ニ非スシテ盲僧ノ業ヲ營ムヲ禁ス 明治十三年 七月十二日 内務省乙第三拾 貳號府縣へ達

明治八年教部省第三十五號盲僧之儀ニ付達書自今相廢候條此旨相違候事
但盲人ニ非スシテ該業相營候儀ハ不相成筋ニ候事

第九十五章 僧侶肉食妻帶蓄髮等ヲ許ス 明治五年四月二十五日 第三百三拾三號布告
自今僧侶肉食妻帶蓄髮等可爲勝手事
但法用ノ外ハ人民一般ノ服ヲ着用不苦候事

○比丘尼蓄髮肉食緣付ヲ許ス 明治六年一月二十二日 第貳拾六號布告
壬申第三百三十三號布告僧侶肉食妻帶蓄髮等可爲勝手旨被仰出候ニ付テハ自今比丘尼ノモ蓄髮肉食緣付歸俗等可爲勝手事
但歸俗ノ輩ハ入籍致シ候上戸長へ可届出事

○僧侶肉食妻帶勝手タルノ公布ハ宗規ニ關係セシ
譯ニ無之 明治十一年二月二日 内務省兼外佛道各宗管長へ達

明治五年(四月)第三百三十三號僧侶肉食妻帶等可爲勝手公布ノ儀ハ從前有等ノ所業ヲ禁止セシ國法ヲ廢セラレ候旨趣ニ止リ決ノ宗規ニ關係無之譯ニ候條此旨爲心得相違候事

第九十六章 僧侶托鉢禁止ノ達ヲ廢ス 明治十四年八月十五日 内務省甲第八號布達
明治五年(十一月)教部省第廿五號達僧侶托鉢禁止之儀相廢候條此旨相違候事
但托鉢者ハ管長ノ免許證ヲ携帶スヘシ

○托鉢免許方並托鉢者心得 明治十四年八月十五日 内務省乙第三拾八號府縣へ達
今般戊第二號ヲ以佛道各管長へ別紙之通相違候條萬一不都合之所業有之節ハ直ニ托鉢差止願末詳細取調該宗管長若クハ其地方取締へ通知スヘシ此旨相違候事 十九年五月内務省令第九號ニテ取調 改正

(別紙) 輪廓附
佛道各宗派管長

僧侶托鉢解禁之儀今般別紙甲第八號布達候ニ付テハ自今左ノ條件遵守各宗派僧侶(教導職)試補以上ノ内托鉢ヲ爲サント欲スルモノ免許方法及取締規約取調可伺出此旨相違候事
托鉢免許方并托鉢者心得

十七年第十
九號布達
ヲ以テ教
導職
九十四章

へ伺出へシ

(別紙略之)

○無檀無住ノ寺院廢止處分手續

明治十二年一月十一日
内務省乙第壹號府縣へ達

無檀無住ノ寺院廢止處分之儀ハ明治十一年當省乙第五十七號達第二條ノ手續ニ準シ其本寺法類等ヨリ廢合出願ノ上處分可致此旨更ニ相達候事

第九十八章

禁厭祈禱ヲ行ヒ醫藥ヲ妨クルヲ禁ス

明治七年六月七日
教部省達第貳拾貳號府縣へ達

別紙乙第三十三號ノ通神道諸宗管長へ相達候條向後禁厭祈禱ヲ以醫藥等差止メ政治ノ妨害ト相成候様ノ所業致候者有之候ハ、於地方官取締可致此旨相達候事

神道諸宗管長

禁厭祈禱等ノ儀ハ神道諸宗共人民ノ請求ニ應シ從來ノ傳法執行候ハ元ヨリ不苦痛候處間ニハ之レカ爲メ醫藥ヲ妨ケ湯藥ヲ止メ候向モ有之哉ニ相聞以ノ外ノ事ニ候抑教導職タルモノ右等貴重ノ人命ニ關シ衆庶ノ方向ヲモ誤ラセ候様ノ所業有之候テハ朝旨ニ乖戾シ政治ノ障礙ト相成甚以不都合ノ次第ニ候條向後心得違ノ者無之様屹度取締可致此旨相達候事

○禁厭祈禱ヲ請フキ醫師施療中ノ者ニ限リ其望ニ

應スルヲ許ス

明治十五年七月十日内務省戊第三號
神道副總裁神佛各管長へ達

禁厭祈禱ノ儀ニ付七年(六月)教部省乙第三十三號達之趣有之候處病者治療ノ際之カ爲メ投藥ノ時機ヲ誤リ候儀モ有之哉ニ相聞不都合候條今後信者ヨリ請求候節ハ先服藥ノ有無ヲ証明セシメ果シテ醫師診斷施療中ノ者ニ限リ其望ニ應シ不苦候條其旨屹度可相心得此段相達候事

乙第四十二號

府 縣 神繩縣
除之

別紙戊第三號ノ通神道副總裁
神佛各管長へ相達候條今後違背之輩有之候半ハ直ニ差止置委詳當省へ其狀可致此旨相達候事

第九十九章 教會說教所

○教院教會所說教所ニ於テ葬儀ヲ執行或ハ平素

衆庶ニ參拜セシムル等ノ所爲ヲ禁ス

十四年十月三日内務省
乙第四十八號府縣へ達

別紙戊第三號之通神道副總裁
神佛各管長相達候條此旨爲心得相達候事

別紙

戊第三號(十月三日)

神道副總裁
神佛各管長

教院教會所說教所等ニ於テ葬祭ヲ執行シ或ハ平素衆庶ニ參拜セシムル等神社寺院ノ所爲ニ倣フモノ有之候テハ不都合候條心得違無之様可爲致此旨相達候事

○神道教導職其主神ヲ鎮祭シ教徒ノ葬儀ヲ執行スル
爲メ祠宇建設出願方

十五年一月廿三日
内務省乙第四號府縣へ達

今般祠宇建設ノ儀別紙戊戌第一號之通相達候條該教導職并教徒信徒ヨリ出願候ハ、十三年乙第五十二號達ノ振合ヲ以テ廉々精査ノ上當省ヘ可伺出此旨相達候事

別紙

戊戌第一號 (十五年五月廿三日)

神道副總裁

同 黒住派 管長
修成派

昨十四年第三號ヲ以テ敎院敎會所等ニ於テ葬祭ヲ執行シ衆庶ニ參拜セシムル等ノ儀不都合ノ旨相達候處自今神道敎導職奉敎ノ主義ヨリ其主神ヲ鎮祭シ其教徒ノ葬儀ヲ執行スル等ノ爲祠宇建設ヲ要スル向ハ左ノ條件ヲ詳記シ其地方廳ヘ出願スヘシ此旨相達候事
一 祠宇建設ヲ要スル理由
一 諸建物坪數繪圖面自論見仕樣并境内地坪地種名受共
一 永續資本ノ動不動財產并葬儀ヲ托スルモノ及信徒ノ員數

○人民私邸内等自祭ノ神祠佛堂衆庶參拜禁否

九年十二月十五日

敬部省達計第三十八號府縣ヘ達
第七號布告

從來人民私邸内等ニ自祭スル神祠佛堂ヘ衆庶參拜爲致候向モ有之自然一般社寺同様之姿ニ相成不都合候條自今總テ參拜可差停候尤其建物等更ニ信向人共有ノ筋ヲ以テ尙參拜之儀願出候ハ、永續法方並神官僧侶之受持等夫々取調爲申出候上管轄廳見込相立可伺出此旨相達候事

但從前願濟ノ分ト雖モ建物等一己私有ニ属スル向ハ本文ニ準シ詳細取調處分方可伺出

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

第百章 地租條例

明治十七年三月十五日
第七號布告

地租條例別冊ノ通制定シ明治六年^{七月}第貳百七拾貳號布告地租改正條例及地租改正ニ關スル條規其他本條例ニ抵觸スルモノハ廢止ス

但東京府管轄伊豆七島小笠原嶼函館縣沖繩縣札幌縣根室縣ハ當分從前ノ通タルヘシ右奉 勅旨布告候事

地租條例

第一條 地租ハ地價百分ノ二箇半ヲ以テ一年ノ定率トス

但本條例ニ地價ト稱スルハ地券ニ掲ケタル價額ヲ謂フ

第二條 地租ハ年ノ豐凶ニ由リテ増減セス

第三條 有租地ヲ區別シテ二類ト爲ス

第一類 田畑郡村宅地市街宅地鹽田鑛泉地

第二類 池沼山林原野雜種地

第一類中又ハ第二類中ノ各地目變換スルモノヲ地目變換ト謂フ

第二類地ニ勞費ヲ加ヘ第一類地ト爲スモノヲ開墾ト謂フ

第一類地又ハ第二類地ノ山崩川欠押堀石砂入川成海成湖水成等ノ如キ天災ニ罹リ地形ヲ變シタルモノヲ荒地ト謂フ

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

第四條 公立學校地、鄉村社地、墳墓地、用惡水路、溜池、堤塘、井溝、及公衆ノ用ニ供スル道路ハ地租ヲ免ス

第五條 土地ノ丈量ハ曲尺ヲ用ヒ六尺ヲ間ト爲シ方壹間ヲ以テ歩ト爲シ三拾歩ヲ畝ト爲シ拾畝ヲ段ト爲シ拾段ヲ町ト爲ス但市街宅地ハ方壹間ヲ以テ坪ト爲シ坪ノ拾分壹ヲ合ト爲シ合ノ拾分壹ヲ勾ト爲ス

第六條 開墾鐵下年期明荒地免租年期明ニテ地價ヲ定ルトキ又ハ地目變換スルトキハ地盤ヲ丈量ス

第七條 地價ハ地目變換又ハ開墾ニ非サレハ修正セス

第八條 一般ニ地價ノ改正ヲ要スルトキハ前以テ其旨ヲ布告スヘシ

第九條 地價ハ其地ノ品位等級ヲ詮定シ其所得ヲ審査シ尙ホ其土地ノ情況ニ應シ之ヲ定ム

第十條 地目ヲ變換スルトキハ之ヲ地方廳ニ届出ヘシ地價ハ其地ノ現況ニ依リ之ヲ修正ス

第十一條 免租地ヲ有租地ト爲サントスルトキハ地方廳ノ許可ヲ受クヘシ地價ハ其地ノ現況ニ依リ之ヲ定ム

第十二條 地租ハ地券記名者ヨリ徵收ス但賃入ノ土地ハ其賃取主ニ於テ之ヲ納ムヘシ
第十三條 有租地ヲ公立學校地、鄉村社地、墳墓地ト爲ストキ其地租ハ許可ヲ得シ月分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免シ用惡水路、溜池、堤塘、井溝、公衆ノ用ニ供スル道路ト爲ストキ

其地租ハ其地工事着手ノ月分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免ス

免租地ヲ有租地ト爲ストキ其地租ハ許可ヲ得シ翌月分ヨリ月割ヲ以テ徵收ス

第十四條 地目變換ハ其地價修正ノ年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第十五條 開墾地ハ鐵下年期明荒地ハ免租年期明ノ翌年分ヨリ更定地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第十六條 開墾ヲ爲サントスルトキハ地方廳ノ許可ヲ受クヘシ開墾地ハ十五年以内ノ鐵下年期ヲ許可ス但年期中ハ原地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第十七條 鐵下年期中當初ノ目的ヲ改メ他ノ地目ニ變スルトキハ之ヲ地方廳ニ届出ヘシ此場合ニ於テハ直ニ其地價ヲ定メ又ハ更ニ鐵下年期ヲ許可スルコトアルヘシ

第十八條 鐵下年期明ニ至リ開墾ノ成功ニ至ラサルモノハ更ニ十五年以内鐵下繼年期ヲ許可ス

第十九條 鐵下年期明ノトキハ其地價ヲ修正ス若シ其開墾當初ノ目的ニ達セス他ノ地目ニ變スルモノハ其地ノ現況ニ依リ地價ヲ修正ス

第二十條 荒地ハ其被害ノ年ヨリ十年以内免租年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス

第二十一條 免租年期明ニ至リ其地ノ現況原地價ニ復シ難キモノハ十年以内七割以下ノ低價年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス

第二十二條 低價年期明ニ至リ尙ホ原地價ニ復シ難キモノ及ヒ免租年期明ニ至リ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變スルモノハ其地ノ現況ニ依リ地價ヲ定ム

第二十三條 免租年期明ニ至リ尙ホ荒地ノ形狀ヲ存スルモノハ更ニ二十年以内免租繼年期ヲ定ム其年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キモノハ第二十一條第二十二條ニ依テ處分ス

第二十四條 川成海成湖水成ニ免租年期明ニ至リ原形ニ復シ難キモノハ更ニ二十年以内免租繼年期ヲ許可ス其年期明ニ至リ尙ホ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變セサルモノハ川海湖ニ歸スルモノトシ其地券ヲ還納セシム

第二十五條 土地ヲ欺隱シ地租ヲ遁脱スル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處シ現地目ニ依リ地價ヲ定メ欺隱年間ノ地租ヲ追徴ス但地租改正ノ初年以前ニ溯ルコトヲ得ス

第二十六條 第十一條第十六條ニ違反スル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其免租地ヲ有租地ト爲シ又ハ開墾ヲ爲スコトヲ許可スヘキモノハ現地目ニ依リ地價ヲ定メ其地租増額ヲ追徴ス但地租改正ノ初年以前ニ溯ルコトヲ得ス

第二十七條 第十條第十七條ニ違反スル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ料料ニ處ス
第二十八條 第二十五條以下ノ所犯借地人、小作人、ノ所爲ニ係リ所有主其情ヲ知ラサルトキハ其借地人、小作人、ヲ罰シ地租ハ所有主ヨリ追徴ス

第二十九條 第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條ノ刑ニ當ル者自首スルトキハ其罰金料ヲ免ス但其追徴スヘキ地租ハ仍ホ之ヲ納メシム
○地租徵收期限ヲ定ム 明治十四年二月十七日 第拾四號布告

明治十年七月第五拾三號布告地租徵收期限ノ儀明治十四年分ヨリ左ノ通改定候條此旨布告候事

但市街地租、儀ハ該年七月翌年一月兩期ニ其五分宛ヲ收納スヘシ十五年第二十四號布告但書改正
地租徵收期限十八年第十號布告ヲ以テ三期以下ヲ改正ス
畑方及宅地山林原野牧場

一期	該年七月一日ヨリ 同八月三十一日限	同	五分
二期	同 九月一日ヨリ 同 十月三十一日限	田方	五分
三期	該年十一月一日ヨリ 同 十二月十五日限	同	二分五厘
四期	同 十二月十六日ヨリ 翌年一月二十五日限	同	二分五厘
五期	同 一月二十六日ヨリ 同 三月三十一日限	同	二分五厘
六期	同 四月一日ヨリ 同 四月二十日限	同	二分五厘

○地租金代米納領收順序 明治十七年十一月二十四日 大藏省第八拾三號府縣(沖繩縣及北海道三縣ヲ除ク)へ通地租金代米納領收順序左之通相定候條此旨相達候事
地租金代米納領收順序

第壹條 代米納ハ町村納人各自若クハ一町村納人總代テシテ其定メタル港へ便宜輸送セシメ戸長ハ該港ニ出張之ヲ取纏メ其郡區役所ヨリ出張スル吏員へ相渡シ郡區吏員ハ之ヲ檢査シテ其港出張ノ大藏省納米請取方へ交付シ戸長ハ其預リ切符ヲ以テ郡區長へ納メ郡區長ハ其預リ切符ヲ收稅長へ宛テ送付スルモノトス

第貳條 郡區役所ノ吏員ハ納米輸送ノ時機ヲ計リ檢査スヘキ港へ出張シ明治五年八月太政官第貳百三拾壹號達ニ據リ納米ノ檢査及ヒ受授ノ順序ヲ處辨セシムルモノトス但檢査及ヒ受授ノ順序ハ納人及ヒ戸長郡區吏員大藏省納米受取方各立會之ヲ爲スヘシ

第三條 代米納所ハ回漕船ノ碇泊シ得ヘキ地ヲ取調稟申ノ上定ムル者トス

第四條 郡區長ハ第壹號ノ通甲乙接續セル納米切符ヲ製シ該米納方期限前遅クモ三十日以前各町村納額元帳ニ據リ其納米額及ヒ納期限ヲ甲乙納米切符へ記入シ第壹號甲納米切符ハ一印ノ如ク郡區役所ノ印ヲ捺シ尙元帳米額ト割印ヲ捺シ之ヲ戸長ニ達スヘシ

第五條 郡區長ハ前條ノ如ク戸長へ納米切符ヲ達シタル後遅クモ三日以内ニ其納米額ヲ第貳號ノ通調製シ之ヲ收稅長へ報告スヘシ

第六條 戸長ハ納米切符ヲ得テ其町村一人別帳ニ據リ納米者ニ達シ納米額ヲ輸送セシメ而テ該米受渡ノ節第壹號乙納米切符へ二印ノ如ク調印シ其納米ト共ニ郡區吏員へ相渡シ郡區吏員ハ該切符へ第三號ノ通檢査證ヲ添付シ之ヲ港出張ノ大藏省納米受取

方へ差出スヘシ

第七條 前條大藏省納米受取方ハ米額ヲ受取タルコトヲ証スル爲メ第壹號乙切符納米ノ下へ三印ノ如ク證印ヲ捺シ尙受取元帳ニ其金米額ヲ記シ之レト四印ノ如ク割印ヲ捺シ郡區吏員ヲ經テ之ヲ戸長へ相渡スヘシ

第八條 戸長ハ第壹號甲切符へ五印ノ如ク調印シ郡區役所へ上納スヘシ

第九條 郡區長ハ各戸長ヨリ上納セル甲乙納米切符ノ米額ト納米元帳ト照査シ其甲切符へ六印ノ如ク領收ノ證印ヲ捺シ尙七印ノ如ク甲乙切符接續ノ中央へ印ヲ捺シ而テ甲乙ヲ分截シ乙ハ郡區役所ニ留置キ甲ハ戸長ニ付與シ以テ代米納濟ノ證トスヘシ

第十條 郡區長ハ其留置キタル納米切符ヲ一旬日毎ニ取纏メ遅クモ三日以内ニ第四號ノ通納稅證書ヲ製シ捺印ノ上之ヲ收稅長へ宛テ送付スヘシ

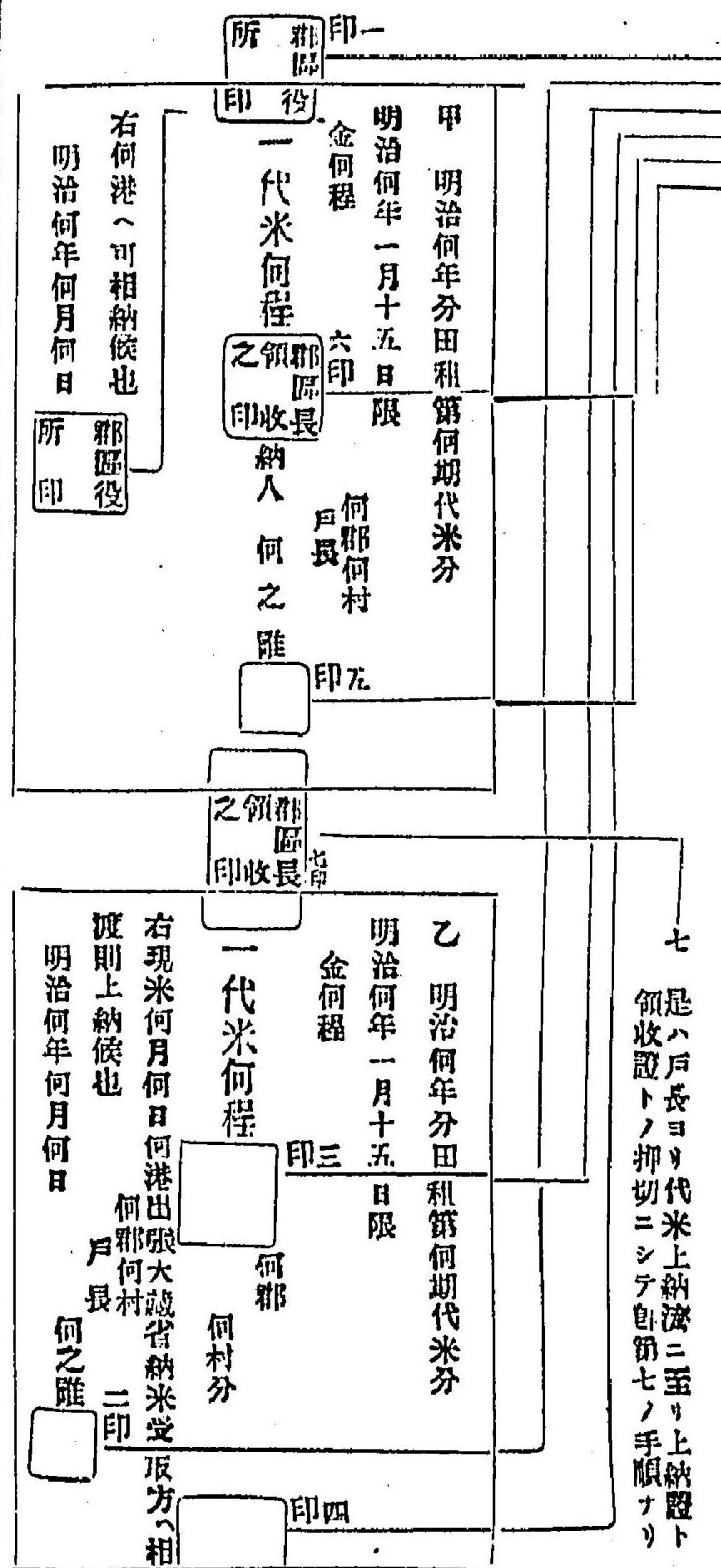
第十壹條 收稅長ハ納米切符ヲ請取タル日ヨリ遅クモ三日以内ニ第五號ノ通領收證書ニ捺印ノ上郡區長へ送付スヘシ

第十貳條 郡區長ハ代米皆納ニ至ラハ其金米額ヲ收稅長ニ報告スヘシ

第十參條 收稅長ハ定式ノ如ク皆濟帳ニ金納ト代米納トノ金額ヲ内譯ニ記シ其代米納ノ金額ハ此代米若干トシ主稅官長へ差出シ之ヲ決算ヲ爲スヘシ

第十肆條

- 一 是ハ最初戸長へ送スル郡區役所元帳ト押切且金米額ヲ證スル爲メ捺印ス即第五ノ手順ナリ
- 二 是ハ一村ノ納米取束ヲ港出張ノ郡區吏員へ相渡スノ證ニシテ即第六ノ手順ナリ
- 三 是ハ出張ノ大藏省納米受取方戸長ヨリ納米ヲ受取タル證印ニシテ即第三ノ手順ナリ
- 四 是ハ納米受取タル港出張ノ大藏省納米受取方ノ原簿ニ押切モノニシテ即第四ノ手順ナリ
- 五 是ハ戸長ヨリ代米渡濟郡區役所へ上納ノ際證印スルモノニシテ即第五ノ手順ナリ
- 六 是ハ戸長ヨリ代米上納證ニ至リ郡區役所領收ノ證印ニシテ即第六ノ手順ナリ
- 七 是ハ戸長ヨリ代米上納證ニ至リ上納證ト領收證トノ押切ニシテ即第七ノ手順ナリ



(第貳號以下式略ス)

○預リ米取扱手續

明治十八年八月十日 大藏省第五拾貳號府縣(北海道三縣沖繩縣ヲ除ク)へ達

明治十年^{十一月}當省乙第三拾九號達預リ米取扱手續左ノ通改正ス
但明治十二年^{九月}當省乙第三拾五號達ハ廢止ス

預リ米取扱手續

- 第一條 預リ米ハ地租第三四五六納期ニ於テ各其半額迄ヲ納金抵當トシテ該町村ノ上米ヲ預ルモノトス但代米納テ許可スルハ其員額ニ對スル分ハ預リ米ヲ許可セス
- 第二條 預リ米ハ十一月二十日迄ニ願出テタル者ニ限り許可スヘシ
- 第三條 預リ米ヲ許可スルハ地租改正ニ用ヒタル米價ヨリ時價下落ノ時ニ限ルヘシ
- 第四條 時價ヲ算出スルハ管内ヲ適宜ニ區分シ相場立ノ箇所ヲ定メ置キ該年十月十二日ヨリ十一月十日マテノ間其地ノ上米平均相場ヲ用フヘシ但區畫及其相場立箇所ハ豫メ主税局へ届出ヘシ
- 第五條 預リ米ハ前項ニ掲ケタル相場ヲ以テ計出シ得ル所ノ米額ニ壹割ヲ加ヘタルモノヲ藏置セシムヘシ
- 第六條 俵拵并俵入等ハ渾テ代米納同様タルヘシ但合米ハ加フルニ及ハス
- 第七條 預リ米ヲ藏置スヘキ場所ハ府縣廳ニ於テ各町村預ケ高ノ多寡ヲ豫算シ一郡内適宜ニ指定シ集蓄セシムヘシ但藏置及看守人給料其他一切ノ費用ハ預ケ人ノ負擔トス

第十二號 租税及貨紙幣公債區町村費

ス

第八條 藏入期限ハ十二月十五日限ト定メ郡吏戸長預ケ主一名立會封印スヘシ但郡吏ハ適宜巡村ノ日割ヲ定メ豫メ之ヲ通告シ必ス期限内ニ完了スヘシ

第九條 預リ米換金期限ハ左ニ記載セル三期トス此期日迄ニ納金セサルキハ郡吏戸長立會其期ニ當ル預リ米ヲ競賣スヘシ

一 第三期預リ米 三月十五日限

一 第五期預リ米 四月二十日限

一 第六期預リ米 五月十五日限

第十條 前項競賣代金税額ニ滿タサルキハ直チニ其不足金ヲ徵收ス若シ納メサルキハ一般ノ租税不納金處分規則ニ據リ處分スヘシ

第十一條 預ケ主ニ於テ預リ米ヲ賣却セシムルヲ請フモノアルキハ其時々之ヲ許シ各立會賣却ノ上其代金ハ直チニ收入シ藏出セシムヘシ

第十二條 預リ中水火盜難又ハ欠減等ニ罹リ損失ヲ生スルコトアルモ預主ニ於テ補償ノ責ニ任スヘシ

第十三條 預リ米アル地所他ノ事故ニ因リ公賣ノ處分ニ係ルキハ其預リ米アルニ拘ハラス當期ノ税金ヲ完納セシムヘシ但此場合ニ於テハ預リ米ヲ還附スヘシ

第十四條 預リ米ヲ許可スルニ方リテハ前二項ニ開示セル條件ヲ承諾セシメ請書ヲ領收スヘシ

第十五條 許可シタル預リ米ノ員額及其金額ハ一郡役所限リ取調十二月十五日迄ニ主税局ヘ届出ヘシ

○所有地所在ノ戸長役場所轄内ニ居住セサルキ地租地方税等ヲ納ムル代人ヲ戸長役場ヘ届置方

土地所有者ニシテ其土地所在ノ戸長役場所轄内ニ居住セサルキハ地租地方税備荒儲蓄金區町村費ヲ納ムル爲メ代人ヲ定メ土地所轄ノ戸長役場ヘ届置カシムヘシ
右相違候事

○一類地ニシテ段別地目ヲ異ニスル者分裂合併ノ場合

段別定メ方 十九年十一月二十五日 大藏省訓令第六十六號府縣(沖繩縣ヲ除ク)
一類地ニシテ荒地成置地成地目變換其他段別地目ノ異動ニ係ルモノハ一筆中分裂合併又ハ二筆以上合併ヲ爲ス場合ニ於テハ其分裂ニ係ルモノハ殘地ヲモ丈量シテ段別ヲ定メシムヘシ

○土地分合筆取扱手續

土地分合筆取扱手續 二十年四月十一日 大藏省訓令第二十五號府縣(沖繩縣ヲ除ク)

第一條 一筆ノ土地ヲ分割シ二筆以上ノ土地ヲ合併セントスル者ハ其段別地價及野取圖ヲ添ヘ戸長役場ヲ經由シ郡區役所ヘ出願セシムヘシ

第二條 戶長ハ第一條ノ願書ヲ受領シタルトキハ與書ヲナスヘシ若シ段別地價ノ分配ニ於テ不適當ト視認ムルコトアルキハ實地臨檢ノ上其旨ヲ説示シ承服セサルモノハ意見書ヲ作り郡區役所ヲ經山シ地方廳ヘ具申セシムヘシ

第三條 地方廳ハ第二條ノ具申書ヲ受領シタルトキハ規定ノ手續ニヨリ更ニ實地審査シ適當ノ地價ヲ定メ之ヲ所有者ニ示達スヘシ

○隱田切開地添地處分方

明治九年五月十二日 第六拾七號布告

隱田切開切添地等ノ儀ニ付テハ明治五年^九大藏省第百貳拾六號布達地券渡方規則中第二十一條及明治六年^九第三百十五號ヲ以及布告候趣モ有之候處更ニ左ノ通被相定候條此旨布告候事

第一條 隱田切開切添地ノ此布告以前ニ係ルモノ該府縣地租改正濟迄ニ申出ル時ハ其罪ヲ問ハス其者所有ニ可相定若シ之ヲ申出スシテ改正濟後ニ至リ發覺スルモノハ律ニ照シ處分スヘシ

但此布告以後ニ係ルモノハ地租改正濟ノ前後ヲ不論渾テ律ニ照シ處分スヘシ
第二條 蕪落殘歩ハ此布告ノ前後ヲ論セス該府縣地租改正濟迄ニ申出ル時ハ其罪ヲ問ハス其者所有ニ可相定若シ之ヲ申出スシテ改正濟後ニ至リ發覺スルモノハ律ニ照シ處分スヘシ

第三條 官簿ニ記載アル地并記載ナシト雖モ從來官山官林用地附屬地等ノ證アル地ヲ私ニ田畑宅地等ニ侵墾セシモノ此布告以前ニ係ルモノハ該府縣地租改正濟迄ニ申出

ル時ハ其罪ヲ問ハス其民有地トナシ差支ナキモノハ其者へ素地相當代價ヲ以可拂下其民有トナシ難キモノハ直チニ返地セシメ事情ニヨリテハ更ニ借地差許ス儀モコレアルヘシ

第四條 前條侵墾地地租改正濟後ニ至リ發覺スルモノ及此布告以後ニ係ル侵墾地ハ渾テ律ニ照シ處分スヘシ

第五條 前條ノ地ハ舊藩縣ヨリ開墾願濟ノ分タリ未タ地代金ヲ納メスシテ未着手ノモノハ直ニ返地セシメ其民有地トシテ差支ナキモノハ更ニ相當代價ヲ以其者へ可拂下其地代金ヲ納メスルニ着手スルモノハ直ニ其者ノ所有ト定ムヘシ

第六條 凡ソ民有ニアラサル地ヲ私ニ賣買或ハ質入トナス者此布告以前ニ係ル分地租改正濟迄ニ申出ルモノハ其罪ヲ問ハス其民有地トナシ差支ナキモノハ賣買并流質地共買得者及質取主へ其儘無代價ニテ下渡其民有地トナシテ差支アルモノ并質地年限中ノモノハ官有地ニ編入スヘシ此布告以後ニ係ルモノハ地租改正濟ノ前後ヲ不論律ニ照シ處分スヘシ

● 伺指令

● 遺地々券書換其他ノ儀ニ付兵庫縣ヨリ內務省へ伺十五年九月三十日

本年七月太政官第三拾五號ヲ以十年第拾八號布告第三條改正相成遺地之儀ハ工事着手ノ月ヨリ除稅ノ管ニテ七ヶ月以上ニ涉ルヘキ工事ハ六ヶ月毎ニ其工程ヲ量リ除稅ノ區域ヲ定ムルモノトストアリ因之觀之遺地許可ノ月ヨリ地租組替當然ニ被存候得共然ルルハ工事期限中六ヶ月毎其工程ヲ量リ最初見込反別ニ變動有之ハ再ヒ以前ニ遡リ

地租租替セサルヲ得メニ成功期限ノ長キハ敷回地券換(官有地ニ編入セシ)等官民ノ手數ハ勿論實際不都合ニ付右ハ當初工事ヲ許シ地券換帳へ申由年月日記載地租ハ六ヶ月間着手見込ノ分(六ヶ月以内)收納差止置而シテ検査ノ上工事ヲ施シタル分ニ限り都度六ヶ月前ニ廻リ地租租替除稅シ地券ハ全部成功ノ上再換又ハ引揚等取計可然哉此段相伺候也

但十二年内務省乙第二十九號御達ニ係ル潰地處分后報告ノ義假令ハ一ノ溜池築鑿出竣功期限數十ヶ月ニ涉ルモノハ敷回(即チ六ヶ月毎地)報告ヲ要スル儀ニ候得共十二ヶ月以上ニ涉ル分ハ全反別ヲ掲ケ當初及御届置六ヶ月毎ニハ報告ヲ除キ悉皆成功濟毎季任辭表ヲ以テ報告致可然哉豫相伺置候也

指令 (大藏省) 十六年十一月十四日
書面但書共同之通

● 嶽下年季及ヒ荒地免租季明之儀ニ付新瀛縣ヨリ大藏省へ伺十七年三月廿七日

地租條例第十五條ニ開墾地ハ嶽下年季明地ハ免租年季明ノ翌年分ヨリ更定地價ニ因リ地租徵收ストアリ假令ハ十二年ヨリ十六年マテ五ヶ年季ノ嶽下地又ハ荒地即チ十七年季明實地檢分スルニ開墾濟又ハ原地目ニ起返シ得ヘキモノニシテ相當ノ收利アルモ季明翌年即チ十八年ヨリ徵收スル旨趣ナルヤ又ハ其年季末年ヲ指シタルモノニシテ十七年ヨリ徵收スル儀ナルヤ

指令 十七年四月九日
伺ノ題年季滿限ノ翌年ヨリ徵收スヘキ儀ト可相心得申

● 地租條例中疑義ノ儀ニ付埼玉縣ヨリ大藏省へ伺十七年三月二十九日

第一條 本年第七號布告地租條例第三條中第二類地(池沼山林原野雜種地)ニ勞費ヲ加ヘ第一類地(田畑郡村宅地市街宅地鹽田鑛泉地)トナスモノヲ開墾ト謂フトアリ然ルトキハ山林原野宅地トナシ嶽下年季ヲ要セサルモノハ地目變換ト同視シテ取扱然ルヘキヤ

第二條 同上第十三條ニ有租地ヲ公立學校郡村社地墳墓地トナストキ其地租ハ許可得シ月分ヨリ月割ヲ以テ之

チ免ストアリ右ハ民有地ノ變換ヲ指シタルモノニテ民有地官へ買上ケ又ハ官有地ヲ拂下ケタル收稅除稅區分ノ儀ハ十年第七號布告第一條(民有地ヲ買上ル時其年分ノ稅ハ買上タル前月分迄月割ヲ以テ收入スヘシ)第二條(官有地ヲ拂下ル時其年分ノ稅ハ拂下タル翌月分ヨリ月割ヲ以テ收入スヘシ)ニ準據取扱然ルヘキヤ

第三條 同第二十一條ニ免租年期明ニ至リ其地ノ現況地價ニ復シ難キモノハ十年以內七割以下ノ低稅年期ヲ定メ云々トアリ例へハ原收發登石ノモノ七斗ノ收發ニ起返ルトキハ之ヲ七割低價トシ壹斗ニ起返ルトキハ一割ト稱スヘキヤ

第四條 同第二十二條ニ低價年期明ニ至リ尙原地價ニ復シ難キモノ及免租年期明ニ至リ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變スルモノハ其地ノ現況ニ依リ地價ヲ定ムトアリ然ルニ免租年中持主ノ便宜ニ因リ宅地トナスモノハ十年地租改正事務局御省運籌乙第六號第四條(荒地免稅年季中宅地トナスモノハ宅地トナリタル翌年ヨリ該宅地相當ノ地價ヲ定メ課稅スベシ)但池沼成沼成等ノ荒地ヲ埋堆シ宅地トナスカ如キ非常ノ勞費アルモノハ伺ナ經テ其年季中免稅ニ據置ヘキモノトス)ニ照準取扱然ルヘキヤ

指令 十七年五月五日
第一條 嶽下年季ヲ要セサル者ト雖モ開墾トス地租ハ其翌年分ヨリ更定地價ニ據リ徵收スベシ
第二條 申出之通
第三條 七割以下ノ低價年期ヲ定ムトハ原地價ヨリ七割以內ヲ減シタル低價年期ヲ定ムヘキモノトス
第四條 免租年中持主ノ便宜ニ因リ宅地トナス者ト雖モ條例第二十三條ニ據リ處分スヘシ
但十年地租改正事務局運籌省乙第六號通ハ消滅ス

● 地目變換地及ヒ開墾地取扱方ノ儀ニ付岐阜縣ヨリ大藏省へ伺十七年三月廿四日

本年三月第七號布告地租條例第三條第一類地(田畑郡村宅地市街宅地鹽田鑛泉地)ヲ第二類地(池沼山林原野雜種地)ニ第二類地ヲ第一類地ニ爲スモ嶽下年季ヲ請ハサルモノハ同第十條ニ準シ爲届出可然哉

指令 十七年五月十三日

設ケ人シ可然哉

指令 十八年八月廿六日

伺之趣左之通可相心得事

第一項民有第二種ノ地ハ罷地トナルモ年期ヲ附與スルニ及ハス

但書申出ノ通

第二項伺之通

第三項海成川成湖水成以後三拾年經過シ尙ホ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變セサルモノハ川海湖ニ歸スルモノトシ

其地券ヲ還納セシムヘシ

第四項十七年當省第八拾九號逕免租地察帳中増減欄内へ朱字ヲ以テ其員數等ヲ掲記シ而シテ差引現在額欄内反別

之内書ニモ記載シ置ケヘシ

第五項十七年當省第五拾六號逕免租地反別表中反別之内書ニ記載スヘシ

●地租徵收方ノ儀ニ付福嶋縣ヨリ大藏省ヘ伺 十八年十月二日

地租ハ該條例第十二條ニ據リ地券記名者ヨリ徵收スヘキニ賣買讓與ノ爲メ地券書換出願シ證印稅ハ直ニ上納スルモ券狀下與以前ハ賣買讓與人ヨリ地租徵收スヘキハ勿論ト存セラレ候得共爲念此段相伺候也

指令 十八年十月二十七日

伺ノ趣ハ地券書換出願ノ際証印稅ヲ徵シ其日附ヲ以券狀下付スヘキ儀ニ候條券狀記名者即チ買受讓受者ニ對シ徵收スル儀ト可相心得事

●土地分合併筆取扱手續ノ件ニ付三重縣ヨリ大藏省主税局ヘ照會 二十年四月十四日

(前月二十六日官報)

訓令第二十五號土地分合併筆取扱手續被定候ニ付土地ナ分割賣渡セントシ又ハ之レヲ合併セントスルトキハ出願書可ナ經ルニテラサレハ直ニ地券書換出願ノ手續ヲ行ハシテモノニ相見ヘ候賣買ニ依リ登記ヲ請ヒ又ハ地券書換ノ手續ハ前記許可ヲ受ケタル上更ニ出願セシムヘキ趣旨ナルヤ

自己ノ所有地ニ雖以上合併セントスルモノハ既定ノ地價ヲ併合スルニ止マルモノニ付是等ハ地券書換ト共ニ出願セシメ可然ヤ

回答 二十年四月二十二日

第一項ハ地券書換ト共ニ出願セシムル旨趣ニ之レアリ第二項ハ見解ノ通

第百一章 地券渡方規則

明治廿五年二月二十四日 大藏省第八拾五號布達

今般地所永代賣買被差許候ニ付今後賣買並讓渡ノ分地券渡方等別紙規則ノ通可相心得事

(別紙)

地所賣買讓渡ニ付地券渡方規則

第一條 地券相渡候節地券ハ最前ノ離形通りニ製シ地主ヘ相渡地券大帳ハ二ツ折帳ニ

仕立半枚ニ二筆宛記載シ券狀ト別印可致置事 五年第百十五號省達ヲ以テ本條但書共全條改正

但腹書多分有之分ハ見計タル可キ事

第二條 地券大帳ハ年々收稅ノ照準ニ致シ地券渡濟ノ上一村限地所之段別地券金高ト

モ總合高取調租稅察ヘ可差出事

但總合高取調方別紙表式之通可相心得尤表式ハ追テ可相違事

第三條 地券申受ノ儀ハ別紙願面書式ノ通り相認爲願出可申事

第四條 右願出有之節ハ雙方情實篤ト相糺相違無之候ハ、地券相渡可申事

第五條 一筆ノ地所ヲ裂キ賣買致度旨願出候分ハ實地ニ於テ惣步數ヲ改檢地帳ヘ照合

十二年地券第六號
乙第六號地券以テ
印下ノトテ
印下ノトテ

シ引分ケ方偏頗無之様篤ト檢査ノ上願ノ趣聞届地券相渡可申事
第六條 右地券ハ地所持主タル確證ニ付大切ニ可致所持旨兼テ相論置可申候萬一水火盜難ニテ地券ヲ失ヒ候節ハ二人以上ノ證人ヲ立村役人連印ヲ以書替ノ儀爲願出可申事

但盜難等ニテ失ヒ候分後日相知レ候ハ、早速可差出旨請書取置可申事

第七條 初度地券相渡候以後賣買讓渡シ并代替リ其外質地流込等ニテ持主相替リ候節ハ地券ノ裏ニ雜形ノ通相認地券書替ノ儀爲願出可申事

第八條 右書替願出候節ハ其情實ヲ吟味シテ後新地券ヲ渡シ舊券ヲ取消スヘシ尤大帳

可届出事
第九條 山林原野其他ノ地所共賣買讓渡ニ付地券相渡候分總テ同様可相心得事

第十條 願ニヨリ荒蕪ノ地所拂下ケ候節ハ同様地券可相渡事

第十一條 新規書替共地券申受候節設印稅トシテ左ノ通り上納可爲致事
十四年第三十號布告ニ依リ証印稅ノ

廉除

第十二條 七年第百三十三號公達ヲ以テ廢ス

第十三條 五年第百八十三號省達ニ依リ除ク

第十四條 既往ニ付除ク

第十五條 一筆ノ地所ヲ裂キ賣買致シ候儀願ニヨリ差許候ニ付テハ舊地主ハ殘置候分

並裂地ニ致候分トモ地所ノ番號ハ在來ノ據置幾廉ニ分裂候共何番ノ内維持地ト記

シ可申券狀番號ノ儀ハ地所ノ番號ニ不拘券狀渡ノ願番ニ可致事
五年第百二十六號省達ヲ以テ本條以下第四十條迄ヲ增

初ノ同年第百五十九號省達ヲ以テ本條以下三條ヲ削リ更ニ右跡へ同年第九十四號第百三十二號省達ヲ編入シテ布達ス

第十六條 八年地租改正局乙第

第十七條 八年地租改正局乙第

第十八條 八年地租改正局乙第

第十九條 八年地租改正局乙第

第二十條 八年地租改正局乙第

第二十一條 從前切添切開並高外地へ試作致シ候歟或ハ除地見捨地等へ家屋取立候歟

林畝ノ類開發致シ候種類其他隱田ヨリ共此度限リ一切差許候間有體可書出旨可申渡

事

第二十二條 地券相渡シ候後ニ於テ隱田等有之候節ハ此規則第十二條密賣買ノ例ヲ以

テ處置可致事

但隱田ハ賣買ノ代金無之候ニ付地所ノミ取上可申且其地所ハ入札拂取計右代價ノ

三分通り村役人ヨリ可取立事

第二十三條 從前切畝致シ檢地帳名寄帳小拾帳等ニ突合サル共現地ノ景況ニ隨ヒ總テ

地引繪圖可差出旨說示可致事

第二十四條 反別等持主申立ヲ以テ檢地帳へ引合セ相違無之分ハ据置ノ積相心得檢地竿入等取計不及候得共地所境界紛雜取調差支候向ハ一筆限畝杭ヲ打地引繪圖爲差出落地無之樣實地檢査可致事

但餘步有之地所檢地帳ニ比較増歩相成候分ハ人民申立之通据置右ニ相反シ檢地帳ヨリ減歩相成候地所竿入檢査ノ上減歩可致事

第二十五條 從前高内外ニ不拘社寺鄉藏之類或ハ埋葬地等地主定リ無之分ハ地引繪圖中ニ其譯可記置事

第二十六條 村持ノ小物成場山林ノ類ハ地引繪圖中色分致シ可中事

第二十七條 堤外附寄洲又ハ流作場等不定地ノ類大繩塙ニ相成居持主有之候ハ、格別確定之持主無之地所ハ入札拂ニ致シ持主相定メ可申若シ持主ニ難相定分ハ拜借地ノ積可相心得事

第二十八條 從前高内外ニ不拘鄉藏敷村園穀積藏敷之類人民ニ關係ノ分ハ地券ヲ定メ一村總持ト可致事

第二十九條 堰料堤敷道敷川床敷等ノ類潰地高内永引之分ハ自今無稅地ニ相定メ可申事

第三十條 墓所地ハ從前之通無稅地ト可致事

第三十一條 本田畑ト雖モ村民退轉致シ持主無之荒地ハ其反別ヲ點檢致シ入札拂ノ積

相心得管内普ク布告可致事

第三十二條 持主有之荒地ハ反別坪數等綿密ニ遂檢査起返ノ手數勘辨ノ上至當ノ年期ヲ定メ代價ヲ記セサル券狀ヲ其持主ニ相渡年期中無稅ト可相定事

但荒地券狀證印稅ハ反別ノ多小ニ不拘一筆ノ地所ヨリ五錢ノ印稅ヲ收入スヘシ

第三十三條 十年地租改正局乙第十
三號達ヲ以テ取消ス 村持之山林郊原其地價難定土地ハ字反別ノミ記セル券狀へ從前ノ貢額ヲ記シ肩ニ何村公有地ト記シ其村方へ可相渡置事

但池沼ノ種類モ同斷之事

第三十五條 兩村以上數村入合ノ山野ハ其村々ヲ組合トシ同前様ノ仕方ヲ以テ何村何村ノ公有地ト認メ券狀可渡置尤其券狀ハ組合村方年番持等適宜ニ可相定事

第三十六條 總テ山林原野ノ類反別難相分ハ先以テ無反別ニ致シ漸次點檢ノ積可相心得事

第三十七條 總テ右種類ハ他界ヲ券狀ニ記載ス可シ譬へハ東耕地西字何山南某川北某村字何原ト如斯詳カニ記注ス可キ事

第三十八條 從前無稅地ニ住民有之候得共地位下等ニシテ他ヨリ望入ナキヲ以テ地價ノ目的難相立節ハ一反步則三百步
地ナリニ付十圓以上ノ地價ニ定ム可キ事

第三十九條 地所引合相濟候ハ、落地無之旨地主一同調印之上戸長以下ノ誓文請書可申付事

第四十條 右種類地有稅無稅ノ區界ヲ仕譯村限リ地券臺帳ノ末ニ記載可致事
右之通相達候事

○地所賣買讓渡等ノ節地券狀餘白へ確認ノ証ヲ記シ

下附 明治十二年二月十日
第六號布告

地所賣買讓與等ノ節ハ總テ地券書換下ケ渡スヘキ成規ノ處自今其券狀餘白アルモノハ
管轄廳ニ於テ其裏面へ確認ノ證ヲ記シテ下ケ渡スヘシ此旨布告候事
但證印稅ノ儀ハ從前之通

○地券取扱順序 明治十二年三月三十一日
地租改正事務局乙第三府縣へ達

本年當局乙第二號達ヲ以テ地券裏面野割内へ記名所有權ヲ移シ候ニ付テハ書式別紙離
形ノ通ニ候條爾後左ノ順序ニ照準可取扱此旨相達候事

但地券下與及ヒ書換ノ事務ハ以來區郡長ニ於テ爲取扱可申最地券臺帳ハ各區郡役所
へ下ケ渡置可申事

(別紙)

地券取扱順序

所有主變換確認ノ證印ヲ乞フ時ハ裏面野割内へ別紙離形ノ如ク官姓名ヲ記入捺印シ其
旨ヲ臺帳ニ登記シ之ヲ下附スヘシ 同年同局乙第五號達
ヲ以テ次項ヲ削除ス
表面ノ反別或ハ地價地租ニ増減ヲ生スルキハ必ス新規書換ユルモノトス

二十一年
六月
省訓令第
八號
テ未項
券下與
ナノ一
願ス
項云

貳人以上共有ノ地ハ成ル可ク其姓名ヲ悉記スヘシト雖モ餘白ナキモノハ外何人ト記シ
連名簿二冊ヲ添付セシムヘシ
前條連名簿ヲ要スルモノハ表面ハ地租ノ次野へ裏面ハ欄内名面ノ上ニ別冊連名簿添付
ト記入(雛形第三號ノ如シ)シ券狀ト共ニ下附スヘシ最モ一冊ハ之ヲ區郡役所ニ留置ク
モノトス

數人共有ノ地所券而記名ノ者賣買讓與等ニ係ルキハ普通ノ手續ヲ以テ所有ヲ移スヘシ
ト雖モ若シ外何人ト記入ノ内賣渡讓與等ニ係ル如キハ連名簿中ノ讓主ノ姓名ヲ抹朱シ
其結尾へ買(受)主ノ姓名ヲ記入シ上頭へ年月日何某分買得或ハ讓受ト朱記進達セシメ
區郡役所ニ留置ク處ノ名簿モ同ク更正ヲ加ヘ一冊ハ之ヲ下戻スヘシ

但買主ノ姓名ヲ結尾へ記入シ難キ節ハ讓主則チ抹朱セシ姓名ノ上頭へ記載スルモ若
シカラス

所有主轉居及ヒ改姓名ハ朱書ヲ以テ(雛形第一第二號ノ如シ)更正主任之レニ捺印シ臺
帳ヲ訂正スヘシ

但共有者連名簿添付セシモノニテ外何人ト記名ノ者改姓名等ハ連名簿ニ年月日改姓
名或ハ轉居等記入進達セシメ區郡役所へ留置キシ名簿訂正ノ上下ケ戻スヘシ

(括弧内ハ朱書)

(一號 轉居)

○何國何區何町

何國何區何町

○(改姓名)

何 何
(何) 某

表書ノ地所自今右記名者ノ所有タルヲ確認ス

主事

明治何年何月何日

區長 何 某(○)

(二號)

○(何某改姓名)

何國何區何町

何 何 何
何 某 某

.....
.....
.....(○)

(三號)

連名簿添付

何國何區何町

何 某

外何拾何人

.....
.....
.....(○)

同年司法
官第三
十一號
以本
官大
判所
へ送

○地券書換ニ付裁判言渡ヲ受クルモ義務者其手續ヲ爲サ、ルキ
權利者ニ於テ書換出願及書替下渡方明治十一年九月五日
地租改正事務局乙第三號府縣へ送

地券書換ノ訴件ニ付裁判言渡ヲ受ルモ義務者ニ於テ徒ラニ不服ヲ唱ヘ其書換ノ手續ヲ
ナサ、ルキハ該裁判所ノ言渡書義務者徒ラニ不服ヲ唱ヘ執行ヲナサ、ルニ付地券書
換ノ儀其筋へ可成出願ヲ記載明示セサルモノナラフ相添ヘ權利者ヨ
リ地券書換ノ儀願出候ハ、義務者連署致サス候共右言渡書ヲ看認シ地券書換相渡可申
尤モ義務者所持スル地券ハ無効ノモノニ付命令シテ官ニ還納セシムヘシ此旨相達候事

○法律上公賣ヲ經タル地所地券書替願ハ舊所有主ノ連署ヲ

要セス明治十六年二月一日
大藏省第七號府縣へ達

地稅不納及ヒ賍金追徵民事身代限等凡ソ法律上公賣處分ヲ經タル地所又ハ地券書換ノ
訴件ニ付該裁判所決定シタルモノ、地券書換願書ハ舊所有者ノ連署ヲ要セス候條買受人
若シクハ權利者ヨリ其證左ヲ添付シ戸長與印ノ上出願候ハ、書換下付シ舊所有者所持
ノ地券ハ無効ノ旨命令シテ還納セシムヘキ儀ト心得ヘク此旨相達候事
但從前ノ達指令等本文ニ抵觸候分ハ廢止トス

○地券下付書換手数料ヲ定ム二十年一月十七日
大藏省令第一號

法律第一號登記法第三十九條ニ基キ地券下付書換手續及ヒ手数料左ノ通相定ム

第一條 地券下付書換ニ係ル事務ハ郡區役所ニ於テ之ヲ取扱ヘシ

第二條 左ノ場合ニ於テハ土地所有者ヨリ地券下付又ハ地券書換ヲ郡區役所ニ願出ヘ

シ
土地所有ノ移轉荒地免租年期明、開墾下年期明、地目變換、免租地ノ有租地成、有租
地ノ免租地成、荒地免租、開墾合併、分裂、地券ノ水火盜難ニ罹リタルモノ、地券面ノ反
別地價地租ニ異動ヲ生シタルモノ、所有者姓名ノ變更シタルモノ
郡區長ハ前項ノ願書ヲ受ケタルトキハ遅クモ五日以内ニ地券ノ下付又ハ書換ヲ爲ス
ヘシ

第三條 地券ノ下付又ハ書換ヲ願フモノハ願書ニ戸長ノ與印ヲ受ケヘシ但登記法ニ據
リ登記ヲ經タルモノハ登記簿ノ證書ヲ戸長ニ示スヘシ

第四條 戸長役場ナキ地方ニ於テハ地券ノ下付又ハ書換願書ヲ直ニ區役所ニ差出スヘ
シ但登記簿ニ係ルモノハ其證書ヲ區長ニ示スヘシ

第五條 地券ノ下付又ハ書換ヲ願フモノハ手数料トシテ壹枚ニ付金三錢ヲ納ムヘシ

第六條 手数料ハ戸長役場ニ於テ願書ニ與印ヲ爲ストキ之ヲ徵收スヘシ但第四條ノ場
合ニ於テハ區役所ニ於テ願書ヲ受クルトキ之ヲ徵收スヘシ

第七條 地券手数料徵收官區役所會計主務
書記若クハ戸長ハ其徵收シタル手数料ヲ十日毎ニ取纏メ納付
書ヲ添テ所在地ノ金庫國庫金取扱所
現金仕拂所へ送付スヘシ但金庫ナキ地方ニ於テハ毎月一回取
纏メ納付書ヲ添ヘテ便宜ノ金庫へ送付スヘシ

第八條 前項納付書ハ歲入歳出納規則書式第五號ニ據ル

第九條 戸長ニ於テ第七條ノ手續ヲ爲シタルトキハ金庫ノ領收ヲ證シタル納付書ニ納

人ノ明細内譯書ヲ添テ之ヲ郡區役所ニ送付スヘシ
 第十條 第二條ノ場合ニ於テハ所有ノ移轉又ハ指令濟屈濟ノ日ヨリ六十日以内ニ地券
 下附又ハ地券書換ヲ願出ヘシ若シ其期限ヲ經過スルトキハ金一圓九十五錢以下ノ科
 料ニ處ス

○郡區長ニ於テ領收々タル地券下附書換手數料ノ納付書取

扱方 二十年二月十日
大藏省訓令第十號北海道廳府縣

本年省令第一號第九條ニ據リ郡區長ニ領收シタル地券下附書換手數料ノ納付書ハ歲入
 取扱順序第五十六條ニ據リ取扱ヘシ

●伺指令

●地券授與ノ儀ニ付靜岡縣ヨリ大藏省ヘ伺十六年十月二十九日

甲者へ地所ヲ拂下或ハ無代下付シ地券授與前甲者ヨリ右地所ヲ乙者へ讓渡二人連署乙者氏名ノ地券下付ヲ願セ
 ルハ直ニ乙者ニ地券ヲ授與シ苦シカラヌヤ

指令 十六年十一月九日

伺ノ趣一旦甲者へ地券下付シ更ニ乙者へ書換出願セシムヘシ

●地券記入方ノ件ニ付山形縣ヨリ大藏省ヘ伺十九年八月十二日

一荒地ノ券狀ハ單ニ荒地何様ト記載シ元地目ヲ記入セサル雜形ニ付全筆ノ荒地或ハ券面ニテ元地目視ル能ハス故
 ニ取扱上不便ヲ極儀ニ付爾後地券書替ノ都度地番號ノ下へ元地目朱記シ苦シカラヌヤ
 一免租地ハ地租條例第四條ノ地目ニヨリ地券相認ノ儀ニ付テハ鄉村社地(鄉村社)墳墓地(墓火葬場)用水路

(谷水路濕拔溝ノ下水路)ノ如キ地番號ノ下へ現地ノ名稱ヲ朱記シ然ルヘキヤ

指令 十九年八月二十日

書面ノ趣總テ意見ノ通取計苦シカラヌ

●地券書換證印稅徵收ノ儀ニ付福岡縣ヨリ大藏省ヘ伺十六年七月廿四日

地所賣買讓渡(代替ヲ除ク)等ニ依リ地券書換出願中破約セシテ以下戻ヲ請フニ郡役所ニ於テハ既ニ書換手續
 タル後アレハ又之カ書換ヲ爲サハルヲ得ス斯ノ如キモノ、證印稅ハ最初ノ書換ハ(賣買讓渡ノ名義ヲ以テ結了シ
 タルモノナレハ)券面地價ニ據リ徵收シ再度ノ書換ハ(破約ニ歸シタル後全ク更正ノ書換ナレハ)一通三錢徵收ス
 ヘキヤ又ハ前後兩度トモ三錢宛徵收シ然ルヘキヤ右相伺候也

指令 十六年八月八日

最後書換ニ係ル證印稅三錢ヲ徵收スルニ止ムヘキ儀ト可相心得事

●證印稅徵收方ノ儀ニ付兵庫縣ヨリ大藏省ヘ伺十七年四月二十三日

戶主死亡跡中家督相續シ地券書換ノ後乙其相續ヲ不當ナリト申出所裁判ノ末乙相續人ニ確定シ地券書換出願セハ
 普通代替讓與ノ例ニ據リ印稅徵收シ然ルヘキヤ又ハ甲相續ノ際相當ノ手續ヲ經テ書換タル地券ナルニ其後彼我ノ
 争ヒヨリ得タルヲ以テ親族讓與ノ例ニ據リ印稅徵收シ然ルヘキヤ

指令 十七年五月五日

前段申出ノ通

●地券下付書換出願期限ノ件ニ付神奈川縣ヨリ大藏省ヘ伺 二十年一月二十四日
(同年二月十日官報)

本年一月省令第一號第二條ニ該當スル各種類ノ中地目變換開墾等ノ如キ屬屆濟後更ニ實地檢査ヲ受ケ段別地價ノ
 確定後ニ非レハ地券ノ書換ヲ願出ツル不能ハサルモノハ該確定ノ日ヨリ起算シ同令第十條ヲ適用スヘキ儀ト心
 得ヘキヤ

指令 二十年二月五日
地目變換届出ノ者ハ段別及修正地價確定ノ上本人ハ遷示ノ日開墾届出ノ者ハ其指令本人ハ下附ノ日ヨリ起算スル
儀ト心得ヘシ

●地券下付書換手数料ノ件ニ付新潟縣ヨリ大藏省ヘ伺 (二十年一月二十八日 (同年二月十日官報))

省令第一號地券下付書換手續及手数料第二條一項中所有者姓名變更トアルハ改姓名又ハ自己所有ノ土地ヲ僥帶シ
他家ノ簽子トナリタルトキ該券面ハ書換下付スヘキモノニシテ朱書訂正ハ不相成ヤ果シテ然ラハ轉居或ハ分合村
ニヨリ其所籍ヲ異ニスルモ總テ地券ヲ書換手数料ヲ徵收ス可キ儀ト心得ヘキヤ

指令 二十年二月五日
伺ノ趣改姓名等ノモノハ便宜朱書更正シカラス轉居又ハ分合村ハ朱書訂正ニ止メ手数料收入ニ及ハス

●地券下付書換手續ノ件ニ付愛知縣ヨリ大藏省ヘ伺 (二十年二月一日 (同月十九日官報))

本年一月省令第一號地券下付書換手續及ヒ手数料取扱上疑義ノ際左ニ

第一項 第五條ニ地券下付書換手續ノ件ハ手数料金三錢ヲ納ムヘシトアリ然ルニ本令施行以前既ニ戶長ニ於テ
賣買讓與ノ證書ニ公證簿該證書ニ戶長與印ノ手續ヲ經タルモ戶長ヨリ進達方運延二月一日後ニ所轄郡衙ヘ到發
シタルモノ、如キハ已ニ舊法ニヨリ其手續ヲ了シ人民ノ手許ハ離レタルモノニ付縱令二月一日後郡衙ヘ受理ス
ルモ舊法ニヨリ封印稅徵收シ然ルヘキヤ

第二項 前項果シテ封印稅徵收スルモノトスレハ例ヘハ戶長ノ公證ヲ受ケ置若書換出願チ意リ二月一日後初メ
テ戶長役場ヘ出願シタルモノ、如キハ其實舊法ノ手續ヲ了シタルモノニテ前項ニ對シ聊不權衡ノ感アリト雖モ
出願方二月一日後ナルヲ以テ無論手数料三錢ノミ徵收シ然ルヘキヤ
指令 二十年二月五日
地券下付書換手續ノ件ニ至リ郡衙ヘ願書受理スルモノハ省令第一號ニ據ルヘシ

第二百二章 田畑石高ノ稱ヲ廢シ反別ヲ以テ換用ス

明治六年六月八日 第四百九拾四號布告

第二百三章 歲入出納規則

十九年三月六日(三月八日布告) 關令第三號各府縣

歲入歲出出納規則左ノ通制定シ來ル十九年度ヨリ施行ス

第一章 總則

第一條 此規則ニ據クル歲入トハ每年裁定セラレタル豫算ニ據リ國庫常用部ヘ收入ス
ル所ノモノニシテ分テ二部トス但特別ノ收入ニシテ整理上部門ヲ分ツテ必要トスル
トキハ之ヲ加フルコトアルヘシ

第一部 租稅

第二部 手数料ノ性質ヲ以テ徵收スル諸收入、官有ノ財產物品ヨリ生スル諸收入、
官業益金、罰金科料沒收金ノ類、諸貸付若クハ過渡等ノ返納金、特別ノ事務
ニ宛ル諸寄付金等總テ租稅外ノ收入

第二條 此規則ニ據クル歲出トハ每年裁定セラレタル豫算ニ據リ國庫常用部ヨリ支出
スル所ノモノニシテ分テ三部トス

但特別ノ經費ニシテ整理上部門ヲ分ツテ必要トスルキハ之ヲ加フルコトアルヘシ

第一部 國債元利、年金、恩給、諸祿ノ類

第二部 帝室御用度、神社ノ諸費

第十二章 租稅及貨紙幣公債區町村費

第三部 各廳ノ經費

第三條 此規則ニ於テ納入ト稱スルハ戶長、各納稅者、其他政府ニ對シ仕拂ノ義務ヲ有スル者ヲ云

第四條 此規則ニ於テ受取人ト稱スルハ官吏、會社、一人ノ別ナク總テ政府ヨリ仕拂ヲ受クヘキ權利ヲ有スル者ヲ云

第五條 此規則ニ掲クル金庫トハ大藏省金庫局其出張所及國庫金出納所ヲ云フ

第六條 金庫ノ出納ハ臨時急施ヲ要スルモノヲ除クノ外總テ大藏大臣ノ指定スル開庫時間ニ限ル

第七條 此規則ニ稱スル收支命令官トハ明治十四年第三十六號達及特別ノ制規ニ據リ定メタル金銀物品收支命令ノ權ヲ有スル當該官ヲ云

第八條 帝室御用度ハ内藏頭ノ請求ニ依リ現金ヲ内藏寮ニ交付シ其出納ハ別段ノ規則ニ據ルモノトス

第二章 出納ノ開閉

第九條 一會計年度每年四月一日ヨリ翌年三月三十一日マテニ属スル歳入歳出ノ出納ハ第十條第十一條第十二條ノ場合ヲ除キ總テ毎年四月一日ヲ以テ開始ス

第十條 特別ノ制規ニ據リ俸給等ノ前渡ヲ要スルトキハ出納ノ開始前ニ於テ支出ヲ爲スコトヲ得

二十年二月閣令第二號
阿區府庫金以
取取所庫金
出納所庫金
取納所庫金

三十四年
三十六號
事務上各
會計主務
官定方途
分掌方途
ナリ

第十一條 在外各廳ノ經費、金庫仕拂所ナキ地方各廳ノ經費、外國派出官吏及留學生等ノ經費送付ノ爲メ前年度十二月一日以降特ニ支出ヲ爲スコトヲ得

第十二條 前二條ノ外旅費手當ノ如キ支給ノ方法ニ由リ前年度内ニ支出スルノ必要ナルモノアルトキハ出納開始前ニ支出ヲ爲スコトヲ得

第十三條 各廳ニ於テ會計年度内ニ於テ歳出ノ仕拂ヲ結了セサルモノハ整理ノ爲メ翌年度八月三十一日マテ該會計年度ニ属スル支出ヲ爲スコトヲ得

第十四條 在外各廳及現金ヲ出納スル各廳ハ三月三十一日以後ハ該會計年度ニ属スル收支ヲ執行スルコトヲ得ス但概算支出ノ精算ノ爲メニ必要ナルトキハ翌年度五月三十一日マテ特ニ收支ヲ爲スコトヲ得

第十五條 金庫ニ於テハ毎年度會計整理ノ爲メ翌年度十一月三十日マテ出納ヲ爲スコトヲ得

第三章 歳入

第十六條 歳入ニ係ル現金ノ收納ハ總テ大藏大臣之ヲ管理シ各廳ノ收支命令官ハ其徴收ヲ監視シ現金ハ直ニ金庫ニ收納スルモノトス但左ニ掲クル各項ノ收入ハ現金ヲ各廳ニ收納スルコトヲ得

第一項 郵便收入

第二項 電信收入

第三項 公賣處分ニ依リ收入スル税金、過料、沒收金、手数料ノ類

第四項 在外各廳ノ收入金

第五項 諸寄付金ノ類

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

第十七條 前條但書ノ外臨時非常ノ場合若クハ特別避クヘカラサル場合ニ於テハ現金ヲ各廳ニ收納スルコトヲ得但其場合ニ於テハ即時其旨ヲ收支命令官ヨリ大藏大臣ニ報告スヘシ

第十八條 歳入ハ徵稅令書若クハ納額告知書ヲ發シテ之ヲ徵收スルモノトス但第十六條但書ノ收入ニシテ各廳ニ現金ヲ收納スルトキハ此限ニアラス

第十九條 第一部歳入中内國稅ヲ徵收スルトキハ北海道廳長官若クハ府知事縣令ノ命令ニ據リ郡區長ヨリ戶長若クハ各納稅者ニ對シ徵稅令書ヲ發スルモノトス

第二十條 戶長ハ徵稅令書ヲ受タルトキハ其町村一人別納額元帳ニ據リ各納稅者ニ徵稅傳令書ヲ發スルモノトス

第二十一條 第一部歳入中關稅及第二部歳入中稅關ノ諸收入ヲ徵收スルトキハ大藏大臣ノ命令ニ據リ稅關長ヨリ各納人ヘ納額告知書ヲ發スルモノトス

第二十二條 第二部歳入稅關ノ徵收ヲ徵收スルトキハ各廳ノ收支命令官ノ命令ニ據リ會計主務官ヨリ各納人ヘ納額告知書ヲ發スルモノトス

第二十三條 第一部歳入中納期ヲ豫定シタルモノハ納期ノ十五日以前納期日ノ數日ニ涉ル日以前以下同シニ其隨時納期ヲ定ムルモノハ其都度徵稅令書若クハ納額告知書ヲ發スヘシ但納期ヲ豫定シタルモノト雖モ稅則ニ因リ十五日ノ猶豫ナキモノハ此限ニアラス

第二十四條 戶長ハ徵稅令書ヲ受領シタルトキハ納期日以前ニ各納稅者ニ徵稅傳令書ヲ發シ稅金ヲ取纏ムヘシ

第二十五條 第二部歳入中納期ヲ豫定シタルモノハ納期ノ十日以前ニ其隨時納期ヲ定ムルモノハ其都度納額告知書ヲ發スルモノトス

第二十六條 關稅、稅關ノ諸收入及物品ヲ以テ徵收スルモノ又ハ第十六條但書ニ屬スルモノヲ除キ其他ノ歳入ハ總テ納人ヲシテ現金ヲ金庫ニ納付セシムヘシ

第二十七條 第十六條但書ノ第一項第二項第三項第五項及第十七條ノ如キ各廳ニ現金ヲ收納スルモノハ毎日之ヲ取纏メ歳入ノ各目ニ區別シタル納付書ヲ添ヘ翌日マテニ其取扱主任官ヨリ金庫ヘ納付スヘシ但金庫ニ遠隔ナル地方ノ各廳ニ收納スル現金納付ノ方法ハ大藏大臣特ニ之ヲ定ムヘシ

第二十八條 第二十六條ニ據リ納人ヲシテ現金ヲ金庫ニ納付セシムルニハ同時ニ徵稅令書若クハ納額告知書ヲ持參セシムヘシ

第二十九條 金庫ニ於テ納人ヨリ歳入ヲ領收スルトキハ其持參シタル徵稅令書若クハ納額告知書ニ領收ノ證ヲ記シ之ヲ納人ニ交付スヘシ但第二十七條ノ場合ニ於テハ納付書ニ領收ノ證ヲ記シ還付スルモノトス

第三十條 戶長ニ於テ取纏メタル稅金ハ翌日マテニ之ヲ金庫ニ納付スヘシ但相當ノ保護法ヲ設クルトキハ納期前ニ限り一千圓以下五百圓マテハ五日間五百圓未滿ハ七日間之ヲ其役場ニ留ムルコトヲ得

第三十一條 關稅及稅關ノ諸收入ハ納人ヲシテ現金ヲ金庫ニ預ケシメ其預リ證書ヲ以テ稅關ヘ納付セシムヘシ

第三十二條 税關長ハ其領收シタル關稅及稅關ノ諸收入ヲ取纏メ毎月三回之ヲ金庫へ送納スヘシ

第三十三條 各廳ノ收支命令官ハ歲入ノ過納、誤納若クハ印紙類ノ返納ニ由リ既納ノ歲入下戻ヲ要スルトキハ其事由ヲ具シ其拂戻ヲ大藏大臣ニ請求スヘシ

第三十四條 物品ヲ以テ歲入ヲ徵收スル方法ハ別ニ之ヲ定ム

第四章 歲出

第三十五條 歲出ニ係ル現金ノ仕拂ハ總テ大藏大臣之ヲ管理シ其所管金庫ニ於テ仕拂ヲ執行スルモノトス但左ニ掲クル各項ノ經費ハ各廳ノ請求ニ依リ大藏大臣ハ現金ヲ各廳ニ交付スルコトヲ得

第一項 在外各廳ノ經費

第二項 陸軍ノ行軍費

第三項 海軍ノ航海費

第四項 外國ニ於テ使用スル各廳ノ經費

第五項 燈臺巡回船ノ航海費

第六項 機密費

第七項 運輸通信ノ便小ナキ島嶼其他金庫ノ設置ナキ地方ニ在ル各廳ノ經費

第三十六條 前條但書ノ外臨時非常ノ場合若クハ特別遊クヘカラサル場合ニ於テハ大藏大臣ハ現金ヲ各廳ニ交付スルコトヲ得

第三十七條 毎年豫算ノ裁定アルトキハ各廳ノ收支命令官ハ一週年度中ニ係ル經費ノ月額ヲ豫定シ仕拂場所ノ仕譯書ヲ製シ豫算裁定ノ達ヲ受タル後十五日以内ニ之ヲ大藏大臣へ送付シ其承認ヲ受クヘシ但其支出期節ノ豫定シ難キモノ及第一部歲出ハ此

二十年五月十五日
第五號
第三條
第二部
第三字ヲ刪

限ニアラス

第三十八條 前條歲出仕譯書ノ承認ヲ受タル後期節若クハ金額ノ變更ヲ要スルトキハ更ニ大藏大臣ノ承認ヲ受クヘシ

第三十九條 第三十七條但書中支出期節ノ豫定シ難キモノハ其支出ヲ要スル毎ニ大藏大臣ノ承認ヲ受クヘシ

第四十條 各廳ノ收支命令官ハ第三十七條第三十八條第三十九條ノ承認ヲ受クル後ニアラサレハ支出ヲ命令スルコトヲ得ス但毎會計年度ノ初メ一箇月分毎年四月ハ各目ノ

豫算金額十二分ノ一ニ超エサレハ承認ヲ受ケサルモ支出ヲ命令スルコトヲ得

第四十一條 各廳ニ於テ支出スル所ノ經費ハ第三十五條但書第三十六條ノ場合ヲ除キ總テ仕拂切符ヲ以テ之ヲ仕拂フモノトス

第四十二條 前條ノ經費ヲ仕拂フトキハ收支命令官ノ命令ニ依リ會計主務官ハ各受取人ニ對シ仕拂切符ヲ發シテ之ヲ交付スルモノトス

第四十三條 仕拂切符ノ仕拂期限ハ振出ノ日ヨリ滿九十日ヲ超ユヘカラス

第四十四條 仕拂切符ハ一日毎ニ之ヲ發シ數目ヲ合スルコトヲ得ス

第四十五條 仕拂切符ヲ發付シタル會計主務官ハ其切符ヲ發スルト同時ニ該仕拂切符ニ指名シタル金庫へ案内書ヲ發スヘシ

第四十六條 仕拂切符ニ指名セラレタル金庫ハ其切符持參人ニ對シテ即時ニ表面ノ金額ヲ仕拂フモノトス但仕拂切符ノ日付後九十日ヲ過キタルモノハ第四十七條第四十

第十二條 租稅及貨銀幣公債國庫券

八條ニ據リ之ヲ處分スヘシ

- 第四十七條 金庫ニ於テ仕拂切符ノ日付後九十日ヲ過キタルモノヲ發見シタルトキハ該仕拂切符所有者ヲシテ其發行廳ニ仕拂切符ノ交換ヲ請求セシムヘシ
- 第四十八條 各廳ハ前條ノ請求ヲ受ルキハ更ニ仕拂切符ヲ發シ之ヲ交付スルモノトス
- 第四十九條 金庫ハ仕拂ヲ請求セラレタル仕拂切符若シ成規ニ違フコトアルカ若クハ案内書ト符合セサルコトアリト認ムルトキハ其事由ヲ該仕拂切符持參人ニ告ケ預リ證書ヲ發シテ該切符ヲ留置キ即時ニ其旨ヲ該切符ニ記名ノ會計主務官ニ通牒スヘシ
- 第五十條 前條ノ場合ニ於テ金庫ハ會計主務官ニテ仕拂切符又ハ案内書ヲ訂正スルカ若クハ其切符ノ正當ナルヲ保證スルニアラサレハ之ヲ仕拂フコトヲ得ス
- 第五十一條 第三十五條ノ第一項第四項第七項ノ經費金遞送ヲ要スルトキハ各主管廳ノ收支命令官ヨリ請求書ヲ大藏大臣ヘ送付シテ送金ヲ請求スヘシ
- 第五十二條 前條ノ經費ハ一回ニ年額四分ノ一以内ヲ交付スルモノトス但臨時ノ費途ニシテ一時ニ支出ヲ要スルモノハ此限ニアラス
- 第五十三條 豫算ノ裁定前ニ於テ第五十一條ノ經費發送ヲ要スルトキハ前年度ノ豫算額ニ據リ送付ノ金額ヲ定ムルモノトス但臨時ノ費途ハ此限ニアラス
- 第五十四條 大藏大臣ハ第五十一條ノ請求ヲ受クルトキハ金庫ヲシテ一箇月以内ニ其指定セラレタル出納主任官ヘ現金ヲ發送セシムルモノトス
- 第五十五條 第三十五條ノ第二項第三項第五項第六項ノ經費金ヲ受取ントスルトキハ

各主管廳ノ收支命令官ハ請求書ヲ大藏大臣ヘ送付シ其交付ヲ請求スヘシ

第五十六條 大藏大臣ハ前條ノ請求ヲ受クルトキハ金庫ヲシテ其指定セラレタル出納主任官ヘ現金ヲ交付セシムルモノトス

第五十七條 各廳ノ收支命令官ハ第十條第十二條ノ支出ヲ爲サントスルトキハ事由ヲ具シテ其仕拂ヲ大藏大臣ニ請求スヘシ

第五十八條 各廳ノ本廳外ノ地ニ在ル小支部局若クハ出張官吏等ヘ經費金ヲ遞送セントスルトキハ會計主務官ヨリ仕拂切符ヲ發シ金庫ヘ送付シ送金ヲ請求スヘシ

第五十九條 國庫常用部ヨリ會計ノ取扱ヲ與ニスルモノヘ支出スル經費ハ主管廳ノ請求ニ據リ大藏大臣ハ直ニ金庫ヨリ現金ヲ仕拂ハシムルモノトス

第六十條 國債元利ノ仕拂ヲ爲ストキハ大藏大臣ハ其豫定金額ヲ北海道廳府縣廳ヘ達シテ其仕拂ヲ執行セシムルモノトス但銀行ヲシテ取扱ハシムル國債元利ノ仕拂ハ其取扱銀行ヘ金額ヲ交付シテ之ヲ執行セシム

第六十一條 國庫常用部ヨリ國庫中他ノ部^{準備部}ヘ支出スルモノハ裁定ノ豫算ニ基キ大藏大臣ノ命令ニ據リ直ニ之ヲ移スモノトス

第六十二條 各廳ノ收支命令官ハ會計年度經過後ニ於テ其會計年度ノ支出ニ屬スヘキ契約ヲ爲スコトヲ得ス

第六十三條 各廳ニ於テ既ニ仕拂タル金額ノ内返納ヲ要スルトキ若クハ第三十五條但書及第三十六條ニ據リ現金ヲ受取リ仕拂殘餘アルトキハ即日之ヲ金庫ヘ納付シ廳中

ニ留ムルコトヲ得ス但第三十五條第一項第七項ノ場合ハ此限ニアラス
第六十四條 金庫ハ大藏大臣ノ命令ヲ受クルニアラサレハ一切仕拂ヲ執行スルコトヲ得ス

第五章 報告

第六十五條 毎年豫算ノ裁定アルトキハ各廳ノ收支命令官ハ一週年度中ニ係リ歳入ノ月額豫算表ヲ製シ豫算裁定ノ達ヲ受タル後十五日以内ニ之ヲ大藏大臣ヘ報告スヘシ但收入期節ノ豫定シ難キモノハ此限ニアラス

第六十六條 郡區長ハ第十九條ニ據リ徵稅令書ヲ發シタルトキハ之ヲ北海道廳長官若クハ府知事縣令ヘ報告スヘシ

第六十七條 北海道廳長官、府知事、縣令ハ前條郡區長ノ報告ニ據リ其徵稅額表ヲ製シ納期ヲ豫定シタル租稅ハ徵稅令書發付後十五日以内ニ隨時納期ヲ定ムルモノハ毎月取纏メ翌月十五日マテニ之ヲ大藏大臣ヘ報告スヘシ

第六十八條 金庫ハ各納人ヨリ收入金ヲ領收シタルトキハ毎日之ヲ其徵稅令書若クハ納額告知書ヲ發シタル廳ヘ報告スヘシ但官廳ヨリ收入金ヲ領收シタルトキハ此限ニアラス

第六十九條 稅關長ハ第三十二條ニ據リ關稅及稅關ノ諸收入ヲ送付スルトキハ同時ニ之ヲ大藏大臣ヘ報告スヘシ

第七十條 各廳ノ收支命令官ハ毎月其徵收セシメタル歳入ノ報告書ヲ製シ翌月十五日

二十一年三月十五日
第五號令
二月十七日
第一號令
行

マテニ之ヲ大藏大臣ヘ送付スヘシ但關稅及稅關ノ諸收入ハ此限ニアラス

第七十一條 各廳ノ收支命令官ハ毎月其支出セシメタル歳出ノ報告書ヲ調製シ翌月十五日マテニ之ヲ大藏大臣ヘ送付スヘシ

第七十二條 在外各廳ノ分任收支命令官ハ每會計年度初月ヨリ三箇月毎ニ歳出報告書ヲ主管廳長官ヘ送付スヘシ

第七十三條 本廳外ニ在ル支部局ノ分任收支命令官ハ第七十一條ノ期月マテニ毎月ノ歳出報告書ヲ主管廳長官ヘ送付スヘシ

第七十四條 前二條ニ據リ送付シタル歳出報告書ハ主管廳ノ收支命令官ヨリ其到達後三日以内ニ之ヲ大藏大臣ヘ送付スヘシ

第七十五條 現金ヲ出納スル所ノ出納主任官ハ現金ノ受拂ヲ大藏省主計局長ヘ報告スヘシ

第七十六條 前條ノ報告期節ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 在外各廳ノ收入及經費機密費及金庫仕拂所ナキ地方各廳ノ經費ノ報告ハ毎月分ヲ翌月十日マテニ發達ス
二十年二月閣令第二號
ニテ現金ヲ金庫ト改ム

一 陸軍ノ行軍費ノ報告ハ行軍終ル後十五日以内ニ發送ス

一 海軍ノ航海費、燈臺巡回船ノ航海費ノ報告ハ航海終ル後十五日以内ニ發送ス

第七十七條 各廳ノ收支命令官ハ會計年度内ニ於テ歳入ノ徵收若クハ歳出ノ仕拂ヲ完了セサルモノアルトキハ其報告書ヲ製シ年度後十五日以内ニ之ヲ大藏大臣ヘ送付ス

ヘシ但所在地ノ隔離スル郡區役所若クハ支部局ニ係ルモノハ年度後一箇月内ニ取纏
メ之ヲ送付スヘシ

第七十八條 各廳ノ收支命令官ハ會計ノ整理期限翌年度八月三十一日内ニ於テ歳出ノ支出ヲ完了
セサルモノアルトキハ其報告書ヲ製シ翌年度十月三十一日マテニ之ヲ大藏大臣ヘ送
付スヘシ

第七十九條 各廳ノ收支命令官ハ翌年度十一月三十日マテニ歳入ノ徴收ヲ完了セサル
モノアルトキハ其報告書ヲ製シ十二月三十一日マテニ之ヲ大藏大臣ヘ送付スヘシ

第八十條 會計主務官ハ會計ノ整理期限マテニ概算支出ノ精算未済ノモノアルトキハ
其報告書ヲ製シ翌年度九月三十日マテニ之ヲ大藏省及會計検査院ヘ送付スヘシ

第八十一條 郡區役所又ハ支部局ノ所在地遠隔ニシテ第六十七條第七十條及第七十七
條但書ノ報告期節ニ其報告ヲ取纏メ難キ場合ニ於テハ其旨ヲ大藏大臣ニ開申シ追表
ヲ製シテ別ニ之ヲ報告スヘシ

第六章 雜則

第八十二條 此規則ニ掲クル仕譯書、請求書、月額豫算表、計算書、報告書、徵稅令書、納額
告知書、仕拂切符等ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ム

第八十三條 此規則ニ關スル事務取扱ノ手續ハ大藏大臣之ヲ定ム

第八十四條 現行法規中此規則ニ牴觸スル條項ハ廢止ス

○歳入取扱順序

十九年三月十八日
大藏省令第四號

閣令第三號歳入歳出納規則第八十三條ニ據リ歳入取扱順序別冊ノ通之ヲ定ム

別冊

歳入取扱順序

第一章 主管廳及支部局

內國稅

第一條 北海道廳長官府知事縣令ハ毎年達セラレタル豫算額ニ據リ前々年度以前三ヶ
年間該當月ニ收入シタル平均額ト其豫算額トヲ標準トシ一週年度中ニ係ル內國稅ノ
月額豫算表ヲ第十七號甲書式ニ據リ調製シ規則第六十五條ニヨリ之ヲ大藏省ヘ送付
ス

第二條 北海道廳長官府知事縣令ハ規則第十九條ニヨリ徴收命令ヲ郡區長ヘ下スニハ
租稅ノ種類ニ依リ其廳ノ便宜ニ從ヒ或ハ豫算ニ基キ豫メ之ヲ發シ或ハ隨時ニ之ヲ發
ス

第三條 北海道廳長官府知事縣令ハ郡區長ヨリ規則第六十六條ノ報告ヲ得タルトキハ之
ヲ取纏メ第十八號書式ニ據リ徵稅額表ヲ製シ規則第六十七條ニヨリ之ヲ大藏省ヘ送
付ス

第四條 北海道廳長官府知事縣令ハ郡區長ヨリ順序第四十八條ノ徵收濟報告書ヲ得タ
ルトキハ毎月分ヲ取纏メ第二十號甲書式ノ歳入報告書ヲ製シ規則第七十條ニヨリ大

第十二條 租稅及貨運價公債區町村費

二十年六月二日
大藏省令
前大藏省
令中藏省
取支所金
部アル本
四月一
日納國
所庫

第十七條 前條ノ委託ヲ受ケタル收支命令官ハ分任收支命令官ノ地位ニアルト均シク徵收ヲ取扱フモノナレニ處務ノ便宜上必要トスレハ更ニ部下ノ官吏ニ收支ノ命令ヲ分任ス

第十八條 納入ノ隔地ニ散在スルカ爲メ部下ノ廳ヲシテ徵收ヲ監督セシムル場合ニ於テハ收支命令官ハ會計主務官ヲシテ順序第十二條ニヨリ調製シタル納額告知書ヲ其廳ニ送付セシメ其廳ニ於テ各納入ノ配付セシム

第十九條 前條ニ據リ主管廳ヨリ納額告知書ノ配付ヲ命セラレタル部下ノ廳ハ主管廳ノ定メタル帳簿式ニ據リ徵收監査簿ヲ備ヘ置キ之ニ登記シ其納額告知書ノ裏面ニ配付ノ年月日ヲ記入シ廳印ヲ捺シ上納正副書用紙ノ裏面ニハ廳印ノミヲ捺シ之ヲ納入ニ交付ス

第二十條 納額告知書ノ配付ヲ命セラレタル廳ニ於テハ金庫ヨリ順序第八十三條ニ據リ送付シタル上納副書ヲ受クルルハ之ヲ徵收監査簿ニ照合シ納濟ノ記入ヲナス

第二十一條 納額告知書ヲ配付シタル廳ハ金庫ヨリ送付シタル上納副書ヲ取觀メ主管廳ノ定メタル期節ニ之ヲ主管廳ニ送付ス

第二十二條 會計主務官又ハ其代理官ハ金庫ヨリ順序第七十四條ニ據リ上納副書ヲ送付セラレ又ハ上納副書ヲ取觀メタル廳ヨリ前條ニ據リ上納副書ヲ送付セラレタルハ之ヲ納額臺帳ニ照合シ該臺帳ニ納濟ノ記入ヲナス

第二十三條 會計主務官又ハ其代理官ハ毎月納濟ノ金額ヲ取調ヘ歳入徵收濟調書ヲ製シ之ヲ收支命令官又ハ分任收支命令官ニ報告ス

第二十四條 收支命令官ハ前條ノ報告ニ據リ第二十號乙書式ノ歳入報告書ヲ製シテ規則第七十條ニ據リ之ヲ大藏省ニ送付ス

第二十五條 分任收支命令官ハ順序第二十三條ノ報告ニ據リ第二十號乙書式ニ準シ歳入報告書ヲ製シテ之ヲ主管廳ニ送付ス

第二十六條 主管廳ノ收支命令官ハ前條ノ報告書ヲ受クルトキハ査閱ノ後之ニ記名捺印シテ大藏省ニ送付ス

第二十七條 收支命令官ハ既納ノ歳入下戻ヲ要スルトキハ第六號書式ニ準シ計算書ヲ製シテ規則第三十三條ニ據リ其下戻ヲ大藏省ニ請求ス

第二十八條 分任收支命令官ハ既納ノ歳入下戻ヲ要スルトキハ事由ヲ具シテ主管廳ノ收支命令官ニ開中ス

第二十九條 收支命令官ハ大藏省ヨリ既納金拂戻ノ認可ヲ受クルルハ第六條ノ順序ニ據リ執行ス

第三十條 會計主務官又ハ其代理官ハ金庫ヨリ上納副書若クハ領収ヲ證シタル納付書ヲ受クルトキ年度又ハ科目ノ誤記ヲ發見スルトキハ收支命令官又ハ分任收支命令官ニ具申シ其命令ニヨリ即時金庫ニ照會シテ之カ訂正ヲ請求ス

第三十一條 在外各廳ニ於テ現進ヲ出納スル所ノ出納主任官ハ歳入歳出ノ現金ヲ合セテ取扱タルトキハ第二十二號申書式ニ據リ歳入ノミ取扱タルトキハ第二十二號乙書式ニ據リ規則第七十五條第七十六條ニ據リ報告書ヲ製シテ之ヲ大藏省ニ送付ス